

CZ-483-02



\*1200901599478\*

14.7  
407

# Kodak Gray Scale



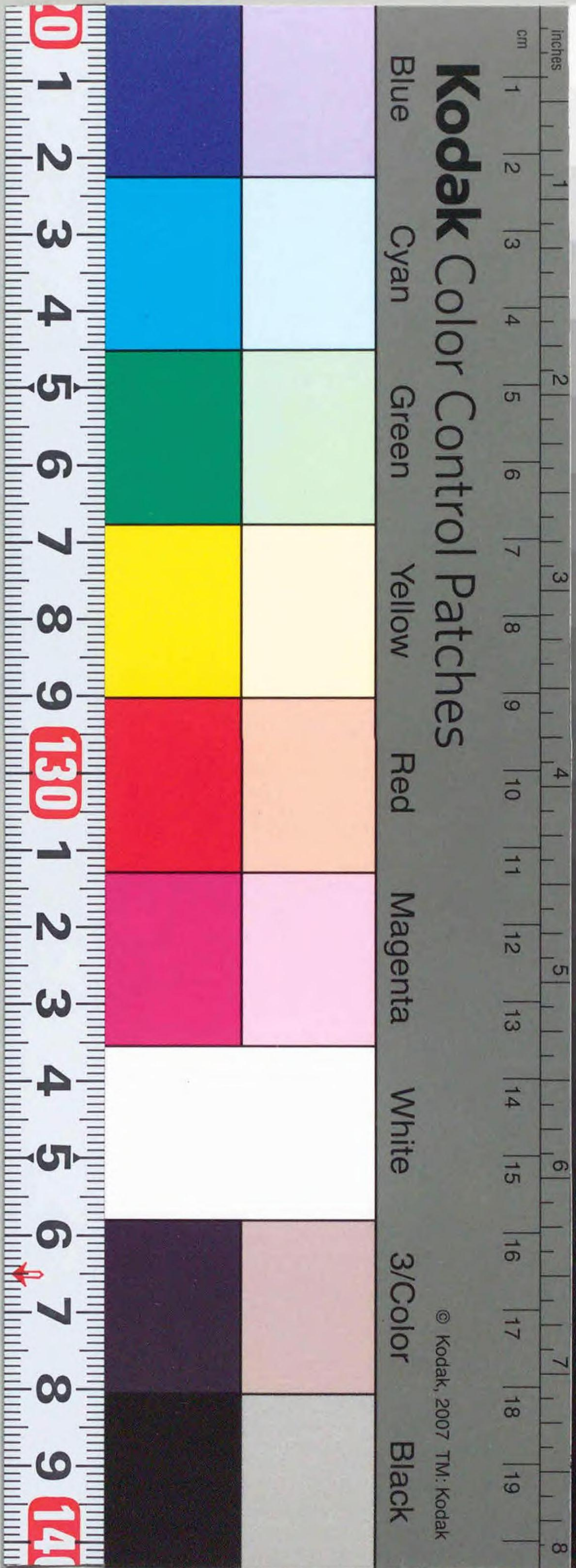
© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

# Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak





3.7.3



昭和二年十月

航空法規集

遞信省航空局



C2  
483  
02



昭和二年十月

一、本書ハ航空法、同法施行規則其ノ他現行航空關係法規  
類ヲ輯録シタルモノナリ  
一、本書ヲ印刷ニ附シタルハ閱覽及執務ノ便宜上筆寫ニ  
代ヘタルニ止マリ之ヲ公刊スルノ趣旨ニアラス

凡例

遞信省航空局





147-407

目次

航空法……………(大正十年四月八日法律第五十四號)……………一頁

航空法施行期日ノ件……………(昭和二年五月四日勅令第四百號)……………一六

航空法施行規則……………(昭和二年五月五日遞信省令第八號)……………一七

航空機検査規則……………(昭和二年五月五日遞信省令第九號)……………八五

航空機乗員試験規則……………(昭和二年五月五日遞信省令第十號)……………一六四

航空機乗員體格検査規則……………(昭和二年五月五日遞信省令第十一號)……………一七五

三等飛行機操縦士免許規則……………(昭和二年五月五日遞信省令第十二號)……………一八〇

航空法施行規則第二百二十六條ノ規定ニ依ル航空日誌ノ書式……………(昭和二年五月卅一日遞信省告示第三百十二號)……………一九二

航空法施行規則第二百二十七條ノ規定ニ依ル航空機乗員手帖ノ書式……………(昭和二年五月卅一日遞信省告示第三百十三號)……………二〇三

航空検査規則……………(昭和二年八月五日內務省令第卅七號)……………二一〇

航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則……………(昭和二年六月三日大藏省令第十五號)……………二一六

稅關手数料額ノ件……………(明治三十五年七月十一日大藏省令第十七號)……………二二〇

航空法第三十八條ノ規定ニ依リ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ對スル地租免除ノ施行方……………(昭和二年六月七日大藏省令第十七號)……………二二二





航空法施行ニ關スル件(朝鮮).....	(昭和二年六月一日朝鮮總督府令第五十六號).....二二三
航空法特令(朝鮮).....	(昭和二年六月一日朝鮮總督府令第五十七號).....二二四
航空日誌及航空機乘員手帖ノ書式(朝鮮).....	(昭和二年六月二十三日朝鮮總督府告示第三百三號).....二二五
航空法施行規則(臺灣).....	(昭和二年六月一日臺灣總督府令第二十八號).....二二五
航空機檢査規則(臺灣).....	(昭和二年六月一日臺灣總督府令第二十九號).....二二六
航空機乘員試驗規則(臺灣).....	(昭和二年六月一日臺灣總督府令第三十號).....二二六
航空機乘員體格檢査規則(臺灣).....	(昭和二年六月一日臺灣總督府令第三十一號).....二二六
三等飛行機操縦士免許規則(臺灣).....	(昭和二年六月一日臺灣總督府令第三十二號).....二二六
關東州ニ於ケル航空ニ關スル件(關東州).....	(昭和二年八月十五日勅令第二百六十七號).....二二九
航空機操縦士養成規則.....	(大正十三年十一月廿五日遞信省令第五十七號).....二三〇
航空機關士養成規則.....	(大正十三年十月十五日遞信省令第四十二號).....二三九
航空獎勵規則.....	(大正九年十二月廿四日陸軍省令第四十號).....二四九
附 錄	
遞信省官制.....	(明治卅一年十月廿二日勅令第二百九十五號).....二五一
遞信省分課規程拔萃.....	(大正十三年十一月廿五日公達第九百七十二號).....二五五

朝鮮總督府遞信官署官制拔萃.....	(明治四十五年三月二十八日勅令第三十號).....二五六
關東廳遞信官署官制拔萃.....	(大正九年十月二十三日勅令第五百二號).....二五七
外務省分課規程拔萃.....	(大正十三年十二月二十三日官報).....二五八
陸軍省官制拔萃.....	(明治四十一年十二月十八日勅令第三百十四號).....二五九
陸軍航空本部令.....	(大正十四年四月二十七日勅令第四百四十九號).....二六一
陸軍航空本部事務分掌規程.....	(大正十四年五月四日陸達第二十三號).....二六三
陸軍飛行學校令.....	(大正十四年四月廿七日軍令陸第七號).....二六五
海軍省官制拔萃.....	(大正五年三月卅一日勅令第三十七號).....二七〇
海軍航空本部令.....	(昭和二年四月二日勅令第六十一號).....二七二
海軍航空本部處務規程.....	(昭和二年四月五日海軍省達第二十五號).....二七四
海軍航空隊令.....	(大正十年四月廿八日軍令海第一號).....二七六
海軍航空隊規則.....	(大正十一年十月廿七日海軍省達第九十二號).....二八一
佐世保海軍航空隊廣分遣隊規則.....	(大正十四年二月廿七日海軍省達第二十八號).....二八二
海軍技術研究所令拔萃.....	(大正十二年三月廿四日勅令第五十二號).....二八三
海軍技術研究所處務規程拔萃.....	(大正十二年三月廿六日海軍省達第五十號).....二八三



文部省分課規程拔萃……………(大正二年六月十八日官報)……二八三

氣象臺官制拔萃……………(大正九年八月廿五日勅令第二百九十四號)……二八四

航空研究所官制……………(大正十年七月九日勅令第三百十號)……二八四

航空評議會官制……………(大正十年七月九日勅令第三百十一號)……二八六

無線電信法……………(大正四年六月二十一日法律第二十六號)……二八七

無線電信法施行期日ノ件……………(大正四年十月廿五日勅令第八十五號)……二九五

無線電信法中改正法律施行期日ノ件……………(昭和二年五月廿四日勅令第二百六號)……二九六

無線電信法ヲ朝鮮、臺灣及樺太ニ施行スルノ件……………(大正四年十月廿五日勅令第八十六號)……二九六

電信法及無線電信法等ヲ關東廳ニ準用ノ件……………(明治廿九年八月廿九日勅令第二百二十九號)……二九六

電信法及無線電信法等ヲ關東廳ニ準用ノ件……………(明治廿九年九月一日關東都督府令第四號)……二九七

電信法及無線電信法等ヲ南洋廳ニ準用ノ件……………(大正十一年三月卅日勅令第三百五十五號)……二九七

電信法及無線電信法等ヲ南洋廳ニ準用ノ件……………(大正十一年四月一日南洋廳令第六號)……二九七

私設無線電信規則……………(大正四年十月廿六日遞信省令第四十六號)……二九八

官廳用無線電信無線電話規則……………(大正九年十一月廿四日遞信省令百十七號)……三一九

私設電信電話無線電信無線電話監督事務規程中改正……………(昭和二年六月一日遞信省公達第四百六十九號)……三一九

私設無線電信通信從事者資格檢定規則……………(大正四年十月廿六日遞信省令第四十八號)……三一九

無線方位測定通信規則……………(昭和二年五月七日遞信省令第十四號)……三二三

無線電報規則拔萃……………(大正十四年八月廿二日遞信省令第五十一號)……三三〇

無線電報取扱規程拔萃……………(大正十四年十一月一日ヨリ施行)……三三一

要塞地帶法拔萃……………(明治卅二年七月十四日法律第五百五號)……三三一

要塞地帶法ノ一部ヲ朝鮮ニ施行スルノ件……………(大正二年九月廿三日勅令第二百八十四號)……三三二

要塞地帶法ノ一部ヲ臺灣ニ施行スルノ件……………(大正八年八月十九日勅令第四百五號)……三三三

要塞地帶法施行規則拔萃……………(明治卅三年六月十六日陸軍省令第十四號)……三三三

關東州防禦營造物地帶令拔萃……………(明治四十一年三月六日勅令第三十六號)……三三四

關東州防禦營造物地帶令施行細則拔萃……………(大正八年五月廿九日陸軍省令第十八號)……三三六

軍港要港ニ關スル件……………(明治卅三年一月十六日法律第二號)……三三八

軍港要港規則拔萃……………(明治卅三年四月卅日海軍省令第七號)……三三八

軍港要港規則違反者處分ノ件……………(明治卅三年九月十三日法律第八十三號)……三三八

陸軍航空勤務者身體檢查規則……………(大正九年十月廿一日陸軍省令第三十五號)……三三九

海軍航空機搭乗者身體檢查規則……………(大正十年十二月十四日海軍省達第三百十六號)……三四三



陸軍軍人服役令拔萃……………(明治四十四年十二月七日勅令第二百八十五號)……三五六

陸軍航空學校ニ於テ民間ノ希望者ニ對シ航空術ヲ教授シ得ルノ件……………(大正八年四月廿六日勅令第五百十三號)……三四七

遞信省委託航空機操縱生教育ニ關スル取扱規程……………(大正十二年四月六日陸普第千三百六十二號)……三四八

航空ニ關スル勤務ニ服セシムヘキ陸軍下士ノ特別補充及其ノ服役等ニ關スル件……………(大正十年十一月十六日勅令第四百四十二號)……三四九

航空勤務ニ服セシムヘキ陸軍下士ノ特別補充及其ノ服役ニ關スル勅令施行ニ關スル件……………(大正十年十一月十七日陸軍省令第二十八號)……三五〇

海軍下士官兵役令拔萃……………(明治四十四年五月卅日勅令第二百五十號)……三五五

海軍豫備員令拔萃……………(大正八年六月二日勅令第二百六十七號)……三五六

海軍豫備練習生ニ關スル件拔萃……………(大正八年三月十一日勅令第二十五號)……三五九

海軍豫備練習生規則拔萃……………(大正八年三月十二日海軍省令第五號)……三五九

遞信省委託練習生取扱手續……………(大正十一年六月海軍大臣官房第三十三號)……三六二

海軍航空隊練習部令拔萃……………(大正十年四月廿八日勅令第七十九號)……三六三

海軍航空科豫備練習生志願者身體檢查規則……………(大正十二年七月廿一日海軍省令第十四號)……三六四

聘用セラレタル官吏及官吏待遇者ニ關スル件……………(大正九年九月七日勅令第三百六十七號)……三六七

廢兵器檢定規則拔萃……………(大正十三年五月廿七日陸普第千三三號)……三六八

軍需工業動員法……………(大正七年四月十六日法律第三十八號)……三七〇

航空機ニ搭乘シテ航空勤務又ハ航空練習ニ從事スル軍人軍屬ニ航空加俸給與ノ件……………(大正九年八月十九日勅令第二百七十九號)……三七五

航空加俸支給規則……………(大正十四年十月十日陸達第三十九號)……三七七

航空加俸支給規則……………(大正十四年十月十三日海軍省達第三百三十七號)……三八一

軍用ノ航空機ニ乗シ航空演習ニ從事スル者ニ一時賜金ヲ給與スルノ件……………(大正二年二月廿二日勅令第九號)……三八四

航空勤務者保護賜金令……………(大正八年八月十二日勅令第三百七十一號)……三八六

大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依ル賜金賜與手續……………(大正八年八月十三日陸軍省令第二十三號)……三八七

大正二年勅令第九號及大正八年勅令第三百七十一號ニ依ル賜金賜與手續……………(大正八年八月十三日海軍省令第十八號)……三八九

恩給法拔萃……………(大正十二年四月法律第四十八號)……三九〇

恩給法施行令拔萃……………(大正十二年八月勅令第三百六十七號)……三九二

恩給給與細則拔萃……………(大正十二年十月閣令第七號)……三九三

恩給取扱手續拔萃……………(大正十三年四月陸達第十五號)……三九三

恩給取扱手續拔萃……………(大正十二年十一月海軍省達第二百十七號)……三九四

遞信大臣主管公益法人ノ設立及監督ニ關スル規則……………(大正二年九月廿二日遞信省令第九十號)……三九四

財團帝國飛行協會寄附行爲……………(大正三年九月)……三九六

義勇財團海防義會寄附行爲……………(大正十一年七月)……三九八



追加  
航空法中關稅ニ關スル規定ノ施行規則……………(昭和三年十二月八日朝鮮總督府令第四百十四號)……四〇六



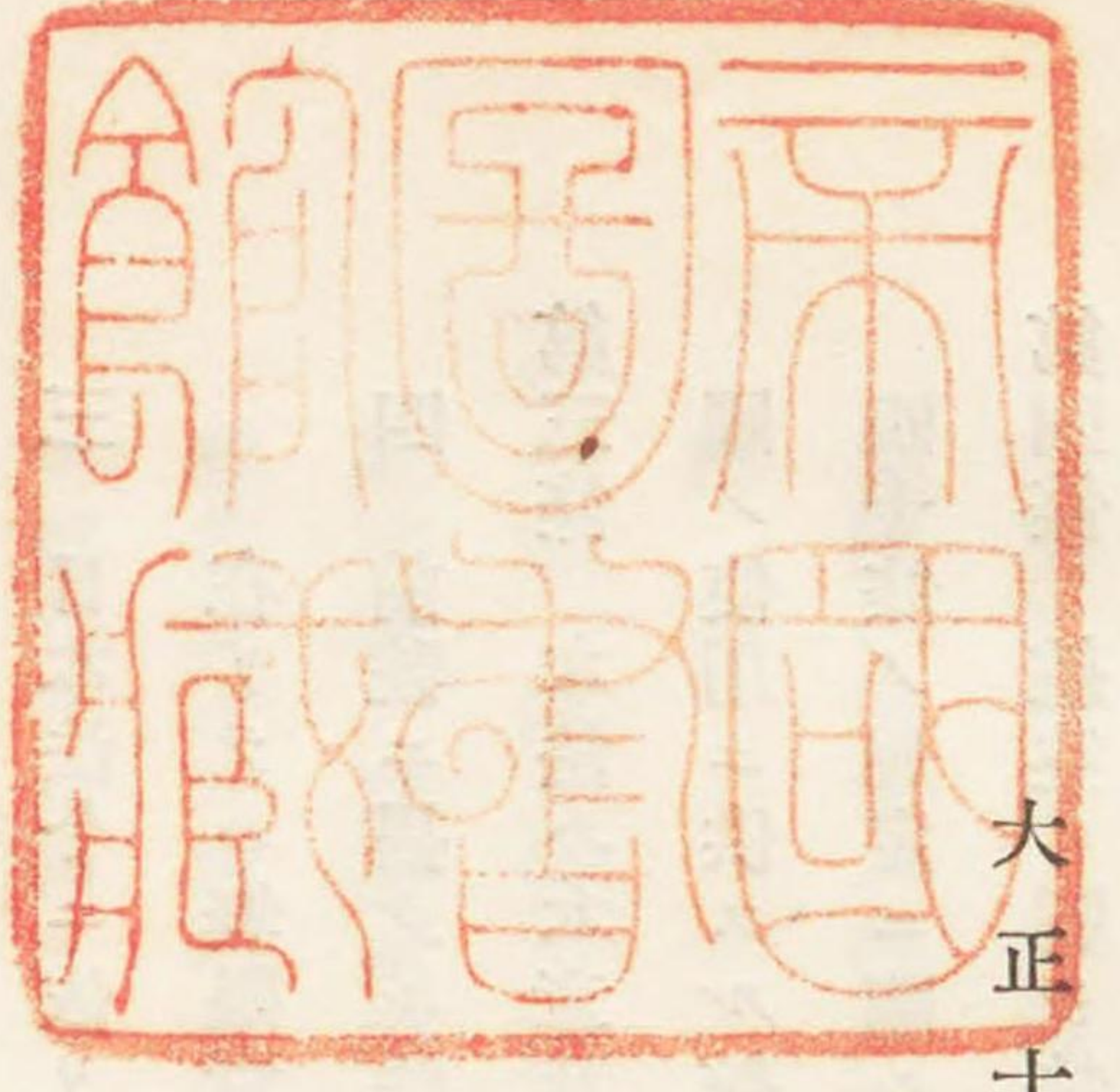
●航空法 (大正十年四月八日 法律第五十四號)

朕帝國議會ノ協贊ヲ經タル航空法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

大正十年四月八日

内閣總理大臣 原 敬  
海軍大臣 加藤 友三郎  
大藏大臣 子爵 高橋 是清  
陸軍大臣 男爵 田中 義一  
內務大臣 床次 竹二郎  
遞信大臣 野田 卯太郎



法律第五十四號

航空法

第一章 總 則

第一條 本法ニ於テ航空機トハ人ノ搭乘シ得ル氣球、凧、航空船及飛行機ヲ謂フ

航空法



本法ニ於テ航空トハ陸上又ハ水上ノ滑走ヲ、離陸又ハ著陸トハ離水又ハ著水ヲ包含ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ノ所有スル航空機ハ之ヲ日本航空機トス

一 日本國又ハ日本ノ公共團體

二 日本臣民

三 日本法令ニ依リ設立シタル會社ニシテ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社及株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員カ日本臣民タルモノ

四 前號ニ掲クル法人以外ノ法人ニシテ日本法令ニ依リ設立シ其ノ代表者ノ全員カ日本臣民タルモノ

第三條 本法ハ本章及第四十一條乃至第四十三條ノ規定ヲ除クノ外軍用航空機ニ之ヲ適用セス

國ノ使用ニ供スル航空機ニ付テハ第二十一條、第二十八條乃至第三十條、第三十三條、第三十四條及第四十條ノ規定ニ關シ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

第四條 航空ニ關シ條約又ハ之ニ準スヘキモノニ別段ノ規定アルトキハ其ノ規定ニ從フ

### 第二章 航空機ノ検査及登録

第五條 航空機ヲ製造スル者ハ其ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

シ、堪航證明書ナキ航空機ノ所有者ハ其ノ航空機ニ付行政官廳ノ検査ヲ受クヘシ

前二項ノ検査ニ合格シタル航空機ニ對シテハ堪航證明書ヲ交付ス

第一項及第二項ノ規定ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル航空機ニ之ヲ適用セス

第六條 堪航證明書ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ效力ヲ失フ

一 堪航證明書ニ記載シタル有効期間ヲ經過シタルトキ

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ使用ノ禁止ヲ命シタルトキ

前項第一號ノ有効期間ハ前條ノ検査ニ合格シタル日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム有効期間ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ依リ検査ノ日ヨリ起算シ六月以内ニ於テ行政官廳之ヲ延長スルコトヲ得

第七條 第五條ノ検査ニ合格シタル航空機ノ所有者ハ行政官廳ニ其ノ航空機ノ登録ヲ申請スルコトヲ得

航空機ノ登録事項ハ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他命令ヲ以テ定ムル事項トス

登録シタル事項ニ變更アリタルトキハ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ變更ノ登録ヲ申請スヘシ

登録シタル航空機ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空機ノ所有者ノ氏名名稱、登録記號其ノ他ノ登録事項ヲ記載シタル登録證明書ヲ交付ス

第八條 航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ堪航證明書ヲ返付スヘシ



- 一 滅失又ハ破壊シタルトキ
  - 二 解撤セラレタルトキ
  - 三 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 登録シタル航空機カ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ其ノ際ノ航空機ノ所有者ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ登録證明書ヲ返付スヘシ
- 一 滅失又ハ破壊シタルトキ
  - 二 解撤セラレタルトキ
  - 三 日本國籍ヲ喪失シタルトキ
  - 四 其ノ堪航證明書カ其ノ效力ヲ失ヒタルトキ
- 前項第一號乃至第三號ノ場合ニ於テハ同時ニ抹消登録ヲ申請スヘシ
- 前項ノ場合ニ於テ抹消登録ノ申請ナキトキ又ハ第二項第四號ノ場合ニ於テハ行政官廳ハ職權ヲ以テ抹消ノ登録ヲ爲スコトヲ得
- 第九條 登録シタル航空機ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ國籍記號、登録記號並所有者ノ氏名名稱及住所ヲ表示スヘシ
- 第十條 航空機ハ前條ノ規定ニ依ル表示ヲ爲シ且堪航證明書及登録證明書ヲ備附クルニ非サレハ之ヲ航空

ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第十一條 行政官廳ハ定期又ハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第十二條 第五條第一項第二項及第十條ノ規定ハ航空機ノ試験ノ爲飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空スル航空機ニ關シテハ之ヲ適用セス

第十三條 第五條、第七條、第八條及第十一條ニ規定スルモノノ外航空機ノ検査又ハ登録ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 行政官廳ハ第十一條ノ検査ノ結果ニ基キ其ノ他航空機ノ現状ニ因リ必要アルトキハ航空機ノ使用ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ堪航證明書ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中堪航證明書ヲ領置ス

第三章 乗員

第十五條 航空機ノ乗員ニ非サレハ航空機ニ搭乘シテ其ノ運航ニ從事スルコトヲ得ス  
乗員ハ技倆證明書及航空免狀ヲ有スルコトヲ要ス

第十六條 技倆證明書ハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ行フ考査ニ合格シタル者ニ之ヲ交付ス技倆證明書ヲ有スル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空免狀ノ交付ヲ受クルコトヲ得



第十七條 乗員ハ技倆證明書及航空免狀ヲ携帯スルニ非サレハ運航ニ從事スルコトヲ得ス

第十八條 行政官廳ハ乗員ニ對シ定期又ハ臨時ニ検査ヲ爲スコトヲ得

第十九條 第十五條第一項ノ規定ハ飛行場又ハ命令ヲ以テ定ムル場所ニ於テ航空機ニ搭乘シテ運航練習ヲ爲ス者及運航練習ノ爲乗員ト同乗シテ運航ニ從事スル者ニ之ヲ適用セス

第二十條 行政官廳ハ乗員引續キ六月以上運航ニ從事セサルトキ、第十八條ノ検査ノ結果ニ基キ必要アルトキ又ハ保安上必要アルトキハ就業ノ制限、停止又ハ禁止ヲ命スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ規定ニ依リ制限ヲ命シタルトキハ航空免狀ニ制限事項ヲ附記シ停止ヲ命シタルトキハ停止中航空免狀ヲ領置ス

第一項ノ規定ニ依リ禁止ヲ命セラレタル乗員ハ其ノ日ヨリ起算シ十四日以内ニ行政官廳ニ航空免狀ヲ返付スヘシ

#### 第四章 飛行場及其ノ經營者

第二十一條 飛行場ヲ設置セムトスル者其ノ區域ヲ變更セムトスル者又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスル者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クヘシ公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更シ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスル者亦同シ

第二十二條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ航空ニ必要ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十三條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ飛行場ヲ他ノ目的ニ使用シ又ハ使用セシムルコトヲ得ス

第二十四條 行政官廳ハ飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ必要ナル航空標識ノ設置ヲ命スルコトヲ得

飛行場ノ經營者ハ前項ノ航空標識ノ設置又ハ維持ノ爲必要アルトキハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ日出後日没前ニ限り他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ豫メ其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ其ノ旨通知スヘシ

飛行場ノ經營者ハ第一項ノ航空標識ノ維持ノ爲緊急ノ必要アルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ經營者ハ遲滞ナク其ノ旨行政官廳ニ届出テ且其ノ土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ

第二十五條 前條ノ規定ニ依リ立入、除去又ハ使用ニ因リ生シタル損害ハ飛行場ノ經營者之ヲ補償スヘシ

前項ノ規定ニ依ル補償ノ金額ニ關シ協議調ハサルトキハ行政官廳ノ決定ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ決定ニ不服アル者ハ其ノ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ起算シ三月以内ニ通常裁判所ニ出訴スルコトヲ得



第二十六條 第二十四條第二項第三項及前條ノ規定ハ許可又ハ届出ニ關スル規定ヲ除クノ外軍用ニ供スル飛行場ノ境界ヨリ外方五百「メートル」ノ區域内ニ於テ航空ノ障礙ト爲ルヘキモノアルトキ必要ナル航空標識ヲ設置又ハ維持スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ハ他人ノ運航スル航空船又ハ飛行機ニ對シ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スルコトヲ拒ムコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス  
前項ノ經營者其ノ飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ豫メ其ノ額ヲ定メ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第二十八條 公共ノ用ニ供セサル飛行場ノ經營者ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ他人ノ運航スル他人ニ屬スル航空機ヲシテ其ノ飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸セシムルコトヲ得ス

第五章 航空及運送

第二十九條 航空船及飛行機ハ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ於テ離陸又ハ著陸スルコトヲ得ス但シ故障若ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由アルトキ又ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十條 故ナク皇居、禁苑、離宮、行在所若ハ神宮ノ上空ニ於テ又ハ皇陵ノ上空千「メートル」以下ニ於テ航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ掲クル場所ノ外航空ニ關スル制限又ハ禁止ヲ必要トスル場所ニ關シテハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條 戰時又ハ事變ニ際シ必要アルトキハ行政官廳ハ航空機ノ航空ヲ禁止スルコトヲ得

第三十二條 日本航空機ニ非サル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス

第三十三條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ若ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機又ハ日本國外ヨリ發航シ著陸スルコトナクシテ日本國ヲ通過シ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ指定スル航空路ニ由リ航空スヘシ

第三十四條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至リ又ハ日本國內ヨリ發航シテ日本國外ニ至ル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外行政官廳ノ指定スル飛行場ニ於テ著陸又ハ離陸スヘシ

第三十五條 日本航空機ニ非サル航空機ニ依リ有償ニテ日本各地ノ間ニ於テ旅客又ハ貨物ノ運送ヲ爲スコトヲ得ス但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ日本航空機ニ依リ運送業ヲ營ムコトヲ得ス

第六章 雜則

第三十七條 航空標識ノ用地又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地トスル爲必要ナル土地及水ノ使用ニ關スル權利其ノ他土地ニ關スル所有權以外ノ權利ハ之ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得



前項ノ規定ニ依ル收用又ハ使用ニ關シテハ土地收用法ヲ適用ス

第三十八條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ用地ニ付テハ納稅義務者ノ申請ニ因リ其ノ地租ヲ免除ス但シ一時ノ使用ニ供スルモノ又ハ有料借地ノモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條 關稅法中船舶、船長、船用品及海路運送竝之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付テノ規定ハ航空機、航空機ノ長、航空機ノ機用品及航空機ニ依ル外國貨物ノ運送竝之ニ關スル犯罪事件ノ調査、處分及處罰ニ付之ヲ準用ス但シ關稅法中開港トアルハ第三十四條ノ飛行場トス

第四十條 第三十三條ノ航空機カ故障又ハ避難ノ爲其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第三十四條ニ規定スル著陸ノ場所以外ニ著陸シタルトキハ稅關官吏其ノ地ニ在ル場合ニ於テハ稅關官吏ニ稅關官吏其ノ地ニ在ラサル場合ニ於テハ警察官吏ニ遲滞ナク届出ツヘシ

前項ニ規定スル航空機ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ離陸スルコトヲ得ス

第四十一條 日本國外ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル航空機ニ關シテハ傳染病豫防ノ爲檢疫ヲ施行ス

前項ノ檢疫ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條 前條ノ規定ハ内地、朝鮮、臺灣相互間ニ付之ヲ準用ス

前項ノ内地ニハ樺太ヲ包含ス

第四十三條 航空機ノ救難及之ニ關スル處罰ニ付テハ水難救護法ヲ準用ス

第四十四條 左ノ事項ニ關シ必要ナル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

一 航空機ニ備附クヘキ日誌其ノ他ノ帳簿書類及附屬品其ノ他ノ物件ニ關スル事項

二 保安上又ハ軍事上ノ必要ノ爲航空機ニ搭載スルコトヲ制限又ハ禁止スル火藥類、寫真機其ノ他ノ物件ニ關スル事項

三 航空機ニ關スル燈火及信號ニ關スル事項

四 航空ニ關スル保安上必要ナル制限及航空機ト船舶トノ衝突豫防ニ關スル事項

五 航空標識及其ノ設置ニ關スル事項

六 飛行場ノ設備ニ關スル事項

第四十五條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機ノ離陸差止又ハ著陸ヲ命スルコトヲ得

第四十六條 當該官吏ハ其ノ職權ノ執行ニ必要ナリト認ムルトキハ航空機、飛行場又ハ格納庫ニ臨檢シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ備附ヲ要スル帳簿書類及物件ニ關シ検査ヲ爲スコトヲ得

第四十七條 朝鮮及臺灣ニ於テハ第三十七條第二項、第三十八條及第四十三條ノ規定ニ關シ命令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設クルコトヲ得



第七章 罰則

第四十八條 航空標識ヲ損壞シタル者又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ之ヲ無效タラシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十九條 詐偽ノ信號ヲ爲シ又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ航空ノ危険ヲ生セシメタル者ハ二年以上ノ有期懲役ニ處ス

第五十條 現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ヲ墜落、顛覆若ハ覆没セシメ又ハ破壊シタル者ハ無期又ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シテ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者亦前項ノ例ニ同シ

第五十一條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第五十二條 過失ニ因リ航空ノ危険ヲ生セシメ又ハ現ニ航空ノ用ニ供スル航空機ノ墜落、顛覆、覆没又ハ破壊ヲ致シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ業務ニ従事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十三條 詐術ヲ用キ第五條若ハ第十一條ノ検査ヲ受ケ又ハ不實ノ事項ヲ登録セシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十四條 第四十九條、第五十條第一項及前條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第五十五條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第五條又ハ第十一條ノ検査ニ合格セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者

二 第十四條第一項ノ規定ニ依リ行政官廳ノ爲シタル命令ニ違反シタル者

三 第九條ノ規定ニ違反シテ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虛偽ノ國籍記號若ハ登録記號ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者

第五十六條 第十五條第一項ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十條第一項ノ規定ニ依リ爲シタル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十七條 第三十條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第三十條第二項ノ規定ニ依ル制限若ハ禁止ニ違反シタル者、第三十一條ノ規定ニ依ル禁止ニ違反シタル者又ハ第三十三條ノ規定ニ違反シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十八條 第二十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第四十五條ノ規定ニ依ル當該官吏ノ命令ニ違反シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第五十九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス



一 第二十四條第一項ノ規定ニ依ル行政官廳ノ命令ニ違反シタル者  
 二 故ナク當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚偽ノ陳述ヲ爲シタル者

第六十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第九條ノ規定ニ違反シテ航空機所有者ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示セサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者又ハ虚偽ノ氏名名稱若ハ住所ヲ表示シタル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者  
 二 第十條ノ規定ニ違反シテ堪航證明書又ハ登録證明書ヲ備附ケサル航空機ヲ航空ノ用ニ供シタル者  
 三 第十七條ノ規定ニ違反シタル者

第六十一條 第二十一條、第二十二條、第二十七條第一項、第二十八條、第三十四條乃至第三十六條又ハ

第四十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 第二十三條ノ規定ニ違反シタル者  
 二 第二十七條第二項ノ規定ニ依ル認可ヲ受ケスシテ使用料ノ請求ヲ爲シタル者  
 第六十三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ過料ニ處ス  
 一 第五條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

二 第七條第三項又ハ第八條第三項ノ規定ニ依ル登録ノ申請ヲ怠リタル者

三 第八條第一項又ハ第二項ノ規定ニ依ル堪航證明書又ハ登録證明書ノ返付ヲ怠リタル者

四 第二十條第三項ノ規定ニ依ル航空免狀ノ返付ヲ怠リタル者

五 第四十條第一項ノ規定ニ依ル届出ヲ怠リタル者

前項ニ規定スル過料ハ法人ニ在リテハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ之ヲ適用ス  
 第六十四條 非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ付之ヲ準用ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム



●航空法施行期日ノ件 (昭和二年五月四日 勅令第四百四號)

朕航空法施行期日ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

昭和二年五月四日

内閣總理大臣男爵田	中	義	一
大藏大臣	高	橋	是
海軍大臣	岡	田	啓
陸軍大臣	白	川	義
内務大臣	鈴	木	喜
逓信大臣	望	月	圭
			介

勅令第四百四號  
航空法ハ昭和二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

目次

●航空法施行規則 (昭和二年五月五日 逓信省令第八號)

第一章	總則	一八
第二章	檢査	一八
第三章	登録	二三
第四章	記號	二七
第五章	乗員	三〇
第六章	飛行場	三六
第七章	航空	四三
第八章	運送	四〇
第九章	雜則	四六



第一章 總 則

第一條 本令ニ於テ國際航空條約トハ大正八年十月巴里ニ於テ署名調印セラレタル航空ニ關スル條約及大正九年五月巴里ニ於テ署名セラレタル同條約議定書ヲ謂フ

第二條 日本國內ヨリ發航シテ國際航空條約ニ加盟セル外國ニ至リ又ハ國際航空條約ニ加盟セル外國ヨリ發航シテ日本國內ニ至ル日本航空機及其ノ乘員ノ受有シ若ハ備附クヘキ書類ニ付テハ國際航空條約ノ外本令ヲ適用ス

第三條 朝鮮、臺灣、樺太又ハ關東州ニ於テ當該規則ニ依リ交付セラレタル堪航證明書、航空機乘員技倆證明書及航空免狀ハ遞信大臣ニ於テ各地域ニ於ケル當該規則カ本令其ノ他航空法施行ニ關スル命令ノ規定ト同一ノ内容ヲ有スト認ムル場合ニ於テハ本令ニ依リ之ヲ交付シタルモノト看做ス

第四條 本令ハ第七章ノ規定ヲ除クノ外當分ノ内規ニ之ヲ適用セス

第五條 滑空機ヲ航空ノ用ニ供セムトスルトキハ遞信大臣ニ其ノ検査ヲ申請スヘシ但シ試験ノ爲航空スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依ル検査ノ申請及執行ニ付テハ第二章ノ規定ヲ準用ス

第二章 檢 査

第六條 航空機ノ検査ハ左ノ四種トス

一 製造検査

二 特別検査

三 定期検査

四 臨時検査

第七條 製造検査ハ航空法第五條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ設計、材料、部分品、技功及製品ニ付検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第八條 特別検査ハ航空法第五條第二項ノ規定ニ依リ堪航證明書ナキ航空機ニ付検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第九條 定期検査ハ堪航證明書ノ有効期間延長ノ爲検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第十條 臨時検査ハ左ノ各號ノ場合ニ検査ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

一 堪航證明書アル航空機ノ機體又ハ發動機ノ要部ニ變更ヲ加ヘタルトキ

二 堪航證明書アル運送營業用航空機ニ裝備セル發動機ノ豫備發動機トシテ發動機ヲ整備スルトキ

三 堪航證明書アル航空機ニ裝備セル發動機ヲ豫備發動機以外ノ發動機ト取換ヘムトスルトキ

四 堪航證明書アル航空機ニ裝備セル發動機ニ使用スル「プロペラ」ノ豫備「プロペラ」トシテ同一型式ノ

「プロペラ」ヲ整備スルトキ



五 堪航證明書アル航空機ニ裝備セル發動機ニ使用スル「プロペラ」ヲ豫備「プロペラ」以外ノ「プロペラ」ト取換ヘムトスルトキ

前項各號ノ場合ノ外遞信大臣ニ於テ必要アリト認ムルトキハ臨時ニ航空機ノ検査ヲ行フ

第十一條 航空機ノ検査ハ製造検査ニ付テハ航空機ヲ製造スル者ヨリ、其ノ他ノ検査ニ付テハ航空機所有者ヨリ之ヲ申請スヘシ

第十二條 製造検査ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ依ル製造検査申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ製造著手前遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一 設計書

二 設計圖面

三 製造工程ヲ記載シタル書面

第十三條 特別検査ヲ受ケムトスル者ハ第二號書式ニ依ル特別検査申請書ニ左ノ書類又ハ之ニ準スヘキ書類アルトキハ之ヲ添附シ遞信大臣ニ提出スヘシ

一 機能説明書

二 圖面

三 仕様書

四 既ニ航空ノ用ニ供シタル航空機ニ在リテハ其ノ使用時間及修繕ニ關スル技術的記録

五 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項ヲ記載シタル書面

第十四條 定期検査ヲ受ケムトスル者ハ堪航證明書ノ有効期間満了一月前迄ニ第三號書式ニ依ル定期検査申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第十五條 臨時検査ヲ受ケムトスル者ハ第四號書式ニ依ル臨時検査申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第十六條 航空機ノ検査ハ航空機検査規則ニ依リ之ヲ行フ

第十七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ航空機ノ製造者又ハ所有者ハ其ノ事實ヲ證スルニ足ル書類ヲ具シ製造検査又ハ特別検査ノ免除ヲ遞信大臣ニ申請スルコトヲ得

一 日本ニ於テ航空ノ用ニ供セサル目的ヲ以テ航空機ヲ製造スルトキ

二 日本ニ於テ航空ノ用ニ供セサル目的ヲ以テ航空機ヲ輸入シタルトキ

三 其ノ他相當ノ事由アルトキ

第十八條 遞信大臣検査ヲ行ハムトスルトキハ検査ノ日時、場所其ノ他必要ナル事項ヲ検査申請者ニ通知ス

第十九條 前條ノ規定ニ依ル通知ヲ受ケタル者ハ検査ヲ受クルニ必要ナル準備ヲ爲スヘシ

第二十條 當該官吏検査ヲ行フ場合ニ於テハ検査ヲ受クヘキ者又ハ其ノ代理人之ニ立會ヒ當該官吏ノ要求



二應シ堪航證明書、登録證明書、航空日誌其ノ他検査ニ必要ナル書類ヲ檢閲ニ供スヘシ

第二十一條 航空機ノ検査ハ定置場ニ於テ之ヲ行フ但シ定置場以外ノ場所ニ於テ検査ヲ受ケタキ旨ノ申請アリタル場合ニ於テ相當ノ事由アルトキハ定置場ニ非サル場所ニ於テ検査ヲ行フコトアルヘシ

第二十二條 航空機ノ定置場ハ相當ノ事由アル場合ヲ除クノ外飛行場ニ之ヲ定ムヘシ

第二十三條 堪航證明書ハ第五號書式ニ依ル

第二十四條 堪航證明書ハ當該航空機ノ操縦席附近ニ之ヲ掲クヘシ

第二十五條 検査ニ合格シタル機體、發動機又ハ「プロペラ」ニハ第六號書式ニ依ル検査済記號ヲ標示ス

第二十六條 堪航證明書ニ記載シタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ航空機所有者ハ遲滯ナク逡信大臣ニ堪航證明書ノ書換ヲ申請スヘシ

前項ノ規定ニ依リ新證明書ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク舊證明書ヲ逡信大臣ニ返付スヘシ

第二十七條 堪航證明書ヲ亡失シタルトキハ航空機所有者ハ遲滯ナク事由ヲ具シ其ノ旨逡信大臣ニ届出ツヘシ

第二十八條 堪航證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テ航空機所有者其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ逡信大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第二十六條第二項ノ規定ハ毀損ニ因リ堪航證明書ノ再交付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第二十九條 堪航證明書ヲ返付スヘキ場合ニ於テ之ヲ返付スルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨逡信大臣ニ届出ツヘシ

第三十條 堪航證明書亡失ノ届出アリタルトキ又ハ之ヲ返付スヘキ場合ニ於テ返付セサルトキハ逡信大臣ハ當該堪航證明書ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

### 第三章 登 録

第三十一條 航空機ノ登録ハ左ノ三種トス

一 新規登録

二 變更登録

三 抹消登録

第三十二條 新規登録ハ航空法第七條第一項ノ規定ニ依リ航空機ノ登録ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第三十三條 變更登録ハ航空法第七條第三項ノ規定ニ依リ航空機ノ變更登録ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第三十四條 抹消登録ハ航空法第八條第三項ノ規定ニ依リ航空機ノ抹消登録ノ申請アリタルトキ之ヲ行フ

第三十五條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ登録ヲ申請セムトスル者ハ第七號乃至第九號書式ニ依ル登録申請書ヲ逡信大臣ニ提出スヘシ

第三十六條 逡信大臣前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ第十號書式ニ依ル航空機原簿ニ左ニ掲クル事項ヲ登録ス



- 一 航空機ノ種類
- 二 登録番號
- 三 登録年月日
- 四 國籍記號及登録記號
- 五 堪航證明書番號
- 六 機體ノ製造者、製造番號及型式
- 七 發動機ヲ備フル航空機ニ在リテハ其ノ發動機ノ製造者、製造番號、型式、馬力及數
- 八 航空機ノ定置場
- 九 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

前項第一號ニ掲クル航空機ノ種類ハ航空法第一條ノ定ムル所ニ依ル

第三十七條 新規登録申請書ニハ所有者ノ戶籍抄本又ハ之ニ準スヘキ書面ヲ添附スヘシ但シ航空機ノ所有者カ會社其ノ他ノ法人ナルトキハ登録申請書ニ合名會社ニ在リテハ社員ノ全員、合資會社又ハ株式合資會社ニ在リテハ無限責任社員ノ全員、株式會社ニ在リテハ取締役ノ全員、會社以外ノ法人ニ在リテハ其ノ代表者ノ全員ノ戶籍抄本又ハ之ニ準スヘキ書面及會社其ノ他ノ法人ノ設立登記ノ謄本ヲ添附スヘシ

第三十八條 前條ノ規定ニ依リ申請書ニ添附スヘキ書面ハ同時ニ數箇ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ一通ノ申請

書ニ之ヲ添附シタルトキハ他ノ申請書ニハ之ヲ省略スルコトヲ得前ニ登録ノ申請ヲ爲シタル者更ニ登録ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テ添附スヘキ書面ノ内容前後同一ナルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ申請書ニ添附スヘキ書面ヲ省略シタルトキハ申請書ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第三十九條 所有者ノ變更ニ因ル變更登録申請書ニハ其ノ事由ヲ證スルニ足ル書面ヲ添附スヘシ

第四十條 抹消登録申請書ニハ其ノ事由ヲ證スルニ足ル書面アルトキハ之ヲ添附スヘシ

第四十一條 遞信大臣ハ新規登録又ハ變更登録ノ申請アリタル場合ニ於テ當該事項ヲ航空機原簿ニ登録シタルトキハ第十一號書式ニ依ル登録證明書ヲ申請者ニ交付ス

第四十二條 行政區劃、其ノ名稱又ハ地番號ノ變更アリタルトキハ航空機原簿又ハ登録證明書ニ記載シタル當該行政區劃、其ノ名稱又ハ地番號ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其ノ名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

第四十三條 航空機所有者登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨ヲ疏明シ登録及登録證明書ノ訂正ヲ申請スヘシ

遞信大臣登録ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ之ヲ訂正シ其ノ旨ヲ航空機所有者ニ通知ス

第四十一條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ登録ヲ訂正シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十四條 登録證明書ヲ亡失シタルトキハ航空機所有者ハ遲滞ナク事由ヲ具シ其ノ旨遞信大臣ニ届出ツ



ヘシ

第四十五條 登録證明書ヲ亡失又ハ毀損シタル場合ニ於テ航空機所有者其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ事由ヲ具シ遞信大臣ニ申請スヘシ

第二十六條第二項ノ規定ハ毀損ニ因リ登録證明書ノ再交付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十六條 變更登録ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テ登録證明書ノ交付ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク舊證明書ヲ返付スヘシ第四十三條第三項ノ規定ニ依リ登録證明書ノ交付アリタルトキ亦同シ

第四十七條 登録證明書ヲ返付スヘキ場合ニ於テ之ヲ返付スルコト能ハサルトキハ事由ヲ具シ其ノ旨遞信大臣ニ届出ツヘシ

第四十八條 航空機所有者登録證明書ニ記載シタル事項ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨ヲ疏明シ登録證明書ノ訂正ヲ申請スヘシ

遞信大臣前項ノ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ其ノ旨ヲ航空機所有者ニ通知ス

前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ航空機所有者ハ遲滯ナク登録證明書ノ訂正ヲ申請スヘシ

第四十九條 登録證明書亡失ノ届出アリタルトキ又ハ之ヲ返付スヘキ場合ニ於テ返付セサルトキハ遞信大臣ハ當該登録證明書ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

第五十條 航空機ノ所有者又ハ利害關係人ハ航空機原簿ノ謄本若ハ抄本ノ交付又ハ航空機原簿ノ閱覽ヲ申

請スルコトヲ得

第四章 記 號

第五十一條 航空機ノ國籍記號ハ羅馬字ノ大文字丁ヲ以テ之ヲ表示ス

第五十二條 航空機ノ登録記號ハ母音字ヲ包含スル羅馬字ノ大文字四箇ノ集合ヲ以テ之ヲ表示ス此ノ場合ニ於テYハ之ヲ母音字ト看做ス

第五十三條 登録シタル航空機ノ所有者ハ當該航空機ニ其ノ國籍記號及登録記號ヲ掲記スヘシ

前項ノ記號ハ白地ニ黒色ノ楷書ノ文字ヲ以テ之ヲ掲記スヘシ

第五十四條 國籍記號及登録記號ハ當該航空機ニ付左ノ場所ニ之ヲ連記スヘシ

一 飛行機ニ在リテハ上主翼ノ上面、下主翼ノ下面及主翼ト尾翼トノ間ノ胴体ノ兩側胴体ナキモノニ在リテハ「ナセル」ノ兩側

二 航空船ニ在リテハ氣囊ノ横斷面ノ最大部附近ニ於ケル兩側及其ノ兩側ヨリ等距離ノ上面

三 氣球ニ在リテハ氣囊ノ水平周圍ノ最大部附近ニ於ケル相反スル兩側

第五十五條 國籍記號ハ當該航空機ニ付尙左ノ場所ニ之ヲ掲記スヘシ

一 飛行機及航空船ニ在リテハ最下尾翼又ハ昇降舵ノ中何レカ大ナルモノノ下面ノ左右兩部、最上尾翼又ハ昇降舵ノ中何レカ大ナルモノノ上面及方向舵ノ兩面方向舵ニ筒以上ヲ有スルモノニ在リテハ外方方向舵ノ外面

二 氣球ニ在リテハ吊籠



第五十六條 第五十四條ニ規定スル場所ニ国籍記號及登録記號ヲ連記スル方法左ノ如シ

- 一 飛行機ノ上主翼ノ上面及下主翼ノ下面ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ其ノ翼ノ前端ニ向ケ国籍記號ト登録記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 二 飛行機ノ主翼ト尾翼トノ間ニ於ケル胴体ノ兩側胴体ナキモノニ在リテハ「ナセル」ノ兩側ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ国籍記號ト登録記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 三 航空船ノ氣囊ノ横断面ノ最大部附近ニ於ケル兩側ニ在リテハ側方及地上ヨリ認め得ラルル如ク記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ国籍記號ト登録記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 四 航空船ノ氣囊ノ横断面ノ最大部附近ニ於ケル兩側ヨリ等距離ノ上面ニ在リテハ船首ヲ左方トシ国籍記號ト登録記號ト各一箇ヲ連記スヘシ
- 五 氣球ノ氣囊ノ水平周圍ノ最大部附近ニ於ケル相反スル兩側ニ在リテハ側方及地上ヨリ認め得ラルル如ク記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ国籍記號ト登録記號ト各一箇ヲ連記スヘシ

第五十七條 第五十五條ニ規定スル場所ニ国籍記號ヲ掲記スル方法左ノ如シ

- 一 飛行機及航空船ノ最下尾翼又ハ昇降舵ノ中何レカ大ナルモノノ下面ノ左右兩部並最上尾翼又ハ昇降

舵ノ中何レカ大ナルモノノ上面ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ其ノ翼又ハ昇降舵ノ前端ニ向ケ国籍記號各一箇ヲ掲記スヘシ

- 二 飛行機及航空船ノ方向舵ノ兩面方向舵二箇以上ヲ有スルモノニ在リテハ外方方向舵ノ外面ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ国籍記號各一箇ヲ掲記スヘシ

- 三 氣球ノ吊籠ニ在リテハ記號ノ文字ノ頂部ヲ上方ニ向ケ国籍記號一箇ヲ掲記スヘシ

第五十八條 航空機ニ掲記スヘキ国籍記號及登録記號ノ大左ノ如シ

- 一 飛行機ノ主翼及尾翼並航空船ノ尾翼ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ各翼幅ノ五分ノ四ナルコトヲ要ス
- 二 飛行機及航空船ノ昇降舵及方向舵ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ成ルヘク大ナルコトヲ要ス
- 三 飛行機ノ胴體又ハ「ナセル」ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ該記號ヲ掲記スヘキ胴體又ハ「ナセル」ノ部分中ノ最狭部ノ最大ノ高ノ五分ノ四ナルコトヲ要ス
- 四 航空船ノ氣囊ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ少クトモ氣囊ノ横断面ノ最大部ノ周圍ノ十二分ノ一ナルコトヲ要ス
- 五 氣球ノ吊籠ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ吊籠ノ高ノ五分ノ四、氣球ノ氣囊ニ掲記スヘキ記號ノ文字ノ高ハ少クトモ氣囊ノ周圍ノ十二分ノ一ナルコトヲ要ス



- 六 記號ノ文字ノ幅ハ文字ノ高ノ三分ノ二、文字ノ線幅ハ文字ノ高ノ六分ノ一ナルコトヲ要ス
  - 七 各箇ノ記號ノ文字ノ形狀及大ハ同一トシ文字ノ字隔ハ字幅ノ二分ノ一ナルコトヲ要ス
- 前項第一號乃至第五號ノ場合ニ於テ文字ノ高二、五メートルヲ超ユルトキハ之ヲ二、五メートルト爲スコトヲ得

第五十九條 航空機ハ國ノ使用ニ供スル航空機及運送營業用航空機ヲ除クノ外其ノ登録記號ノ下ニ黑色ノ横線ヲ附スヘシ

前項ノ横線ノ幅ハ登録記號ノ文字ノ線幅ニ、登録記號ノ文字ノ底部ト横線ノ上部トノ間隔ハ横線ノ幅ニ均キコトヲ要ス

第六十條 登録シタル航空機ノ所有者ハ其ノ氏名又ハ名稱及住所並當該航空機ノ國籍記號及登録記號ヲ刻シタル長七センチメートル幅五センチメートルノ金屬板ヲ操縦席ノ外方見易キ場所ニ附著スヘシ

### 第五章 乗員

第六十一條 航空機ニ乗組マシムヘキ乗員ノ種類及定員ハ第一號表及第二號表ニ依ル

第六十二條 航空機乗員技倆證明書ハ左ノ九種トス

- 一 等飛行機操縦士技倆證明書
- 二 等飛行機操縦士技倆證明書

一 等航空船操縦士技倆證明書

二 等航空船操縦士技倆證明書

三 等航空船操縦士技倆證明書

自由氣球操縦士技倆證明書

一 等航空士技倆證明書

二 等航空士技倆證明書

航空機關士技倆證明書

技倆證明書ハ第十二號書式ニ依ル

第六十三條 航空免狀ハ左ノ九種トス

一 等飛行機操縦士免狀

二 等飛行機操縦士免狀

一 等航空船操縦士免狀

二 等航空船操縦士免狀

三 等航空船操縦士免狀

自由氣球操縦士免狀



一等航空士免狀

二等航空士免狀

航空機操縦士免狀

航空免狀ハ第十三號書式ニ依ル

第六十四條 技倆證明書ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第十四號書式ニ依ル申請書ニ戸籍抄本田願當時市町村長又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ交付ヲ受ケタルモノ最近撮影シタル寫眞半身脱帽「ヴェネスト」形二葉及第十五號書式ニ依ル履歷書ヲ添附シ遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第六十五條 遞信大臣前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ實地試験及學科試験ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ技倆證明書ヲ交付ス

第六十六條 技倆證明書ノ受有者ハ第三號表ニ依リ技倆證明書ニ對應スル航空免狀ノ交付ヲ申請スルコトヲ得

第六十七條 前條ノ申請ヲ爲サムトスル者ハ第十六號書式ニ依ル申請書ニ技倆證明書寫及最近撮影シタル寫眞半身脱帽「ヴェネスト」形二葉ヲ添附シ遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第六十八條 遞信大臣前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ體格検査ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ航空免狀ヲ交付ス

遞信大臣必要アリト認ムルトキハ前項ノ體格検査ノ外實地試験又ハ學科試験ヲ行フコトアルヘシ

第六十九條 一等飛行機操縦士免狀ノ受有者ハ用途ノ如何ニ拘ラス免狀ニ掲クル飛行機ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

二等飛行機操縦士免狀ノ受有者ハ運送營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ外免狀ニ掲クル飛行機ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

第七十條 一等航空船操縦士免狀ノ受有者ハ容積ノ如何ニ拘ラス免狀ニ掲クル航空船ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

二等航空船操縦士免狀ノ受有者ハ容積二萬立方メートル未満ニシテ免狀ニ掲クル航空船ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

三等航空船操縦士免狀ノ受有者ハ容積六千立方メートル未満ニシテ免狀ニ掲クル航空船ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

航空船操縦士免狀ノ受有者ハ自由氣球ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

第七十一條 自由氣球操縦士免狀ノ受有者ハ自由氣球ノ操縦ニ從事スルコトヲ得

第七十二條 一等航空士免狀ノ受有者ハ航空機ニ搭乘シ位置及針路ノ測定ニ從事スルコトヲ得

二等航空士免狀ノ受有者ハ飛行距離五百キロメートルヲ超ユル晝間海上飛行及飛行距離五百キロメートル



ルヲ超ユル夜間飛行ヲ行フ飛行機並容積二萬立方メートル以上ノ航空船ヲ除クノ外航空機ニ搭乘シ位置及針路ノ測定ニ従事スルコトヲ得

前項ノ規定ニ於テ飛行距離、晝間飛行、夜間飛行及海上飛行トハ第一號表備考ニ定ムル所ニ依ル

第七十三條 航空機機關士免狀ノ受有者ハ航空機ニ搭乘シ發動機及機體ノ處理及調整ニ従事スルコトヲ得

第七十四條 飛行機操縦士免狀又ハ航空船操縦士免狀ノ受有者其ノ免狀ニ掲ケサル航空機ノ操縦ニ従事セムトスルトキハ第十七號書式ニ依ル航空免狀效力擴張申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

遞信大臣前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ實地試験ヲ行ヒ申請者之ニ合格シタルトキハ其ノ受有スル技倆證明書及航空免狀ニ當該航空機ノ名稱及免許又ハ認定年月日ヲ記入ス

第七十五條 遞信大臣ハ運送營業用航空機ノ乗員タル資格ヲ有スル航空機乗員一等飛行機操縦士、航空船操縦士、航空士及航空機機關士ニ對シ航空免狀交付ノ日ヨリ六月以内毎ニ定期ニ體格検査ヲ行フ

第七十六條 遞信大臣必要アリト認ムルトキハ航空機乗員ニ對シ臨時ニ體格検査、實地試験又ハ學科試験ヲ行フコトアルヘシ

第七十七條 航空機乗員ノ實地試験及學科試験ハ航空機乗員試験規則ニ依リ之ヲ行フ  
航空機乗員ノ體格検査ハ航空機乗員體格検査規則ニ依リ之ヲ行フ

第七十八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ遞信大臣ハ航空機乗員ノ就業ヲ制限、停止又ハ禁止ス

ルコトアルヘシ

一 定期若ハ臨時ノ體格検査又ハ臨時ノ實地試験若ハ學科試験ノ結果航空機乗員タルノ能力ニ闕クル所アリト認ムルトキ

二 定期若ハ臨時ノ體格検査又ハ臨時ノ實地試験若ハ學科試験ヲ拒ミ、妨ケ又ハ忌避シタルトキ

三 航空中航空機ニ依リ人ヲ殺傷シ、物件ヲ損壞シ其ノ他重大ナル事故ヲ惹起シタルトキ

四 公安ヲ害スルノ行爲ヲ爲スノ虞アリト認ムルトキ

五 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

前項ノ規定ニ依リ就業ヲ制限又ハ停止セラレタル者ハ遲滞ナク航空免狀ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第七十九條 技倆證明書ノ受有者ハ其ノ本籍又ハ氏名ニ變更アリタルトキハ遲滞ナク技倆證明書ノ書換ヲ

遞信大臣ニ申請スヘシ

第八十條 航空免狀ノ受有者ハ其ノ本籍、住所又ハ氏名ニ變更アリタルトキハ航空免狀ヲ添へ遲滞ナク其ノ旨遞信大臣ニ届出ツヘシ

第八十一條 技倆證明書又ハ航空免狀ヲ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滞ナク其ノ旨遞信大臣ニ届出ツヘシ

第八十二條 技倆證明書又ハ航空免狀ヲ亡失若ハ毀損シタル場合ニ於テ其ノ再交付ヲ受ケムトスルトキハ



事由ヲ具シ遞信大臣ニ之ヲ申請スヘシ

第二十六條第二項ノ規定ハ毀損ニ因リ技倆證明書又ハ航空免狀ノ再交付ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第八十三條 航空免狀ノ受有者廢業シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ具シ航空免狀ヲ遞信大臣ニ返付スヘシ

第八十四條 航空免狀ノ受有者死亡シタルトキハ其ノ遺族又ハ當該免狀ノ保管者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ具シ

遞信大臣ニ届出テ且航空免狀ヲ返付スヘシ

第八十五條 技倆證明書若ハ航空免狀亡失ノ届出アリタルトキ又ハ航空免狀ヲ返付スヘキ場合ニ於テ返付

セサルトキハ遞信大臣ハ當該技倆證明書又ハ航空免狀ノ無効ナルコトヲ官報ニ公告ス

### 第六章 飛行場

第八十六條 飛行場ヲ設置セムトスル者ハ許可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添附シ遞信大臣ニ之

ヲ提出シ且當該飛行場豫定地ヲ管轄スル地方長官ニ其ノ副本ヲ提出スヘシ

一 設置ノ目的

二 經營者ノ氏名又ハ名稱及住所

三 飛行場豫定地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

四 所在地名

五 陸上、水上又ハ水陸兩用飛行場ノ別

六 面積及地形

七 實測圖 飛行場豫定地ノ境界ヨリ外方五百メートルノ区域内ニ於テ建物、煙突、電柱、電線其ノ他航空ノ障害トナルヘキモノアルトキハ之ヲ圖示スルコト 及附近交通圖

八 恒風位

九 設置期間

十 設置費

十一 設備維持方法

十二 既存設備ノ概要

十三 豫定設備ノ概要

十四 工事著手及竣功豫定期日

十五 工事設計書、仕様書及圖面

第八十七條 飛行場ノ區域ヲ變更セムトスル者ハ變更事項ヲ具シ許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出シ且當該飛

行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ其ノ副本ヲ提出スヘシ

第八十八條 飛行場ノ設置アリタルトキハ左ノ事項ヲ告示ス告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一 設置ノ目的

二 經營者ノ氏名又ハ名稱及住所



- 三 用地所有者ノ氏名又ハ名稱及住所
- 四 所在地名
- 五 陸上、水上又ハ水陸兩用飛行場ノ別
- 六 面積及地形
- 七 實測圖飛行場ノ境界ヨリ外方五百メートルノ區域内ニ於テ建物、煙突、電柱、電線其ノ他航空ノ障害ト爲ルヘキモノアルトキハ之ヲ圖示スルコト 及附近交通圖
- 八 恒風位
- 九 設備ノ概要
- 十 設置期間

飛行場廢止セラレタルトキハ其ノ旨告示ス

第八十九條 公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ廢止セムトスルトキハ飛行場ノ經營者ハ其ノ一月前迄ニ理由ヲ具シタル許可申請書ヲ遞信大臣ニ提出シ且其ノ副本ヲ當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ提出スヘシ  
公共ノ用ニ供スル飛行場ヲ公共ノ用ニ供セサル飛行場ニ變更セムトスルトキ又ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ公共ノ用ニ供スル飛行場ニ變更セムトスルトキ亦同シ

第九十條 公共ノ用ニ供セサル飛行場ヲ廢止セムトスルトキハ飛行場ノ經營者ハ豫メ其ノ旨ヲ遞信大臣及當該飛行場所在地ヲ管轄スル地方長官ニ届出ツヘシ

第九十一條 公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者飛行場ノ使用ニ對シ使用料ヲ請求セムトスルトキハ其ノ種別及金額ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ前項ノ使用料ハ飛行場ニ之ヲ揭示スヘシ

第九十二條 地方長官必要アリト認ムルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ前條ノ使用料ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九十三條 地方長官保安上必要アリト認ムルトキハ飛行場ノ經營者ニ對シ飛行場使用ノ制限ヲ命シ又ハ公共ノ用ニ供スル飛行場ノ經營者ニ對シ航空ニ必要ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

第九十四條 地方長官航空法第二十四條第二項ノ出願ヲ許可シタルトキハ出願者ニ許可證ヲ交付シ且其ノ旨土地又ハ物件ノ占有者ニ通知スヘシ其ノ通知ヲ爲シ難キトキハ其ノ旨公告スヘシ

第九十五條 前條ノ規定ニ依リ許可證ノ交付ヲ受ケタル者他人ノ土地ニ立入り若ハ障礙ト爲ルヘキ物件ヲ除去シ又ハ必要ナル土地若ハ物件ヲ使用セムトスルトキハ當該許可證ヲ携帯スヘシ

第九十六條 航空法第二十五條第二項ノ規定ニ依リ補償金額ノ決定ヲ求メムトスル者ハ相手方トノ交渉顛末ヲ記載シタル申請書ヲ地方長官ニ提出スヘシ

地方長官前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ其ノ寫ヲ相手方ニ交付シ期限ヲ定メ答辯書ヲ提出セシムヘシ  
第九十七條 前條第二項ノ規定ニ依リ地方長官ノ指定シタル期限内ニ答辯書ノ提出ナキトキ又ハ申請書寫



ノ交付ヲ爲スコト能ハサルトキハ地方長官ハ申請書ノミニ依リ補償金額ノ決定ヲ爲スコトヲ得  
第九十八條 地方長官補償金額ノ決定ヲ爲シタルトキハ決定書ニ理由ヲ附シ之ヲ申請者及相手方ニ交付ス  
ヘシ

第九十九條 航空法第二十三條第二十四條第二十七條第一項及第二十八條ニ規定スル行政官廳ハ地方長官  
トス

百條 飛行場ニハ別ニ定ムル所ニ依リ風向標示設備及信號設備ヲ爲スヘシ

第一百一條 公共ノ用ニ供スル飛行場ニハ別ニ定ムル所ニ依リ航空標識ヲ設置スヘシ

### 第七章 航空

第一百二條 航空法第二十九條但書ニ規定スル行政官廳ハ地方長官トス

第一百三條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場所ニ於テ故ナク航空機ノ運航ヲ爲スコトヲ得ス

一 太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃又ハ攝政ノ御泊所ノ上空

二 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃又ハ攝政ノ鹵簿ノ上空

第一百四條 皇居、禁苑、離宮、神宮又ハ皇陵ハ空中ヨリ之ヲ撮影スルコトヲ得ス

行在所、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃若ハ攝政ノ御泊所又ハ天皇、  
太皇太后、皇太后、皇后、皇太子、皇太子妃、皇太孫、皇太孫妃若ハ攝政ノ鹵簿ハ空中ヨリ之ヲ撮影ス

ルコトヲ得ス但シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百五條 航空機ハ市街地ノ上空ニ在リテハ故障、避難其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ著陸ノ必要ヲ  
生シタル場合ニ於テ市街地外ニ安全ニ著陸シ得ルニ足ルヘキ高度ヲ保ツニ非サレハ航空スルコトヲ得ス  
但シ飛行場、航空法第二十九條ノ規定ニ依リ命令ヲ以テ禁止セラレサル水上ノ場所又ハ地方長官ノ許可  
ヲ受ケタル場所ニ於テ離陸若ハ著陸セムトスルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百六條 市街地又ハ多衆ノ集合スル場所ノ上空ニ於テ航空機ニ依ル曲技飛行ヲ爲スコトヲ得ス但シ地方  
長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第一百七條 航空機ハ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外火藥類ヲ搭載シテ航空スルコトヲ得ス

第一百八條 細砂及水以外ノ「バラスト」又ハ危険ヲ生スルノ虞アル物件ハ航空機ヨリ之ヲ投下スルコトヲ得  
ス

第一百九條 競技航空、興行航空又ハ觀覽航空ヲ爲サムトスルトキハ其ノ主催者ハ航空ノ日時、場所其ノ他  
計劃ノ詳細ヲ具シ實施豫定期日ノ十日前迄ニ地方長官ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ

第一百十條 航空距離五百キロメートル以上ノ無著陸航空ヲ爲サムトスルトキハ其ノ主催者又ハ當該航空機  
ノ操縦士ハ航空ノ目的、日時、區域、使用航空機其ノ他計劃ノ詳細ヲ具シ實施豫定期日ノ五日前迄ニ遞信  
大臣ニ届出ツヘシ



第百十一條 航空法第十二條ノ規定ニ依ル試験航空又ハ同法第十九條ノ規定ニ依ル運航練習ハ公共ノ用ニ供セサル飛行場、航空法第二十九條但書及本令第百二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場所竝其ノ周圍十キロメートル以内ノ場所ノ上空ニ於テノミ之ヲ行フコトヲ得

航空法第十九條ノ規定ニ依ル運航練習ハ特ニ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタル場合ニ限り前項ノ規定ニ拘ラス前項ノ區域ヲ超エテ之ヲ行フコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケムトスル者ハ航空ノ目的、日時、區域、使用航空機、航空機操縦ニ關スル經歷、離著陸場其ノ他計劃ノ詳細ヲ具シ實施豫定期日ノ十五日前迄ニ遞信大臣ニ申請書ヲ提出スヘシ

第百十二條 地方長官ハ保安上必要アルトキハ場所ヲ指定シテ航空ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第百十三條 故障、避難其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ陸上ニ在リテハ飛行場ニ非サル場所、水上ニ在リテハ命令ヲ以テ禁止スル場所ニ著陸シタルトキハ操縦者又ハ同乗者ハ其ノ理由ヲ具シ遲滯ナク最寄警察官署又ハ警察官吏ニ申告スヘシ

第百十四條 航空機ニ依リ人ヲ殺傷シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ操縦者又ハ同乗者ハ其ノ狀況ヲ具シ遲滯ナク最寄警察官署又ハ警察官吏ニ申告スヘシ

第百十五條 國際航空條約ニ加盟セサル外國ノ航空機ヲ航空ノ用ニ供セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ遞信大臣ニ許可申請書ヲ提出スヘシ

一 航空機ノ國籍及標識

二 航空ノ目的

三 航空ノ日時

四 出發地、到着地及經過地

五 航空機所屬國ノ下付シ若ハ有效ト認ムル堪航證明書又ハ之ニ代ルヘキ書類ノ寫

六 航空免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類ノ寫

第八章 運送

第百十六條 航空機ニ依ル運送業ヲ營マムトスル者ハ許可申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類及航空線路圖ヲ添附シ遞信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一 航空線路起點、中間離著陸場及終點

二 旅客、貨物又ハ郵便物運送ノ別

三 發著日時表

四 使用航空機ノ種類、型式、數及貨客積載量

五 航空機乘員ノ種類及數

六 運賃率



- 七 本店、支店及出張所ノ所在地
  - 八 航空運送業ニ充ツヘキ資金總額及其ノ出資方法
  - 九 起業費豫算
  - 十 事業開始後三年度間ノ收支豫算
  - 十一 運送ニ關スル規程
  - 十二 事業開始豫定期日
  - 十三 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項
- 運送業ヲ營マムトスル者カ會社其ノ他ノ法人ナルトキハ前項ノ書類ノ外定款又ハ之ニ準スヘキ規程ノ寫ヲ許可申請書ニ添附スヘシ
- 第百十七條 航空機ニ依ル運送業ノ許可ヲ受ケタル者事業ヲ開始セムトスルトキハ事業開始十五日前迄ニ其ノ日時ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ
- 第百十八條 航空運送業者ハ其ノ使用セムトスル航空機及乗員ヲ定メ豫メ遞信大臣ノ認可ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ
- 第百十九條 航空運送業者ハ事業期ノ定アルトキハ毎事業期、事業期ノ定ナキトキハ毎年一回財産目錄、貸借對照表、損益計算書及事業報告書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

第百二十條 航空運送業者ハ航空運送ニ關シ重大ナル事故アリタルトキハ其ノ原因、狀況及處置ヲ具シ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第百二十一條 航空運送業者第百十六條第一號乃至第七號又ハ第十一號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ遞信大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第百二十二條 航空運送業者其ノ事業ヲ休止又ハ廢止セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ遲滯ナク之ヲ遞信大臣ニ届出ツヘシ

第百二十三條 航空運送業者ハ遞信大臣ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ事業ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ス

第百二十四條 航空運送業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ遞信大臣ハ事業ノ停止ヲ命シ又ハ其ノ許可ヲ取消スコトアルヘシ

- 一 故ナク許可ヲ受ケタル日ヨリ一年以内ニ事業ヲ開始セサルトキ
- 二 事業ヲ繼續スルニ堪ヘスト認ムルトキ
- 三 公安ヲ害スル虞アリト認ムルトキ
- 四 本令又ハ本令ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキ

第百二十五條 乗員ヲ合セ十人以上ノ人員ヲ搭載シ得ル運送營業用飛行機ニシテ飛行距離百六十キロメートルヲ超ユル無著陸飛行又ハ飛行距離二十五キロメートルヲ超ユル水上飛行ヲ爲サムトスルモノ及一切



ノ航空船ハ無線電信ノ施設ナクシテ之ヲ航空ノ用ニ供スルコトヲ得ス但シ特殊ノ事由アル場合ニ於テ遞信大臣ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九章 雜 則

第二百二十六條 航空ノ用ニ供スル航空機ニハ航空日誌ヲ備附クヘシ

前項ノ航空日誌ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第二百二十七條 航空機乗員ハ航空機乗員手帖ヲ所持シ所定ノ事項ヲ之ニ記入スヘシ

前項ノ手帖ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第二百二十八條 本令ニ規定スル地方長官ノ職務ハ東京府ニ在リテハ警視總監之ヲ行フ

附 則

第二百二十九條 本令ハ航空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二百三十條 大正十年陸軍省令第十一號航空機検査規則及航空機操縦士免許規則ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第三百一十一條 従前ノ規定ニ依リ交付シタル堪航證明書ハ本令施行後ニ於テモ其ノ有効期間滿了スル迄仍効力ヲ有ス

第三百十二條 従前ノ規定ニ依リ標示シタル機體發動機又ハ「プロペラ」ノ検査済記號ハ本令施行後ニ於テ

モ仍其ノ効力ヲ有ス

第三百十三條 従前ノ規定ニ依リ飛行機ノ検査願ヲ提出シ本令施行ノ際尙其ノ検査ヲ了ラサルモノニ付テハ初度検査願及特別検査願ハ之ヲ本令ニ依ル特別検査申請ト看做シ定期検査願又ハ臨時検査願ハ夫々之ヲ本令ニ依ル定期検査申請又ハ臨時検査申請ト看做ス

第三百十四條 従前ノ規定ニ依リ交付シタル一等又ハ二等飛行機操縦士免狀ハ本令施行ノ日ヨリ三月間仍其ノ効力ヲ有ス

前項ノ期間ヲ經過シタルトキハ前項ノ免狀ヲ受有スル者ハ遲滞ナク當該免狀ヲ遞信大臣ニ返付スヘシ

第三百十五條 従前ノ規定ニ依リ交付シタル一等又ハ二等飛行機操縦士免狀ヲ受有スル者本令施行ノ日ヨリ二月以内ニ申請ヲ爲ストキハ考查ヲ行ハスシテ其ノ免狀ニ相當スル技倆證明書及航空免狀ヲ交付ス

前項ノ規定ニ依リ技倆證明書及航空免狀ノ交付ヲ受ケタル者ハ従前ノ規定ニ依リ受有スル一等又ハ二等飛行機操縦士免狀ヲ遲滞ナク遞信大臣ニ返付スヘシ

第三百十六條 従前ノ規定ニ依リ交付シタル三等飛行機操縦士免狀ハ本令施行後ニ於テモ當分ノ内仍其ノ効力ヲ有ス

遞信大臣ハ本令第五章ニ定ムル航空免狀ノ外當分ノ内三等飛行機操縦士免狀ヲ交付スルコトアルヘシ

三等飛行機操縦士ニ關スル事項ハ別ニ之ヲ定ム















検査ヲ受ケムトスル場所及時期

年 月 日

住所

氏

名印

遞信大臣宛

記

一 航空機ノ種類及型式

備考 航空機ノ種類ニ付テハ飛行機、航空船、氣球及凧ノ區別ヲ記載スヘシ

第三號書式

航空機定期検査申請書

左記航空機ノ定期検査相受度候ニ付此段申請候也

検査ヲ受ケムトスル場所及時期

年 月 日

住所

氏

名印

遞信大臣宛

記

一 登録證明書番號 未登録ノ航空機ニ在リテハ堪航證明書番號

二 登録記號

三 航空機ノ種類及型式

四 前回検査後ニ於ケル航空時間及主要航空記録

五 定期検査ヲ受クルニ付修繕又ハ改造ヲ爲シタルトキハ其ノ仕様概要

備考 航空機ノ種類ニ付テハ飛行機、航空船、氣球及凧ノ區別ヲ記載スヘシ

第四號書式ノ一

航空機臨時検査申請書

左記航空機ノ臨時検査相受度候ニ付此段申請候也

検査ヲ受ケムトスル場所及時期

年 月 日



遞信大臣宛

住所

氏

名印

記

- 一 登録證明書番號未登録ノ航空機ニ在リテハ堆航證明書番號
  - 二 登録記號
  - 三 航空機ノ種類及型式
  - 四 前回検査後ニ於ケル航空時間及主要航空記録
  - 五 臨時検査ヲ受クルニ付修繕又ハ改造ヲ爲シタルトキハ其ノ仕様概要
- 備考 航空機ノ種類ニ付テハ飛行機、航空船、氣球及凧ノ區別ヲ記載スヘシ

第四號書式ノ二

發動機臨時検査申請書

左記發動機ノ臨時検査相受度候ニ付此段申請候也  
検査ヲ受ケムトスル場所及時期

年 月 日

住所

氏

名印

遞信大臣宛

記

- 一 裝備航空機ノ種類及型式
  - 二 發動機検査済記號検査済記號ナキ發動機ニ在リテハ其ノ旨記載スルコト
  - 三 發動機ノ製造者、製造番號、型式及馬力
  - 四 前回検査後ニ於ケル使用時間
  - 五 臨時検査ヲ受クルニ付修繕又ハ改造ヲ爲シタルトキハ其ノ仕様概要
- 備考 裝備航空機ノ種類ニ付テハ飛行機、航空船、氣球及凧ノ區別ヲ記載スヘシ

第四號書式ノ三

航空機用「プロペラ」臨時検査申請書

左記航空機用「プロペラ」ノ臨時検査相受度候ニ付此段申請候也

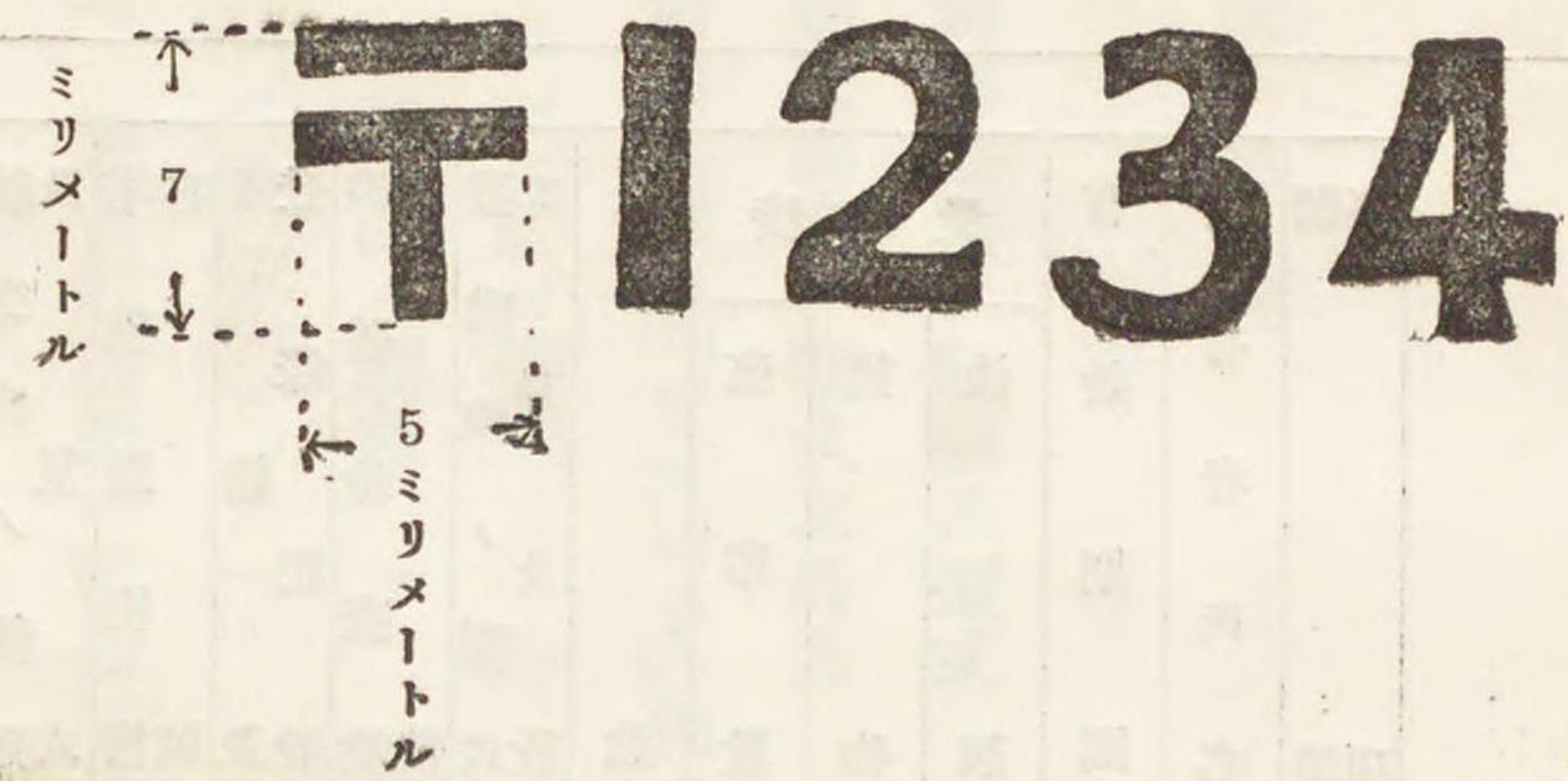
航空法施行規則



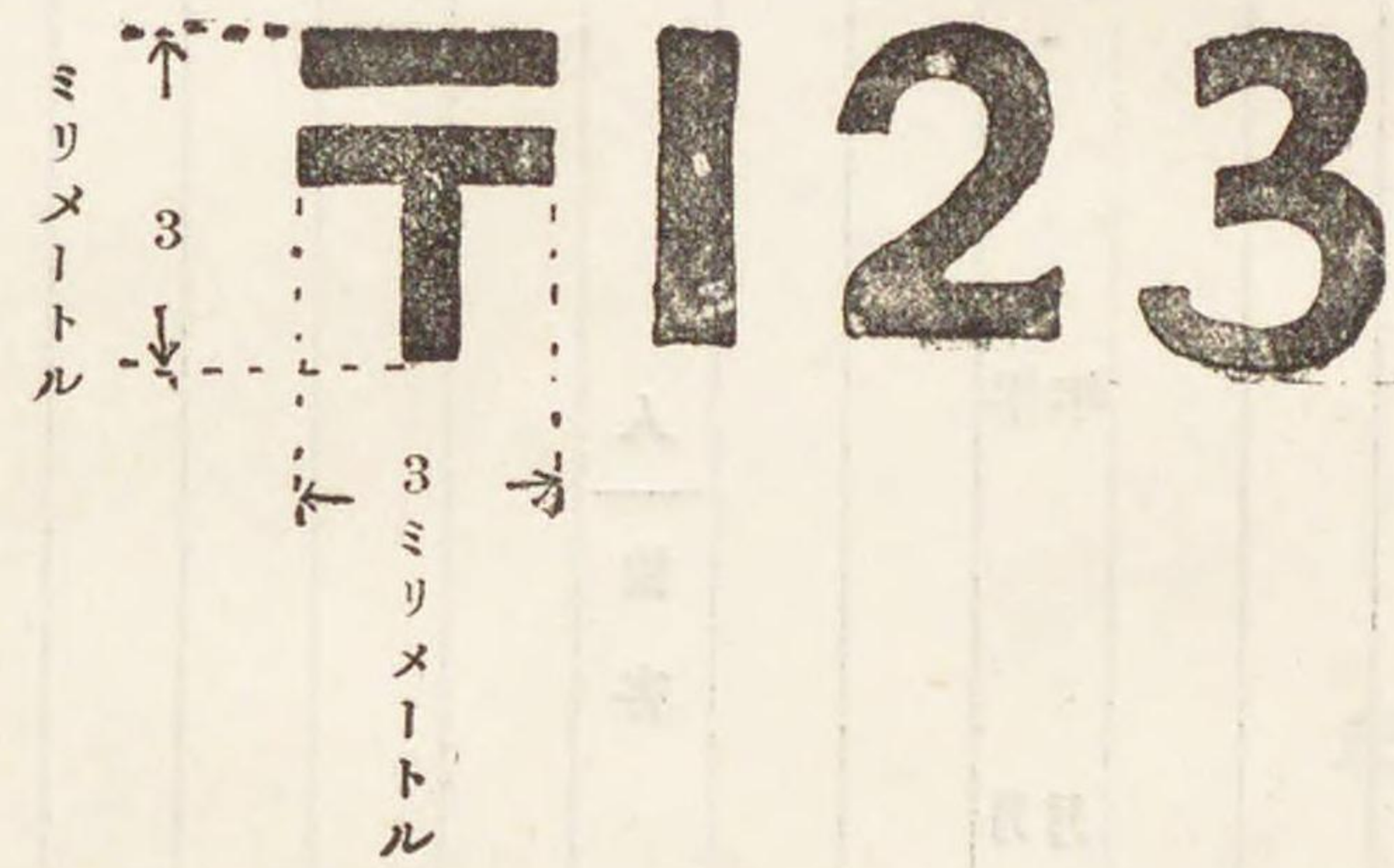




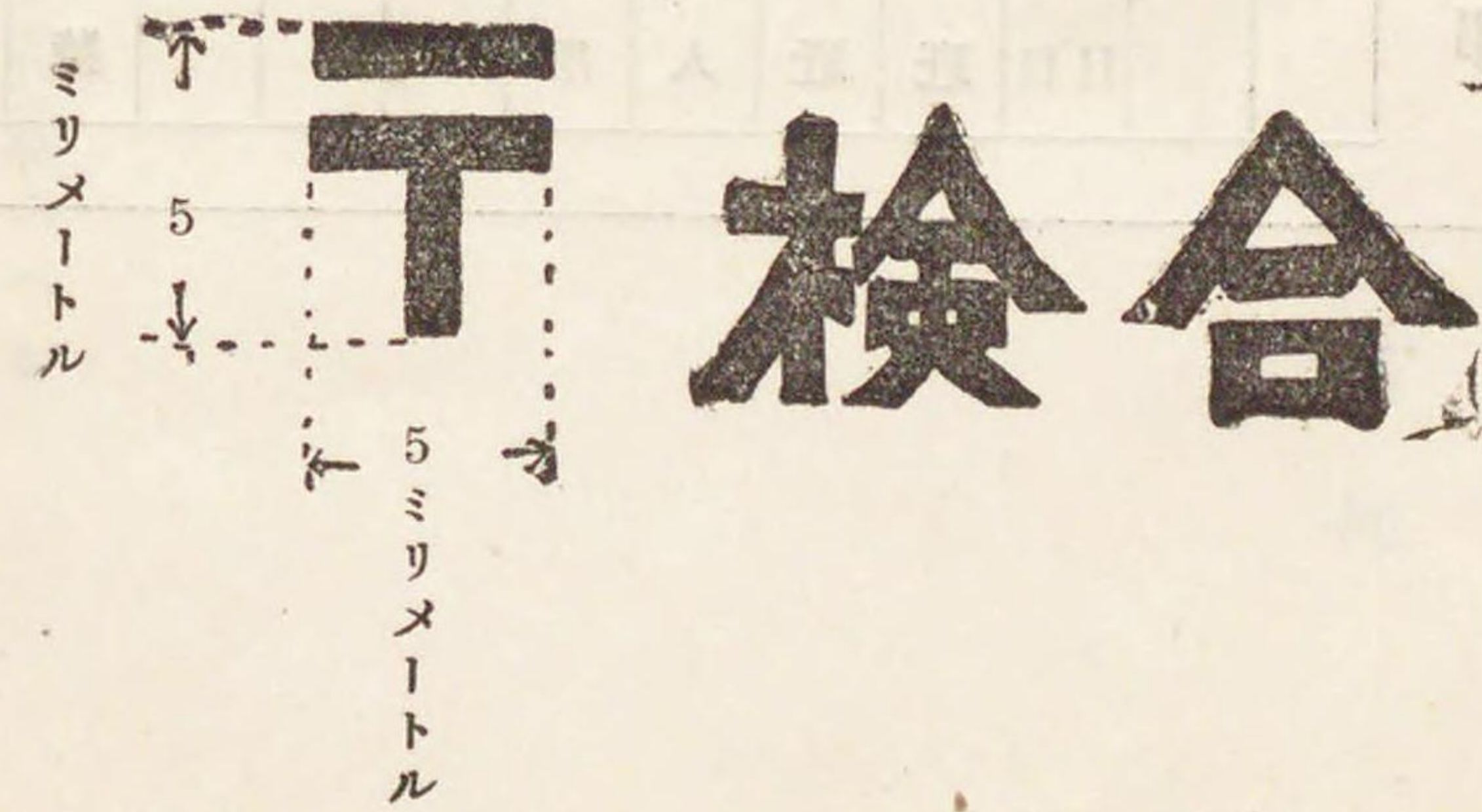
第六號書式ノ一 (機體検査済記號)



第六號書式ノ二 (發動機検査済記號)



第六號書式ノ三 (「プロペラ」検査済記號)



第七號書式

航空機新規登録申請書

航空機製造(何國ヨリ輸入等)致候ニ付左記事項航空機原簿ニ新規登録相成度戸籍抄本(及登記謄本)相添へ此段申請候也

年

月

日

住所

氏

名印

逓信大臣宛

記

一 航空機ノ種類

二 堪航證明書番號

三 機體

製造者

製造番號

型式

航空法施行規則



四 發動機

製造者

製造番號

型式

馬力

數

五 航空機ノ定置場

六 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

備考 航空機ノ種類ニ付テハ飛行機、航空船、氣球及凧ノ區別ヲ記載スヘシ

第八號 書式

航空機變更登録申請書

一 登録番號

二 登録記號

三 航空機ノ種類

四 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

右航空機ニ付テ記事項航空機原簿ニ變更登録相成度(賣買證書相添ヘ等)此段申請候也

年 月 日

住所

氏

名印

遞信大臣宛

記

一 所有者

舊新

二 所有者ノ住所

舊新

三 .....

舊新

備考 航空機ノ種類ニ付テハ飛行機、航空船、氣球及凧ノ區別ヲ記載スヘシ

第九號 書式

航空機抹消登録申請書



一 登録番號

二 登録記號

三 航空機ノ種類

四 所有者ノ氏名又ハ名稱及住所

右航空機今般解撤(破壊等)致候ニ付左記事項航空機原簿ニ抹消登録相成度此段申請候也

年 月 日

住 所

氏

名 印

遞信大臣宛

記

一 事由 解撤(破壊、何國人(賣渡等))

二 事由發生年月日

備考 航空機ノ種類ニ付テハ飛行機、航空船、氣球及凧ノ區別ヲ記載スヘシ

第十號書式

航空機原簿			
航空機ノ種類	國籍及登録記號	登録番號	第 號
機體型式	製造者	製番造號	發機動數
堪航證明書第 號	第 號	第 號	第 號
堪航證明書有效期間	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日	自昭和 年 月 日 至昭和 年 月 日
所有者氏名			
住所			
定置場			
發	製造者		
	製造番號	第 號	第 號
	型 式		
動	馬 力	馬力	馬力
	製造者		
	製造番號	第 號	第 號
機	型 式		
	馬 力	馬力	馬力
	製造者		
機	製造番號	第 號	第 號
	型 式		
	馬 力	馬力	馬力
登錄年月日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日	昭和 年 月 日
記 事			







航空法施行規則

第十二號書式ノ二  
第 號

等航空船操縦士技倆證明書

本籍

寫眞

氏

年 月 日 名

右者成規ノ實地試驗及學科試驗ニ合格シタリ依テ左記航空船ニ付 等航空船操縦士タルノ技倆ヲ有ス  
ルモノト認定ス

航

空 記

年 月 日

船 認 定 年 月 日

遞 信 省 印

第十二號書式ノ三

第 號

自由氣球操縦士技倆證明書

本籍

寫眞

氏

年 月 日 名

右者成規ノ實地試驗及學科試驗ニ合格シタリ依テ自由氣球操縦士タルノ技倆ヲ有スルモノト認定ス

年 月 日

遞 信 省 印

第十二號書式ノ四

第 號

等航空士技倆證明書

本籍

航空法施行規則



寫眞

右者成規ノ實地試験及學科試験ニ合格シタリ依テ 等航空士タルノ技倆ヲ有スルモノト認定ス

年 月 日

氏

年 月 日生 名

遞 信 省 印

第十二號書式ノ五

第

號

航空機機關士技倆證明書

本 籍

寫眞

右者成規ノ實地試験及學科試験ニ合格シタリ依テ航空機機關士タルノ技倆ヲ有スルモノト認定ス

年 月 日生 氏 名

氏

遞 信 省 印

年 月 日

第十三號書式ノ一

第

號

等飛行機操縦士免狀

本 籍

住 所

寫眞

右者 等飛行機操縦士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ體格検査ニ合格シタリ依テ左記飛行機ニ付 等飛行機操縦士タルコトヲ免許ス

年 月 日

氏

年 月 日生 名

遞 信 省 印



飛行記

機免許年月日

印

制限事項

項年月日

印

體格檢查成績

績檢查年月日有效期間

印

第十三號書式ノ二

本籍、住所、氏名變更事項

種別變更事項變更年月日印

第十三號書式ノ二

第 號

等航空船操縦士免狀

本籍住所

寫真

氏名 年 月 日生

右者 等航空船操縦士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ體格檢查ニ合格シタリ依テ左記航空船ニ付 等航  
航空法施行規則



空船操縦士タルコトヲ免許ス

年 月 日

遞 信 省 印

航

空 記

船

免

許

年

月

日

印

制

限

事

項

事

項

年

月

日

印

體

格

檢

查

成

績



成

績

檢

查

年

月

日

有

效

期

間

印

種

本籍、住所、氏名變更事項

別

變

更

事

項

變

更

年

月

日

印

第十三號書式ノ三

第

號

自由氣球操縦士免狀

本

籍

住

所

航空法施行規則



寫真

氏

年 月 日生

右者自由氣球操縦士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ體格検査ニ合格シタリ依テ自由氣球操縦士タルコトヲ免許ス

年 月 日

遞 信 省 印

制 限 事 項

事 項

年 月 日

印

體 格 檢 査 成 績

年 月 日

年 月 日

印

成

績 檢 査 年 月 日

有 效 期 間

印

本籍、住所、氏名變更事項

種 別 變 更 事 項 變 更 年 月 日

印

第十三號書式ノ四

第 號

等 航 空 士 免 狀

本 籍 住 所



寫眞

氏  
年 月 日 生 名

右者 等航空士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ體格検査ニ合格シタリ依テ 等航空士タルコトヲ免許ス

年 月 日

遞 信 省 印

事 制 限 事 項 年 月 日 印

體 格 檢 査 成 績 年 月 日 有 效 期 間 印

成 績 檢 査 年 月 日 有 效 期 間 印

本籍、住所、氏名變更事項

種 別 變 更 事 項 變 更 年 月 日 印

第十三號書式ノ五 第 號

航空機機關士免狀

本 籍 住 所

寫眞

氏  
年 月 日 生 名

右者航空機機關士技倆證明書ヲ受有シ且成規ノ體格検査ニ合格シタリ依テ航空機機關士タルコトヲ免許ス

年 月 日



制限事項 年 月 日

印

體格檢查成績

成績 檢查年月日 有效期間

印

種別變更事項

變更年月日

印

第十四號書式

何々技倆證明書交付申請書

私儀何々技倆證明書相受度候ニ付關係書類及寫真相添へ此段申請候也

- 一 試驗ヲ受ケムトスル場所及時期
- 二 受験ノ爲使用セムトスル航空機ノ型式
- 三 試驗ヲ受ケムトスル曲技飛行ノ種類及使用飛行機ノ型式

年 月 日

本籍 住所

氏

年 月 日 生

名 印

遞信大臣宛

第十五號書式

履歷書

本籍



住所

氏

年 月 日生

一 國籍

二 軍籍

三 學歷

四 操縦術機關術其ノ他技術修業ニ關スル履歷

五 職業

六 賞罰

右之通相違無之候也

年 月 日

氏

名 印

備考

- 一 操縦術修業ニ關スル履歷ニハ操縦シタル航空機ノ型式、操縦回数、操縦時間其ノ他ノ事項ヲ詳細ニ記載シ尙技術證明書又ハ航空免狀ノ受有者ニ在リテハ當該證明書又ハ免狀ノ寫ヲ添附スヘシ
- 二 機關術其ノ他ノ特殊技術修業ニ關スル履歷ニハ取扱ヒタル機關其ノ他技術修業ニ關スル事項ヲ詳細ニ記載シ尙技術證明書又ハ航空免狀ノ受有者ニ在リテハ當該證明書又ハ免狀ノ寫ヲ添附スヘシ

第十六號 書式

何々免狀交付申請書

私儀何々免狀相受度候ニ付關係書類及寫真相添へ此段申請候也

年 月 日

本 籍 住 所



遞信大臣宛

氏

年

月

名印  
日生

第十七號書式

何々免狀效力擴張申請書

私儀現ニ受有スル何々免狀ノ效力擴張致度候ニ付此段申請候也

一 受有航空免狀ノ種類及番號

二 試験ヲ受ケムトスル場所及時期

三 受験ノ爲使用セムトスル航空機ノ型式

四 試験ヲ受ケムトスル曲技飛行ノ種類及使用飛行機ノ型式

年 月 日

本籍

住所

氏

名印

遞信大臣宛

●航空機検査規則

(昭和二年五月五日  
遞信省令第九號)

航空機検査規則

目次

第一編 總則

第二編 飛行機ノ製造検査

第一章 機體ノ製造検査

第一節 機體ノ設計ノ検査

第二節 機體ノ材料ノ検査

第三節 機體ノ部分品ノ検査

第四節 機體ノ技巧及製品ノ検査

第五節 機體ノ標準品ノ検査

第一款 通則

第二款 主翼

第三款 胴體、發動機架及尾翼



第四款 操縦装置

第五款 降著装置

第二章 發動機ノ製造検査

第一節 發動機ノ設計、材料、部分品、技巧及製品ノ検査

第二節 發動機ノ標準品ノ検査

第一款 通則

第二款 主要運轉検査

第三款 分解検査

第四款 補助運轉検査

第三章 「プロペラ」ノ製造検査

第一節 「プロペラ」ノ設計、材料、部分品、技巧及製品ノ検査

第二節 「プロペラ」ノ標準品ノ検査

第四章 附屬品ノ製造検査

第一節 附屬品ノ設計、材料、部分品及技巧ノ検査

第二節 附屬品ノ製品ノ検査

第一款 高度計

第二款 速度計

第三款 羅針盤

第四款 壓力計

第五款 水溫計

第六款 時計

第七款 回轉計

第八款 傾斜計

第九款 燃料装置

第十款 氣化器

第十一款 潤滑油装置

第十二款 冷却水装置

第十三款 著火装置

第十四款 始動装置

第十五款 燈火装置



第十六款 落下傘

第十七款 救命胴衣

第三編 飛行機ノ特別検査、定期検査及臨時検査

第一章 飛行機ノ特別検査

第二章 飛行機ノ定期検査及臨時検査

第四編 飛行機ノ堪航検査

第一章 通則

第二章 地上検査

第三章 航空検査

第一編 總則

第一條 航空機ノ製造検査ニ於テハ機體、發動機、「プロペラ」及附屬品ノ構造及機能並航空機ノ堪航性ヲ検査ス

第二條 航空機ノ特別検査ニ於テハ機體、發動機、「プロペラ」及附屬品ノ構造、機能及現狀經過年月、保存ノ状態等以下同シ並航空機ノ堪航性ヲ検査ス

第三條 航空機ノ定期検査ニ於テハ機體、發動機、「プロペラ」及附屬品ノ機能及現狀並航空機ノ堪航性ヲ

検査ス

第四條 航空機ノ臨時検査ニ於テハ航空法施行規則第十條ニ規定スル場合ニ於テ検査官吏ノ必要ト認ムル部分ニ付其ノ構造、機能及現狀ヲ検査ス

前項ノ場合ニ於テ検査官吏必要アリト認ムルトキハ航空機ノ堪航性ヲ検査スルコトヲ得

第五條 本令ニ規定セサル事項ニ付テハ検査官吏ハ航空ノ安全ヲ目的トシ機體、發動機、「プロペラ」並附屬品ノ構造、機能及現狀ノ適否ヲ認定スヘシ

第六條 機體、發動機、「プロペラ」又ハ附屬品ノ構造、機能若ハ現狀ニシテ本令ノ規定ニ適合セサルモ検査官吏ニ於テ之ト同等以上ノ效力ヲ有スト認定セルモノニ付テハ之ヲ本令ノ規定ニ適合スルモノト看做ス

第七條 検査官吏ニ於テ適當ト認ムル證明書ヲ有スル機體、發動機、「プロペラ」又ハ附屬品ニ付テハ本令ニ規定スル検査ノ一部ヲ省略スルコトヲ得

第八條 検査ニ要スル費用ハ官ニ於テ支出スルモノヲ除クノ外検査申請者ノ負擔トス

第九條 本令ニ掲クル第一種飛行機、第二種飛行機及第三種飛行機ノ區別並標準溫度及標準氣壓ハ國際航空條約ノ定ムル所ニ依ル

第十條 本令ニ於テ飛行機ノ全備重量トハ當該飛行機ノ設計書ニ掲クル燃料、潤滑油、冷却水、乗員、貨



物及裝備品ヲ滿載シタル場合ニ於ケル飛行機ノ重量ヲ謂フ

第十一條 飛行機ニ非サル航空機ノ検査ハ當分ノ内之ヲ行ハス

第二編 飛行機ノ製造検査

第一章 機體ノ製造検査

第一節 機體ノ設計ノ検査

第十二條 機體ノ設計ノ検査ハ検査申請者ノ提出シタル設計書及設計圖面ニ依リ之ヲ行フ  
前項ノ場合ニ於テ検査官吏必要アリト認ムルトキハ検査申請者ヲシテ當該設計ニ依ル飛行機ノ模型ノ風洞試験成績書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十三條 機體ハ其ノ各部カ飛行中及地上操作中ニ作用セラルヘキ最大ノ力ニ堪ヘ得ル様設計セラルルコトヲ要ス

第十四條 「プロペラ」ノ回轉ニ依リ機體ノ各部ニ作用スル力ハ飛行機ノ速力計算ニ付用フル「プロペラ」ノ回轉數ト同一ノ回轉數ニ依リ生スル力ヲ用フヘシ

第十五條 機體ノ設計ニ於テハ標準溫度及標準氣壓ヲ用フヘシ

第十六條 主翼ノ各部ノ強度ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ計算シ其ノ何レノ場合ニ於テモ充分ナル強度ヲ有スル様設計セラルルコトヲ要ス

一 風壓ノ中心カ主翼ノ最前部ニ作用スル場合

此ノ場合ニ於テハ左表ニ掲クル荷重係數ヲ用ヒ主翼各部ノ強度ヲ計算スヘシ

飛行機ノ種別	荷重		係數
	飛行機ノ全備重量千キログラム未滿ノ場合	飛行機ノ全備重量千キログラム以上五千キログラム未滿ノ場合	
第一種飛行機	七	七乃至五	五
第二種飛行機	五	五乃至四	四
第三種飛行機	九	九乃至七	七

二 風壓ノ中心カ主翼ノ中部ニ作用スル場合

此ノ場合ニ於テハ左表ニ掲クル荷重係數ヲ用ヒ主翼各部ノ強度ヲ計算スヘシ

飛行機ノ種別	荷重		係數
	飛行機ノ全備重量千キログラム未滿ノ場合	飛行機ノ全備重量千キログラム以上五千キログラム未滿ノ場合	
第一種飛行機	五、二五	五、二五乃至三、七五	三、七五
第二種飛行機	三、七五	三、七五乃至三、〇〇	三、〇〇
第三種飛行機	六、七五	六、七五乃至五、二五	五、二五



三 風壓ノ中心カ主翼ノ最後部ニ作用スル場合

此ノ場合ニ於テハ左表ニ掲クル荷重係數ヲ用ヒ主翼各部ノ強度ヲ計算スヘシ

飛行機ノ種別	荷重係數
第一種飛行機	一、五
第二種飛行機	一、二
第三種飛行機	二、五

四 不良ナル著陸ヲ爲ス場合

飛行機カ水平飛行ノ姿勢ヲ探リタル儘落下スルカ如キ状態ヲ以テ著陸スル場合ノ如シ

此ノ場合ニ於テハ主翼ノ各部及主翼ニ附屬スル各部ノ重量ニ左ノ荷重係數ヲ乘シ主翼各部ノ強度ヲ計算スヘシ

飛行機ノ種別	荷重係數
第一種飛行機	六、〇
第二種飛行機	四、五
第三種飛行機	六、〇

前項ノ規定ニ依リ主翼ノ各部ノ強度ヲ計算スル場合ニ於テハ「プロペラ」ノ回轉ニ依リ生スル力ハ之ヲ加算セサルモノトス

第十七條 「プロペラ」ノ回轉ニ依リ主翼ノ各部ニ作用スル力ヲ計算スルニハ當該各部ニ對スル前條各號ニ規定スル荷重係數ヲ用フヘシ但シ其ノ荷重係數カ二、五以上ナルトキハ二、五ヲ用フヘシ

第十八條 主翼ノ各部ノ強度ハ第十六條各號ノ場合ニ於テ主翼ノ各部ニ作用スル力ト「プロペラ」ノ回轉ニ依リ主翼ノ各部ニ作用スル力トノ合計力之ニ作用スルモノトシテ計算スヘシ

第十九條 主翼ハ前條ニ規定スル強度ヲ有スルノ外左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

一 第十六條第一號及第二號ノ場合ニ於テ當該荷重係數ノ二分ノ一ヲ附加シ且張線又ハ緊付金具ノ一部ヲ切斷スルモ主翼ノ各部ノ破壊セサル様設計セララルコト

二 飛行機カ自力ニ依リ地上ヲ移動スル場合又ハ飛行機ヲ地上ニ静止セシメタル儘裝備發動機ノ一箇、數箇若ハ全部ヲ最大馬力ヲ以テ運轉セシメタル場合ニ於テ主翼ノ各部ニ作用スル力カ二、五ヲ乘シタル力カ主翼ノ各部ニ作用スルモノトシテ設計セララルコト

第二十條 垂直尾翼ノ翼面ニ作用スル力トスハ第一種飛行機及第二種飛行機ニ付テハ左ノ第一式ニ依リ、第三種飛行機ニ付テハ左ノ第二式ニ依リ之ヲ計算スヘシ

第一式  $V = Q$



第二式  $V = \sqrt{4Q}$

$V$  ハ  $\text{Km/h}$  ヲ單位トスル最大速力  
 $Q$  ハ  $\text{Kg/m}^2$

前項ノ各式ニ依リ算出シタル結果カ七〇  $\text{Kg/m}^2$  以下ナルトキハ之ヲ七〇  $\text{Kg/m}^2$  トシテ計算スヘシ

第二十一條 降著装置ニ作用スル力ハ著陸ニ際シ飛行機ノ全備重量カ兩方ノ降著装置ニ掛ルモノトシ且左ノ各號ノ力ノ中第一號及第二號ニ掲クル力カ同時ニ、又ハ第一號及第三號ニ掲クル力カ同時ニ降著装置ニ作用スルモノトシテ之ヲ計算スヘシ

- 一 車輪軸承又ハ之ニ相等スル部分ノ中心ニ下方ヨリ垂直ニ働ク力 荷重係數ハ六トス
- 二 車輪軸承ノ中心又ハ之ニ相等スル部分ノ中心ニ前方ヨリ水平ニ働ク力 荷重係數ハ四トス
- 三 車輪ノ中心又ハ之ニ相等スル部分ノ中心ト地面又ハ水面ト接觸スヘキ點ヲ連ヌル直線ノ中央部ニ外側ヨリ働ク力 荷重係數ハ六トス

第二十二條 旅客室ノ面積ハ其ノ室ノ下面ノ前中後三箇所ノ幅ヲ測リ前後ノ幅ニ中央ノ幅ノ四倍ヲ加ヘ之ヲ六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長ヲ乘シタルモノトス

第二十三條 旅客室ノ容積ハ其ノ室ノ前中後三箇所ニ於テ上中下ノ幅ヲ測リ前後上下ノ幅ニ前後ノ中幅及中央上下ノ幅各四倍ト中央ノ中幅十六倍トヲ加ヘ之ヲ三十六ニテ除シ平均ノ幅トシ之ニ長ヲ乘シ總面積

トシ之ヨリ其ノ室内ニ於ケル蔽圍シタル場所ノ平均ノ幅ニ長ヲ乘シタルモノヲ減シ其ノ残りノ面積ニ平均ノ高ヲ乘シタルモノトス

第二十四條 旅客室ノ高ハ一、六メートル以上ナルコトヲ要ス

第二十五條 旅客室ニ於ケル旅客定員一人當リ面積ハ〇、六七五平方メートル以上ナルコトヲ要ス

第二十六條 旅客室ニ於ケル旅客定員一人當リ容積ハ一、〇八立方メートル以上ナルコトヲ要ス

第二十七條 旅客室ニ於ケル座席ノ幅及長ハ一人當リ各五〇〇ミリメートル以上ナルコトヲ要ス

第二十八條 旅客室ノ高、旅客定員一人當リノ容積並座席ノ幅及長ハ航空路ノ狀況、飛行繼續時間其ノ

他ノ事由ニ因リ検査官吏差支ナシト認ムルトキハ前四條ノ規定ニ拘ラス之ヲ減スルコトヲ得

第二十九條 乗員室ノ面積ノ測定ニ付テハ第二十二條及第二十三條ノ規定ヲ準用ス

乗員室ニ於ケル乗員定員一人當リノ面積並座席ノ幅及長ニ付テハ前四條ノ規定ヲ準用ス

第三十條 旅客室及乗員室ニハ採光及通風ノ爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第三十一條 貨物室ニハ貨物ノ移動ヲ防ク爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第二節 機體ノ材料ノ検査

第三十二條 機體ノ材料ノ検査ハ左ノ時期ニ於テ之ヲ行フ

- 一 材料試験ヲ行フトキ



二 材料ニ加工シタル後結合、塗施等ヲ行ハサル前

三 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキ  
第三十三條 機體ノ材料ノ検査ハ別ニ定ムル材料規格ニ依リ之ヲ行フ但シ検査官吏ノ適當ト認ムル材料試験成績書アルトキハ之ニ依リ検査ヲ行フコトヲ得

第三十四條 機體ノ木部材料ノ検査ハ前條ノ規定ニ依ルノ外設計書及設計圖面ト對照シ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 形状、寸度及断面ノ良否特ニ接合部ノ形状及寸度ニ注意スルコト

二 膠著、釘著、螺著等ノ良否

三 變歪ノ有無

四 仕上及塗施ノ良否

五 重量

六 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第三十五條 機體ノ金屬部材料ノ検査ハ第三十三條ノ規定ニ依ルノ外設計書及設計圖面ト對照シ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 形状、寸度及断面ノ良否特ニ接合部ノ形状及寸度ニ注意スルコト

二 鋸著、鐸著、螺著等ノ良否

三 熱取扱ノ良否

四 仕上及塗施ノ良否

五 機能ノ良否

六 重量

七 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第三十六條 機體ノ布部材料ノ検査ハ第三十三條ノ規定ニ依ルノ外設計書及設計圖面ト對照シ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 縫著及釘著ノ良否特ニ布部ト金屬部トノ接合部ニ注意スルコト

二 仕上及塗施ノ良否

三 重量

四 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第三節 機體ノ部分品ノ検査

第三十七條 機體ノ部分品ノ検査ハ翼類、胴體、降著装置及艇體ニ付左ノ時期ニ於テ之ヲ行フ

一 各部ノ組立終了後塗施、被覆等ヲ行ハサル前



二 各部完成シタルトキ

三 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムルトキ

第三十八條 翼類ノ検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 形狀及寸度ノ良否

二 張線及張糸ノ緊張度ノ良否

三 各部組立ノ良否

四 金具類ノ取付及防錆ノ良否

五 操縦傳導裝置及其ノ機能ノ良否

六 操縦索ノ防錆及摩擦ニ對スル處置ノ良否

七 骨組ニ於ケル變歪ノ有無

八 布、合板及金屬板ノ骨組ニ對スル接著ノ良否

九 布ノ緊張度ノ良否

十 塗施ノ良否

十一 重量

十二 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第三十九條 胴體ノ検査ハ前條各號ノ事項ノ外左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 操縦席ノ設備ノ良否

二 計器板ノ取付ノ良否

三 油槽、導管其ノ他各種管類取付ノ良否

四 操縦裝置及其ノ機能ノ良否

五 旅客室、乗員室及貨物室ノ設備ノ良否

六 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第四十條 降著裝置ノ検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 形狀及寸度ノ良否

二 張線ノ緊張度ノ良否

三 各部組立ノ良否

四 金具類ノ取付、接著及防錆ノ良否

五 車輪及尾橇ノ取付ノ良否

六 緩衝裝置ノ良否

七 「フロート」ノ構造ノ良否



八 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第四十一條 艇體ノ検査ニ付テハ前二條ノ規定ヲ準用ス

第四節 機體ノ技功及製品ノ検査

第四十二條 機體ノ技功ノ検査ハ設計書及設計圖面ト對照シ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 仕上ノ良否

二 各部加工ノ良否

三 各部取付ノ良否

四 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第四十三條 機體ノ製品ノ検査ハ設計書及設計圖面ト對照シ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 重量

二 寸度ノ良否

三 變歪ノ有無

四 各部ノ調整、平衡及機能ノ良否

五 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第五節 機體ノ標準品ノ検査

第一款 通則

第四十四條 同一型式ノ機體ヲ多數製造セムトスル場合ニ於テ製造検査ノ申請アリタルトキハ本節ノ規定

ニ依リ標準品検査ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ標準品検査ヲ受ケムトスル者ハ製造検査申請書ニ其ノ旨附記スヘシ

第四十五條 機體ノ標準品検査ニ於テハ本章第一節乃至第四節ニ規定スル検査ノ外主翼、胴體、發動機架、

尾翼、操縱装置及降著装置ニ付破壊試験又ハ彈性試験ヲ行ヒ其ノ強度ヲ檢定ス

第四十六條 破壊試験ハ機體ノ各部ニ爾後ノ使用ニ堪ヘサル程度ノ變形ヲ生スル迄適當ノ荷重ヲ加ヘ機體

ノ強度ヲ檢定スルモノトス

彈性試験ハ機體ノ各部ニ爾後ノ使用ニ堪ヘサル程度ノ變形ヲ生セサル限度ニ於テ適當ナル荷重ヲ加ヘ機

體ノ強度ヲ檢定スルモノトス

第四十七條 機體ノ標準品検査ヲ行フ場合ニ於テハ試験ノ障害ト爲ルヘキ附屬品、機器等ヲ豫メ除去スヘ

シ

前項ノ規定ニ依リ附屬品、機器等ヲ除去シタル爲機體ノ強度ニ影響ヲ及ホス場合ニ於テハ相當ノ補強ヲ

爲スヘシ

第一項ノ検査ニ於テ機體ノ各部中壓縮ヲ受クヘキモノアルトキハ其ノ屈撓ヲ妨害セサル様注意スヘシ







Qハ主翼ニ加フヘキ全荷重 Kg

Nハ荷重係數

Aハ飛行機ノ全備重量 Kg

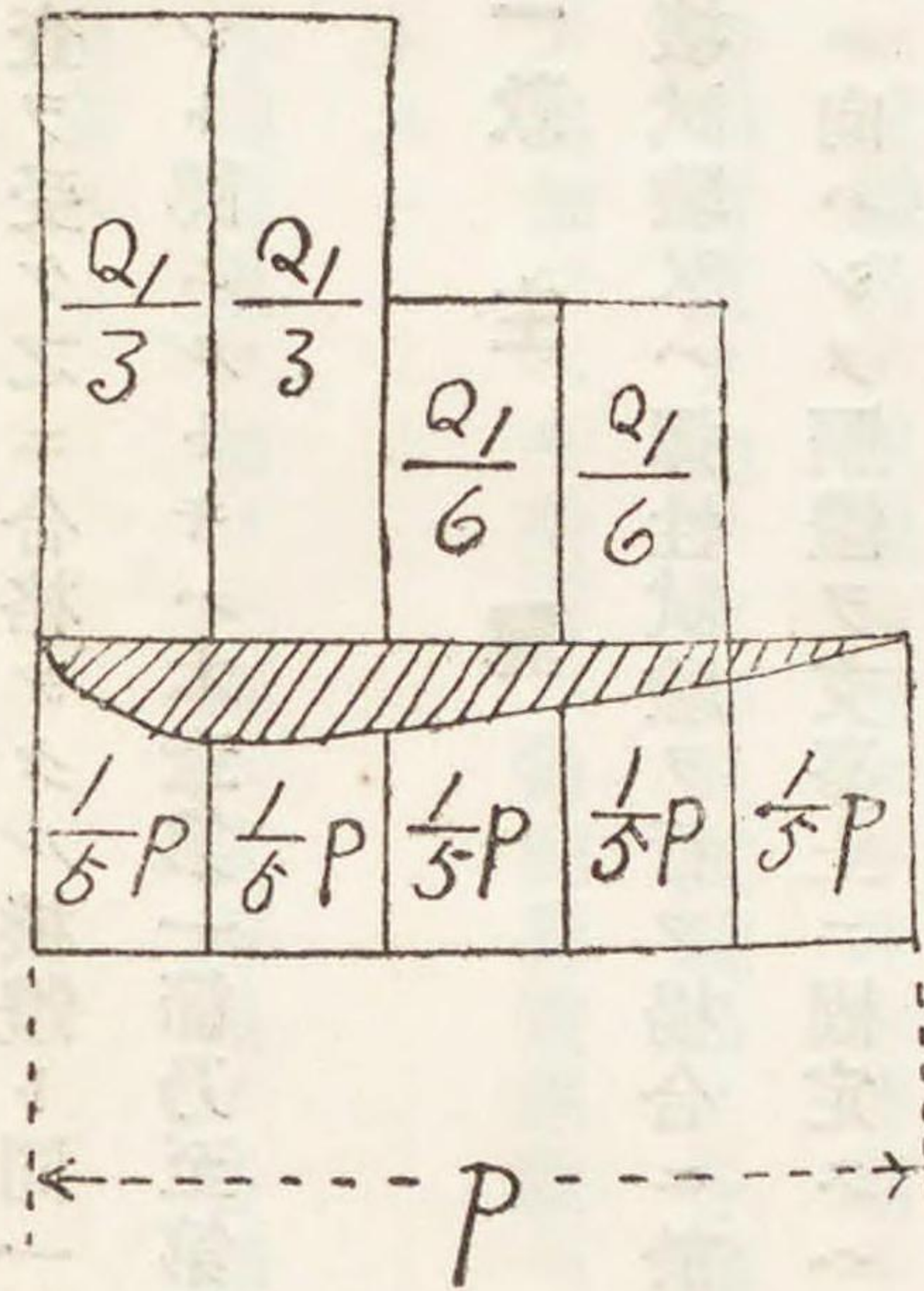
Bハ翼ノ重量 Kg

Cハ被覆ヲ剝脱セル翼ノ重量 搭載用合板等ヲ含ム Kg

第五十六條 主翼ノ破壊試験又ハ彈性試験ニ於ケル荷重ノ配置ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 單葉ノ場合

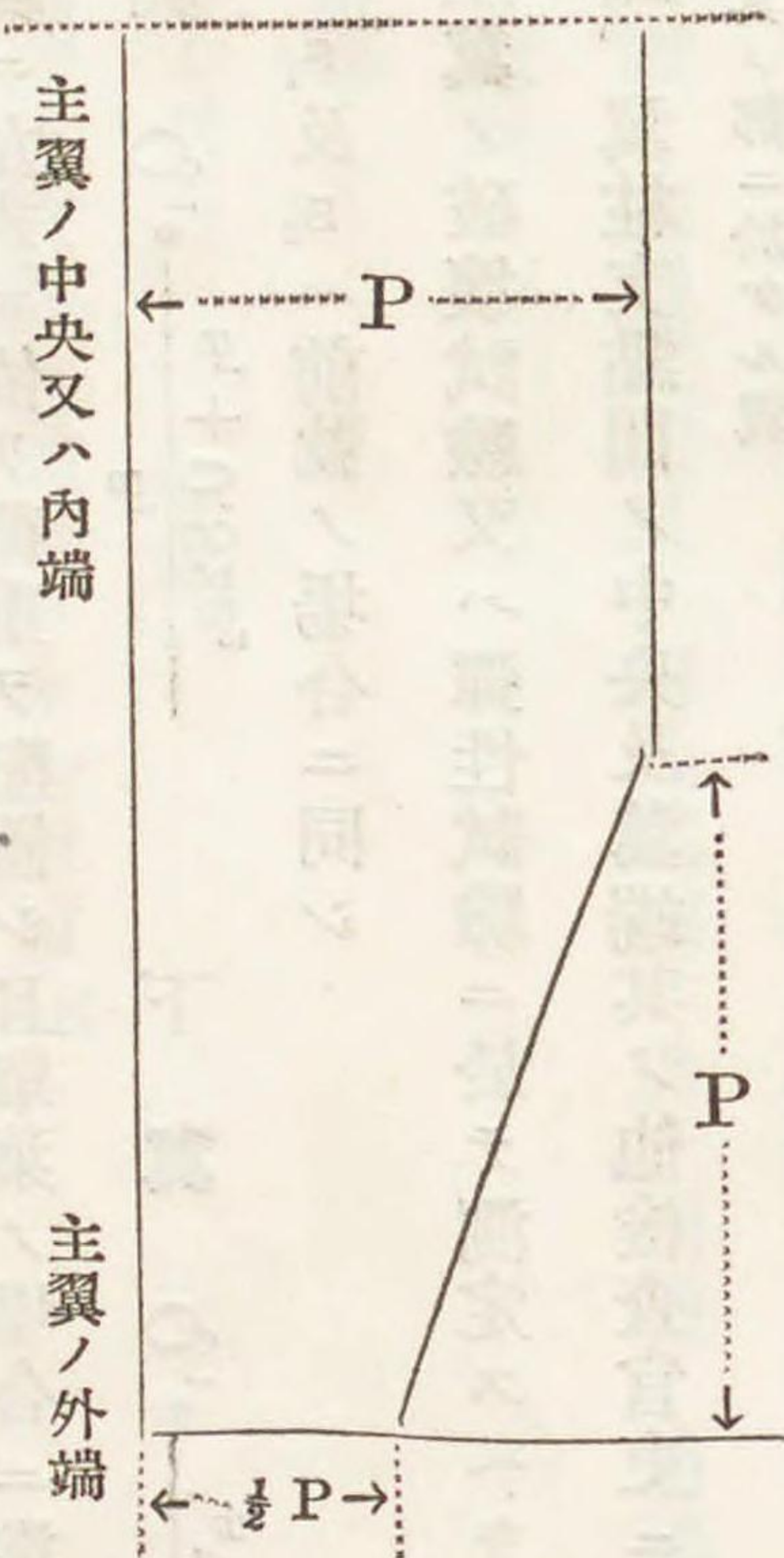
翼弦ニ沿ヒ加フヘキ荷重ハ弦長ヲ五等分シ左圖ニ依リ之ヲ配置スヘシ



第三十條 Q<sub>1</sub>ハ全搭載荷重ヲQトシタル場合ニ於テ單位翼長ニ加フヘキ荷重 Kg

三 Pハ翼弦長

翼弦長ノ一定セル場合ニ於テ翼長ニ沿ヒ荷重ヲ加フルニハ風壓力左圖ノ通作用スルモノトシテ之ヲ配置スヘシ



翼弦長ノ一定セル場合ニ於テ翼長ニ沿ヒ荷重ヲ加フルニハ前號ノ規定ニ依ルノ外風壓力弦長ニ正比例シテ作用スルモノトシテ之ヲ配置スヘシ

前二項ニ規定スル場合ヲ除クノ外局部的翼弦長ノ變化ハ之ヲ考慮セサルモノトス

二 複葉ノ場合

上翼及下翼ニ左式ニ依リ荷重ヲ配置シ且單葉ノ場合ニ準シ各翼面上ニ荷重ヲ配置スヘシ



$$\text{上翼 } Q_1 \cdot \frac{s_1}{s_1 + 0.8s_2} \quad \text{下翼 } Q_1 \cdot \frac{0.8s_2}{s_1 + 0.8s_2}$$

$Q_1$  ハ全搭載荷重ヲ  $Q$  トシタル場合ニ於テ單位翼長ニ加フヘキ荷重 Kg

$s_1$  ハ上翼ノ面積

$s_2$  ハ下翼ノ面積

三 喰違ニ配置セラレタル複葉ノ場合

上翼及下翼ニ左式ニ依リ荷重ヲ配置シ且單葉ノ場合ニ準シ各翼面上ニ荷重ヲ配置スヘシ

$$\text{上翼 } Q_1 \cdot \frac{s_1}{s_1 + 0.82s_2} \quad \text{下翼 } Q_1 \cdot \frac{0.82s_2}{s_1 + 0.82s_2}$$

$Q_1$ 、 $s_1$  及  $s_2$  ハ前號ノ場合ニ同シ

第五十七條 主翼ノ破壊試験又ハ彈性試験ニ於テ測定スヘキ事項左ノ如シ

一 翼柱支點、翼柱支點間ノ中央及翼端其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル諸點ニ於ケル屈撓量測  
點間ノ間隔ハ其ノ部ニ於ケル翼弦長ヲ超過セサルコトヲ要ス

二 各翼桁ノ端末其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル諸點ニ於ケル前進後退量、取付角ノ變化及喰違ノ變化

三 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第五十八條 主翼ノ破壊試験又ハ彈性試験ノ成績表ハ第一號表ニ依ル

第三款 胴體、發動機架及尾翼

第五十九條 胴體ノ破壊試験又ハ彈性試験ハ胴體及水平尾翼ニ付同時ニ之ヲ行フ但シ止ムコトヲ得サル事由アルトキハ胴體ト水平尾翼トヲ各別ニ試験スルコトヲ得

第六十條 胴體ノ破壊試験又ハ彈性試験ヲ行フ場合ニ於テハ飛行機ノ水平飛行ヲ爲ス場合ト略同一ノ姿勢ヲ保タシムル様主翼及脚ノ取付部ヲ以テ胴體ヲ支持臺ニ固定スヘシ

第六十一條 胴體ノ破壊試験又ハ彈性試験ニ於テ胴體ノ前部及後部並水平尾翼ニ加フヘキ荷重ノ計算ハ左ノ各號ノ式ニ依ルヘシ

一 胴體ノ前部

$$Q_2 = N \sum W - W$$

二  $Q_2$  ハ胴體ノ前部ニ加フヘキ全荷重 Kg

$W$  ハ胴體ノ前部ニ於ケル裝備品及搭載品ノ各重量 Kg

$W_1$  ハ試験装置ノ重量中試験荷重ニ含マルヘキモノ

$N$  ハ荷重係數

三 胴體ノ後部

$$Q_3 = 4 \sum W_2 \quad \text{後部ニ荷重ヲ加フルヲ要セス}$$

航空機検査規則



Q<sub>4</sub>ハ胴體ノ後部ニ加フヘキ全荷重 Kg

W<sub>2</sub>ハ胴體ノ後部ニ於ケル裝備品及搭載品ノ各重量 Kg

Q<sub>4</sub>ハ水平尾翼ニ加フヘキ全荷重 Kg

a ハ水平尾翼ニ加ヘラレタル荷重ノ重心位置ト全備飛行機ノ重心位置トノ距離 m

b ハ胴體ノ後部ニ加ヘラレタル荷重ノ重心位置ト全備飛行機ノ重心位置トノ距離 m

三 水平尾翼

$$Q_4 = \left( 0.8 + \frac{2500}{A} \right) \frac{c}{a} A$$

Q<sub>4</sub>ハ水平尾翼ニ加フヘキ全荷重 Kg

A ハ飛行機ノ全備重量 Kg

a ハ水平尾翼ニ加ヘラレタル荷重ノ重心位置ト全備飛行機ノ重心位置トノ距離 m

c ハ主翼翼弦ノ平均長 m

第六十二條 胴體、發動機架及水平尾翼ノ破壊試験又ハ彈性試験ニ於ケル荷重ノ配置ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 胴體及發動機架

前條第一號及第二號ノ規定ニ依リ算出セラレタル荷重ヲ適宜數回ニ分チテ各裝備品及搭載品ヲ搭載ス

ヘキ位置ニ配置スヘシ

前項ノ場合ニ於テ荷重ハ局部ニ偏在セサル様之ヲ配置シ且各部ニ配置スヘキ荷重ノ比率ハ前條第一號及第二號ニ規定スル荷重ノ比率ニ依ルヘシ

二 水平尾翼

前條第三號ノ規定ニ依リ算出セラレタル荷重ヲ第五十六條第一號ノ規定ニ準シ配置スヘシ

第六十三條 胴體ノ破壊試験又ハ彈性試験ニ於テ測定スヘキ事項左ノ如シ

一 胴體ノ屈撓量 主トシテ縦通材カ胴體ノ強度ヲ保持スルモノニ在リテハ下部兩側縦通材ノ支持部ニ於テ屈撓量ヲ測定シ被覆カ胴體ノ強度ヲ分擔シアルモノニ在リテハ兩側面上ニ基準線ヲ設ケ其ノ線上ニメートル以下ノ間隔ヲ以テ測點ヲ定メ屈撓量ヲ測定スヘシ

二 發動機架ノ傾斜量及彎曲量 發動機架ニ基準線ヲ設ケ其ノ傾斜量及彎曲量ヲ測定スヘシ

三 胴體ノ尾部端末ニ於ケル左右變倚量

四 胴體ノ被覆 布ヲノ變形 寫眞其ノ他ノ方法ニ依リ之ヲ表示スヘシ

五 水平尾翼桁ノ屈撓量 水平尾翼ノ支持點及其ノ端末ニ於テ屈撓量ヲ測定スヘシ

六 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第六十四條 胴體ノ破壊試験又ハ彈性試験ノ成績表ハ第二號表ニ依ル

第四款 操縱裝置



第六十五條 操縦装置ノ破壊試験又ハ彈性試験ハ補助翼、昇降舵、方向舵及操縦傳導装置ニ付各別ニ之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ補助翼、昇降舵及方向舵ノ破壊試験又ハ彈性試験ハ靜荷重試験ニ依リ之ヲ行ヒ操縦傳導装置ノ破壊試験又ハ彈性試験ハ動荷重試験ニ依リ之ヲ行フ但シ止ムコトヲ得サル事由アル場合ニ於テハ操縦傳導装置ノ試験ヲ靜荷重試験ニ依リ行フコトヲ得

第六十六條 操縦装置ノ破壊試験又ハ彈性試験ヲ行フ場合ニ於テハ補助翼、昇降舵、方向舵及操縦傳導裝置ヲ機體ニ取付ケ操縦傳導裝置ノ端末ハ之ヲ固定スヘシ

前項ノ規定ニ依リ難キトキハ補助翼、昇降舵、方向舵及操縦傳導裝置ヲ機體ニ取付クルト同様ノ方法ヲ以テ支持臺ニ取付ケ操縦傳導裝置ノ端末ヲ固定スヘシ

第六十七條 補助翼、昇降舵及方向舵ノ破壊試験又ハ彈性試験ニ於テ之ニ加フヘキ荷重ノ計算ハ左ノ各號ノ式ニ依ルヘシ

一 補助翼

$$Q_1 = 1.3Q \cdot \frac{S_1}{S}$$

Q<sub>1</sub> ハ補助翼ニ加フヘキ全荷重 Kg

Q ハ補助翼ヲ有スル主翼ニ加フヘキ全荷重 Kg

S<sub>1</sub> ハ補助翼ノ面積 m<sup>2</sup>

S ハ右補助翼ヲ有スル主翼ノ面積 m<sup>2</sup>

二 昇降舵

$$Q_2 = Q_1 \cdot \frac{S_2}{S_1}$$

Q<sub>2</sub> ハ昇降舵ニ加フヘキ全荷重 Kg

Q<sub>1</sub> ハ水平尾翼ニ加フヘキ全荷重 Kg

S<sub>2</sub> ハ水平尾翼ノ面積 m<sup>2</sup>

S<sub>1</sub> ハ昇降舵ノ面積 m<sup>2</sup>

三 方向舵

$$Q_3 = Q_2 \cdot \frac{S_3}{S_2}$$

Q<sub>3</sub> ハ方向舵ニ加フヘキ全荷重 Kg

Q<sub>2</sub> ハ水平尾翼ニ加フヘキ全荷重 Kg

S<sub>3</sub> ハ水平尾翼ノ面積 m<sup>2</sup>

S<sub>2</sub> ハ方向舵ノ面積 m<sup>2</sup>

第六十八條 補助翼、昇降舵及方向舵ノ破壊試験又ハ彈性試験ニ於ケル荷重ノ配置ハ各部均齊ナラシムヘ



第六十九條 補助翼、昇降舵及方向舵ノ靜荷重試験ニ依ル破壊試験又ハ彈性試験ニ於テハ補助翼、昇降舵及方向舵ノ變形ヲ測定シ且其ノ變形及破壊ノ状態ヲ寫真其ノ他ノ方法ニ依リ表示スヘシ

第七十條 操縱傳導裝置ノ動荷重試験ニ於テハ其ノ各部ヲ機體ニ取付ケ又ハ機體ニ取付クルト同様ノ方法ヲ以テ支持臺ニ取付ケ且補助翼、昇降舵及方向舵ニ接續セラルヘキ操縱傳導裝置ノ一端ヲ機體又ハ支持臺ニ固著セシメタル適宜ノ彈性體ノ他端ニ接續セシメタル上臂力又ハ脚力ヲ以テ操縱桿及踏棒ヲ最大限度ニ數回往復運動セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ操縱傳導裝置ノ一端ト接續セシムヘキ彈性體ノ強度ハ操縱傳導裝置ニ作用スル最大力ニ等シキ様調整セラルルコトヲ要ス

第五款 降著裝置

第七十一條 著陸裝置ノ破壊試験又ハ彈性試験ハ靜荷重試験及動荷重試験ニ依リ之ヲ行フ  
著水裝置ノ破壊試験又ハ彈性試験ハ「フロート」及艇體ニ付テハ動荷重試験ニ依リ取付支柱ニ付テハ靜荷重試験ニ依リ之ヲ行フ

第七十二條 著陸裝置ノ脚部ノ靜荷重試験ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

一 飛行機ノ横軸ニ十分ノ一ノ傾斜ヲ與ヘタル場合ノ姿勢ニ於テ脚ヲ支持スヘシ

二 脚部ニ加フヘキ荷重ノ計算ハ左式ニ依ルヘシ

$$Q_5 = NA$$

$Q_5$  ハ脚部ニ加フヘキ全荷重 Kg

A ハ飛行機ノ全備重量 Kg

N ハ荷重係數

三 前號ノ規定ニ依リ算出セラレタル荷重ヲ適宜數回ニ分チ脚部ノ上方ヨリ漸次ニ之ヲ加フヘシ

四 要部ノ變形ハ之ヲ測定スヘシ

第七十三條 著陸裝置ノ尾橈ノ靜荷重試験ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

一 飛行機ノ縱軸ニ三分ノ一ノ俯角ヲ與ヘタル時ノ姿勢ニ於テ尾橈ヲ支持スヘシ

二 尾橈ニ加フヘキ荷重ノ計算ハ左式ニ依ルヘシ

$$Q_6 = NA_1$$

$Q_6$  ハ尾橈ニ加フヘキ全荷重 Kg

$A_1$  ハ全備重量ノ飛行機ヲ地上ニ靜止セシメタルトキ尾橈ノ支持スヘキ重量 Kg

N ハ荷重係數

三 前號ノ規定ニ依リ算出セラレタル荷重ヲ適宜數回ニ分チ尾橈ノ上方ヨリ漸次ニ之ヲ加フヘシ



四 要部ノ變形ハ之ヲ測定スヘシ

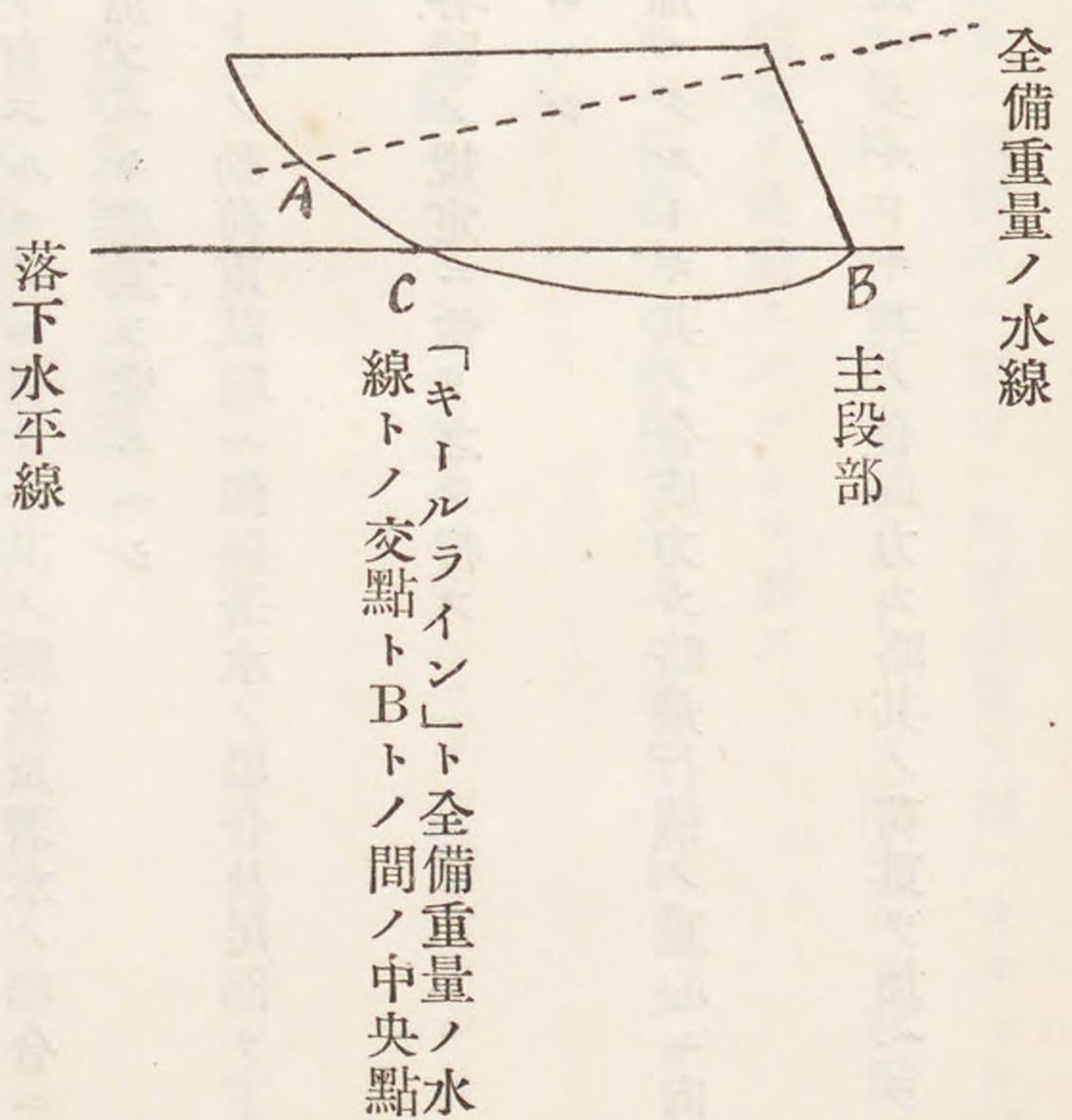
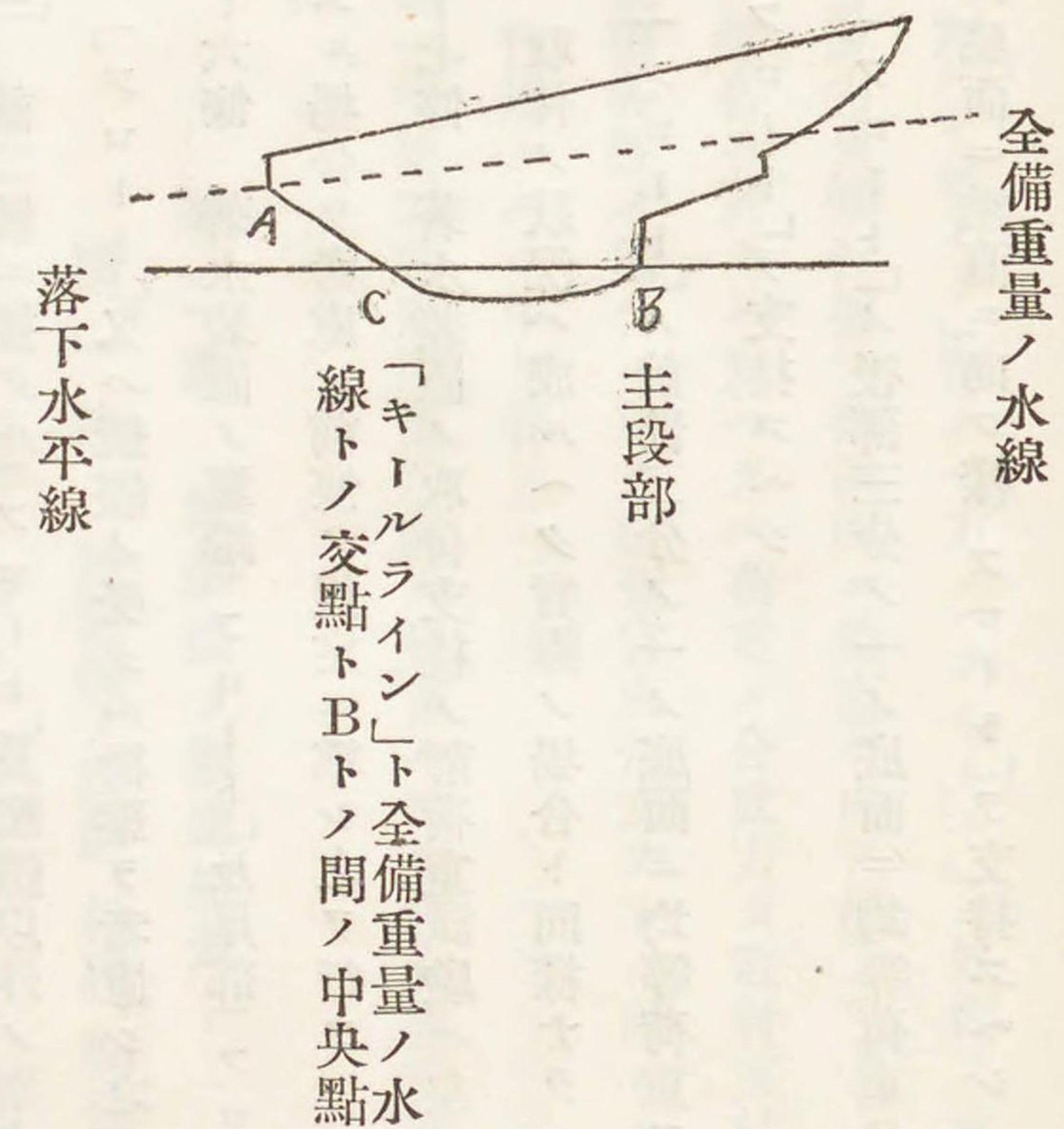
第七十四條 著陸装置ノ脚部ノ動荷重試験ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

- 一 飛行機ノ全備重量ニ等シキ荷重ヲ脚部ニ固著スヘシ
- 二 飛行機カ水平ニ落下スル場合ニ於ケル脚部ノ姿勢ト同一ノ姿勢ヲ以テ一定ノ高度ヨリ脚部ヲ落下セシメ逐次其ノ落下ノ高度ヲ増加シ破壊試験ニ於テハ脚部ノ破壊スルニ至ル迄之ヲ繰返スヘシ
- 三 要部ノ變形ハ之ヲ測定スヘシ

第七十五條

著水装置ノ「フロート」「双フロート」型ノモノ及艇體ノ動荷重試験ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

- 一 「フロート」又ハ艇體ニ成ルヘク實際ニ使用スル場合ト同様ナル状態ニテ荷重ヲ固著スヘシ
  - 二 飛行機カ最小速度ヲ以テ水平飛行ヲ行フ場合ニ於ケル「フロート」又ハ艇體ノ姿勢ト同一ノ姿勢ヲ以テ「フロート」又ハ艇體ヲ一定ノ高度ヨリ落下セシメ逐次其ノ落下ノ高度ヲ増加シ破壊試験ニ於テハ「フロート」又ハ艇體ノ破壊スルニ至ル迄之ヲ繰返スヘシ
- 検査官吏必要アリト認ムルトキハ「フロート」又ハ艇體ノ對稱面ヲ鉛直ニ保タシメ左圖ニ示スB及Cノ兩點ヲ結フ直線カ水平トナルヘキ姿勢ヲ取ラシメタル上前項ノ試験ヲ行フコトヲ得



三 「フロート」又ハ艇體ニ加フヘキ荷重ノ計算ハ左式ニ依ルヘシ  
I 双「フロート」型ノ「フロート」

$$Q_1 = \frac{1}{2} A - F$$

Q<sub>2</sub> ハ「フロート」ニ加フヘキ全荷重 Kg

A ハ飛行機ノ全備重量 Kg

F ハ「フロート」一箇ノ重量 Kg



(二) 艇體

$$Q_s = A - H$$

Q<sub>s</sub> ハ艇體ニ加フヘキ全荷重 Kg

A ハ飛行機ノ全備重量 Kg

H ハ艇體ノ重量 Kg

(三) 前二號ニ掲クル「フロート」及艇體以外ノ型式ヲ有スルモノニ付テハ其ノ離水及著水ノ場合ニ於テ「フロート」又ハ艇體ノ受クル衝撃ヲ考慮シ之ニ加フヘキ荷重ヲ定ムヘシ

第七十六條 著水装置ノ翼端「フロート」及尾部「フロート」ノ動荷重試験ハ傾斜著水ノ場合及尾部ヲ下ケ著水スル場合ヲ考慮シ前條ノ規定ニ準シ之ヲ行フ

第七十七條 著水装置ノ取付支柱ノ靜荷重試験ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

一 取付ノ狀況ハ成ルヘク實際ノ場合ト同様ナラシムヘシ

二 「フロート」ノ前部三分ノ一ノ底面ニ均等荷重ヲ加ヘタルトキ其ノ合成力カ略飛行機ノ重心ニ向フ様「フロート」ヲ支持スヘシ

三 「フロート」ノ後部三分ノ一ノ底面ニ均等荷重ヲ加ヘタルトキ其ノ合成力カ略其ノ荷重ヲ加ヘラレタル底面ニ垂直ニ向フ様「フロート」ヲ支持スヘシ

四 双「フロート」型ノ一方ノ「フロート」ノ外側ノ水線下ニ相當スル部分ニ均等荷重ヲ加ヘタルトキ其ノ合成力カ飛行機ノ對稱面ニ垂直ニ向フ様「フロート」ヲ支持スヘシ但シ「フロート」ヲ除去シテ試験ヲ行フ場合ニ於テハ加ヘタル荷重ノ合成力カ取付支柱ノ端末ヲ通過スルコトヲ要ス

前項各號ノ場合ニ於テ検査官吏差支ナシト認ムルトキハ相當ナル強度ヲ有スル物件ヲ以テ「フロート」ニ代用スルコトヲ得

第一項第二號乃至第四號ノ規定ハ検査官吏差支ナシト認ムルトキハ其ノ一又ハ二ヲ適用セサルコトヲ得

第二章 發動機ノ製造検査

第一節 發動機ノ設計、材料、部分品、技功及製品ノ検査

第七十八條 發動機ノ設計ノ検査ハ検査申請者ノ提出シタル設計書及設計圖面ニ依リ之ヲ行フ

第七十九條 發動機ノ材料ノ検査ハ別ニ定ムル材料規格ニ依リ之ヲ行フ但シ検査官吏ノ適當ト認ムル材料試験成績書アルトキハ之ニ依リ検査ヲ行フコトヲ得

第八十條 發動機ノ部分品ノ検査ハ左ノ部分品ニ付製造中及仕上後ニ之ヲ行フ

一 氣筒

二 「ピストン」及「ピストンリング」



- 三 連接桿
  - 四 曲軸
  - 五 曲軸室
  - 六 「ヴァルブ」及「ヴァルブギトヤ」
  - 七 「カム」及「カムシャフト」
  - 八 「ピン」及「ボルト」類
  - 九 軸承類
  - 十 各種傳導裝置
  - 十一 各種管類
  - 十二 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル部分品
- 第八十一條 發動機ノ部分品ノ検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ
- 一 材質ノ良否
  - 二 形狀及寸度ノ良否
  - 三 加工及仕上ノ良否
  - 四 抗力及機能ノ良否

五 重量

六 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第八十二條 發動機ノ部分品ノ検査ハ前條ノ規定ニ依ルノ外特ニ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 「ピストンリング」ニ付テハ其ノ張力
  - 二 連接桿ニ付テハ其ノ中央部ニ於ケル「ブリネル」硬度法ニ依ル硬度ノ測定、連接桿ニ嵌入スヘキ軸承ノ良否及連接桿ト曲軸トノ結合ノ良否
  - 三 曲軸ニ付テハ曲柄ノ中央部ニ於ケル「ブリネル」硬度法ニ依ル硬度ノ測定及曲軸ヲ支持スル軸承ノ良否
  - 四 「ヴァルブギトヤ」ニ付テハ各摺動部ニ於ケル遊隙ノ良否
  - 五 「ヴァルブ」ニ付テハ「ヴァルブ」ト「ヴァルブシート」トノ接觸ノ良否
  - 六 管類ニ付テハ管ノ彎曲度、接手及配置方法ノ良否
- 第八十三條 發動機ノ技功ノ検査ハ設計書及設計圖面ト對照シ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ
- 一 各部ノ結合取付ノ良否
  - 二 各部ノ調整ノ良否
  - 三 給油循環ノ良否



四 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第八十四條 發動機ノ製品ノ検査ハ發動機ヲ運轉臺上ニ取付ケ之ヲ運轉セシメタル上左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 震動ノ有無及其ノ状態
  - 二 緩速度及高速度ニテ運轉セシメタル場合ニ於ケル爆發ノ状態
  - 三 供給瓦斯節制作用ノ良否
  - 四 「ヴァルブギイヤ」ノ調整ノ良否
  - 五 點火時期ノ調整ノ良否
  - 六 各部ニ於ケル漏洩ノ状態
  - 七 各部ニ於ケル損傷ノ状態
  - 八 各部ニ於ケル給油ノ状態
  - 九 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項
- 第八十五條 發動機ノ製品ノ検査ハ左ノ各號ノ順序ニ依リ之ヲ行フ
- 一 標準馬力及標準回轉數ニ依ル三十分間ノ運轉
  - 二 標準馬力ノ十分ノ九ノ出馬力及標準回轉數ニ依ル十時間ノ繼續運轉

前項ノ繼續運轉ハ前號ノ運轉終了後三十分間以内ニ之ヲ開始スルコトヲ要ス

三 前號ノ繼續運轉終了後ニ於ケル發動機ノ分解検査

四 標準馬力及標準回轉數ニ依ル三十分間ノ運轉

前項第四號ノ運轉中ニ於テハ發動機ニ供給スル瓦斯量ノミノ制限ニ依リ少クトモ標準回轉數ノ二分ノ

一 迄回轉數ヲ減少シ更ニ其ノ瓦斯量ノミノ増加ニ依リ逐次回轉數ヲ増加シ特ニ左ノ各號ノ事項ニ付検査

ス

一 運轉停止ノ有無

二 供給瓦斯量ニ比例セサル回轉數ノ變化ノ有無

三 三秒間以内ニ於ケル回轉數ノ變化ノ有無

第八十六條 検査官吏ハ發動機ノ型式ニ依リ必要アリト認ムルトキハ前條第一項第二號ノ繼續運轉時間ヲ

短縮スルコトヲ得

第八十七條 發動機ノ製造検査申請者ハ發動機ノ運轉検査中出馬力、回轉數、冷却水ノ溫度、潤滑油ノ溫度並大氣ノ溫度、壓力及濕度ヲ測定シ得ル様相當ノ準備ヲ爲スヘシ  
製造検査ヲ受ケムトスル發動機カ空氣冷却式發動機ナルトキハ検査申請者ハ前項ノ規定ニ依ルノ外飛行中ノ状態ニ近似セシムル爲適當ナル送風装置ヲ設クヘシ



第二節 發動機ノ標準品ノ検査

第一款 通 則

第八十八條 同一型式ノ發動機ヲ多數製造セムトスル場合ニ於テ製造検査ノ申請アリタルトキハ本節ノ規定ニ依リ標準品検査ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ標準品検査ヲ受ケムトスル者ハ製造検査申請書ニ其ノ旨附記スヘシ

第八十九條 發動機ノ標準品検査ニ於テハ本章第七十八條乃至第八十三條ニ規定スル検査ノ外主要運轉検査、分解検査及補助運轉検査ヲ行ヒ其ノ機能、強度及耐久性ヲ檢定ス

前項ノ検査ハ主要運轉検査、分解検査、補助運轉検査ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

第九十條 發動機ノ主要部分ハ標準品検査中如何ナル場合ニ於テモ之ヲ修理シ又ハ取換フルコトヲ得ス

發動機ノ附屬部分ハ標準品検査中左ノ各號ノ期間ニ於テ之ヲ修理シ又ハ取換フルコトヲ得

- 一 主要運轉検査ト分解検査トノ間
- 二 分解検査ト補助運轉検査トノ間
- 三 主要運轉検査中ノ各検査ノ間
- 四 補助運轉検査中ノ各検査ノ間
- 五 主要運轉検査中ノ耐久検査ノ各期検査ノ間

前項ノ修理又ハ取換ハ三時間以内ニ之ヲ終了スルコトヲ要シ内一時間ハ前ノ検査終了直後ノ時間、他ノ二時間ハ次ノ検査開始直前ノ時間トス

第一項及第二項ニ掲クル發動機ノ主要部分及附屬部分ハ發動機ノ型式ニ依リ遞信大臣之ヲ指定ス

第九十一條 發動機ノ標準品検査ノ成績表ハ第三號表ニ依ル

第九十二條 發動機ノ標準品検査申請者ハ検査中左ノ各號ノ事項ヲ測定シ得ル様運轉臺前後ニ十五度ノ傾斜ヲ爲シ得ルモノ冷却

装置、諸計器、燃料測定装置、力量測定装置等ヲ準備スヘシ

- 一 「ブレイキ」又ハ「トルク」ノ反作用ニ依ル出馬力
- 二 發動機ノ回轉數
- 三 冷却水及潤滑油ノ溫度
- 四 冷却水ノ送水量
- 五 燃料及潤滑油ノ消費量
- 六 大氣ノ溫度、壓力及濕度

標準品検査ヲ受ケムトスル發動機カ空氣冷却式發動機ナルトキハ検査申請者ハ前項ノ規定ニ依ルノ外飛行中ノ状態ニ近似セシムル爲適當ナル送風装置ヲ設クヘシ

第九十三條 標準品検査ヲ受ケ之ニ合格シタル發動機ト同一型式ノ發動機ニ付製造検査ノ申請アリタル場



合ニ於テ検査官吏差支ナシト認ムルトキハ本章第一節ニ規定スル製造検査ノ一部ヲ省略スルコトアルヘシ

第二款 主要運轉検査

第九十四條 發動機ノ標準品検査ニ於ケル主要運轉検査ハ發動機ヲ運轉臺上ニ取付ケ之ヲ運轉セシメタル上左ノ各號ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一 第一次出馬力検査 繼續一時間ノ運轉
- 二 耐久検査 繼續十時間ヲ一期トスル五十時間ノ運轉
- 三 第二次出馬力検査 繼續一時間ノ運轉
- 四 高速度検査 繼續三十分間ノ運轉

第九十五條 第一次及第二次ノ出馬力検査ニ於テハ左ノ各號ノ規定ニ依リ發動機ノ標準馬力數ヲ決定ス

- 一 第一次及第二次ノ出馬力數ノ平均出馬力數カ五十馬力未滿ナルトキハ一馬力以下ノ端數ヲ切捨テタル數ヲ以テ其ノ發動機ノ標準馬力數トス
- 二 第一次及第二次ノ出馬力數ノ平均出馬力數カ五十馬力以上二百馬力未滿ナルトキハ一馬力ヨリ五馬力迄ノ端數ハ之ヲ切捨テ五馬力ヨリ九馬力迄ノ端數ハ之ヲ五馬力トシタル數ヲ以テ其ノ發動機ノ標準馬力數トス

三 第一次及第二次ノ出馬力數ノ平均出馬力數カ二百馬力以上ナルトキハ十馬力以下ノ端數ヲ切捨テタル數ヲ以テ其ノ發動機ノ標準馬力數トス

第九十六條 第一次及第二次ノ出馬力検査ニ於テハ發動機ノ毎分ノ平均回轉數ヲ測定シ十以下ノ端數ヲ切捨テタル數ヲ以テ其ノ發動機ノ標準回轉數トス

第九十七條 耐久検査ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

- 一 出馬力數ハ第一次出馬力検査ニ於テ決定シタル出馬力數ノ十分ノ九ニ之ヲ調整スヘシ
  - 二 回轉數ハ第一次出馬力検査ニ於テ決定シタル平均回轉數ニ之ヲ調整スヘシ
- 第九十八條 耐久検査ニ於テハ各期検査ノ實施中發動機ノ運轉ニ支障ヲ生セサルコトヲ要ス但シ運轉開始後五時間ヲ經過シタル以後ニ於テ生シタル十五分間以内ニ調整シ得ヘキ運轉ノ支障ハ此ノ限ニ在ラス

第九十九條 高速度検査ハ發動機ノ標準回轉數ニ少クトモ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル回轉數ニ依リ發動機ヲ運轉シ之ヲ行フ

第三款 分解検査

第一百條 發動機ノ標準品検査ニ於ケル分解検査ハ高速度検査終了後發動機ヲ全部分解シ其ノ主要部分ニ於ケル改造、修理又ハ取換ヲ要スト認メラルル部分ノ有無及損傷ノ程度ニ付之ヲ行フ



検査官吏必要アリト認ムルトキハ第一次出馬力検査終了後、耐久検査終了後及第二次出馬力検査終了後前項ノ規定ニ準シ分解検査ヲ行フコトヲ得

第四款 補助運轉検査

第一百一條 發動機ノ標準品検査ニ於ケル補助運轉検査ハ前條第一項ノ分解検査終了後發動機ヲ運轉臺上ニ取付ケ之ヲ運轉セシメタル上左ノ各號ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一 緩速度運轉検査及加速度運轉検査
- 二 傾斜運轉検査
- 三 牽引荷重又ハ推進荷重ヲ加ヘタル運轉検査

第一百二條 緩速度運轉検査及加速度運轉検査ハ第八十五條第一項第四號及第二項ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

第一百三條 傾斜運轉検査ハ左ノ各號ノ順序ニ依リ之ヲ行フ

- 一 發動機ヲ前方ニ十五度傾斜セシメタル上其ノ回轉數ヲ最少回轉數ヨリ標準回轉數迄變化セシメツ十五分間以上之ヲ運轉ス
- 二 發動機ヲ後方ニ十五度傾斜セシメタル上其ノ回轉數ヲ最少回轉數ヨリ標準回轉數迄變化セシメツ十五分間以上之ヲ運轉ス

第一百四條 牽引荷重又ハ推進荷重ヲ加ヘタル運轉検査ハ飛行中ニ「プロペラ」ヨリ生スル牽引力又ハ推進力カ發動機軸ニ作用スルト同一ノ状態ヲ以テ發動機軸ニ一馬力ニ付ニキログラムノ牽引力又ハ推進力ヲ作用セシメタル上第九十七條及第九十八條ノ規定ニ準シ繼續十時間發動機ヲ運轉シ之ヲ行フ  
前項ノ検査ハ第九十七條ニ規定スル耐久検査ト同時ニ之ヲ行フコトヲ得

第三章 「プロペラ」ノ製造検査

第一節 「プロペラ」ノ設計、材料、部分品、技巧及製品ノ検査

第一百五條 「プロペラ」ノ設計ノ検査ハ検査申請者ノ提出シタル設計書及設計圖面ニ依リ之ヲ行フ

第一百六條 「プロペラ」ノ材料ノ検査ハ別ニ定ムル材料規格ニ依リ之ヲ行フ但シ検査官吏ノ適當ト認ムル材料試験成績書アルトキハ之ニ依リ検査ヲ行フコトヲ得

第一百七條 「プロペラ」ノ部分品ノ検査ハ仕上ヲ完了セル板材及接著劑ニ付膠著前ニ之ヲ行フ

第一百八條 仕上ヲ完了セル板材ハ良好ナル水平方向及垂直方向ノ平衡ヲ保ツコトヲ要ス

第一百九條 「プロペラ」ノ技巧ノ検査ハ設計書及設計圖面ト對照シ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ  
一 仕上ノ良否

二 各部ノ加工ノ良否

第一百十條 「プロペラ」ノ公差標準ハ左表ニ依ル



區	分	公差	
		正	負
直徑		〇、〇「パーセント」	〇、一「パーセント」
相對翅相似點ノ偏位量		一、五「ミリメートル」	一、五「ミリメートル」
「プロペラ」ヨリ「プロペラ」ノ半徑三分ノ一ノ部分迄ノ翅幅		一、〇「パーセント」	一、〇「パーセント」
「プロペラ」ノ尖端ヨリ「プロペラ」ノ半徑三分ノ二ノ部分迄ノ翅幅		〇、五「パーセント」	〇、五「パーセント」
「プロペラ」ヨリ「プロペラ」ノ半徑三分ノ一ノ部分迄ノ翅厚		一、〇「ミリメートル」	一、〇「ミリメートル」
「プロペラ」ノ尖端ヨリ「プロペラ」ノ半徑三分ノ二ノ部分迄ノ翅厚		一、〇「ミリメートル」	一、〇「ミリメートル」
「ピッチ」		一、〇「パーセント」	一、〇「パーセント」
「プロペラ」ノ平衡		一〇〇グラム センチメートル	

第百十一條 「プロペラ」ノ製品ノ検査ハ當該「プロペラ」ヲ使用セムトスル型式ノ發動機ニ之ヲ裝備シ其ノ發動機ノ標準回轉數ニ依リ十五分間其ノ發動機ノ標準回轉數ニ少クトモ其ノ百分ノ五ヲ加ヘタル回轉數ニ依リ三分間之ヲ回轉セシメタル上振動ノ有無ニ付之ヲ行フ

第百十二條 「プロペラ」ノ回轉數ハ全備重量ヲ搭載シタル飛行機ニ之ヲ裝備シ其ノ飛行機カ最大速度ニテ

飛行スル場合ニ於テ其ノ誤差カ正負五「パーセント」以内ナルコトヲ要ス

第二節 「プロペラ」ノ標準品ノ検査

第百十三條 同一型式ノ「プロペラ」ヲ多數製造セムトスル場合ニ於テ製造検査ノ申請アリタルトキハ本節ノ規定ニ依リ標準品検査ヲ行フコトアルヘシ

前項ノ規定ニ依リ標準品検査ヲ受ケムトスル者ハ製造検査申請書ニ其ノ旨附記スヘシ

第百十四條 「プロペラ」ノ標準品検査ハ本章第一節ニ規定スル検査ノ外當該「プロペラ」ヲ使用セムトスル型式ノ發動機ニ之ヲ裝備シ其ノ發動機ノ標準馬力ニ依リ十時間ノ繼續回轉ヲ行ヒ其ノ強度、變歪ノ有無及損傷ノ程度ニ付之ヲ行フ

第百十五條 標準品検査ヲ受ケ之ニ合格シタル「プロペラ」ト同一型式ノ「プロペラ」ニ付製造検査ノ申請アリタル場合ニ於テ検査官吏差支ナシト認ムルトキハ本章第一節ニ規定スル製造検査ノ一部ヲ省略スルコトアルヘシ

第四章 附屬品ノ製造検査

第一節 附屬品ノ設計、材料、部分品及技功ノ検査

第百十六條 附屬品ノ設計ノ検査ハ検査申請者ノ提出シタル設計書及設計圖面ニ依リ之ヲ行フ

第百十七條 附屬品ノ材料ノ検査ハ別ニ定ムル材料規格ニ依リ之ヲ行フ但シ検査官吏ノ適當ト認ムル材料



試験成績書アルトキハ之ニ依リ検査ヲ行フコトヲ得

第一百八條 附屬品ノ部分品ノ検査ハ製造中及仕上後左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 材質ノ良否

二 形狀及寸度ノ良否

三 加工及仕上ノ良否

四 重量

五 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第一百九條 附屬品ノ技功ノ検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

一 各部結合ノ良否

二 各取付部ノ良否

三 各部ノ調整ノ良否

四 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第二節 附屬品ノ製品検査

第一款 高度計

第二十條 高度計ノ検査ハ壓力試験及耐振試験ニ依リ之ヲ行フ

第二十一條 壓力試験ハ高度計ヲ真空房中ニ置キ二分間ニ付千メートルノ割合ニテ上昇又ハ下降スル場

合ト同一狀況ニ在ル様氣壓ヲ増減シ水銀氣壓計中央氣象臺ニ於テ甲種ノ檢定ヲ受ケタルモノト比較シ之ヲ行フ

前項ノ場合ニ於テ高度ト氣壓トノ關係ハ左ノ各號ノ式ニ依ル

一 海面上十一キロメートル未滿ノ高度ノ場合

$$Z = \frac{288}{0.0065} \left\{ 1 - \left( \frac{P}{760} \right)^{\frac{1}{5.2551}} \right\}$$

Zハ高度 m

Pハ重力ノ加速度カ九、八  $\frac{m}{s^2}$ ニ於ケル溫度攝氏零度ノトキノ水銀柱ノ高 mm

二 海面上十一キロメートル以上ノ高度ノ場合

$$Z = 11000 + 14600 \log_{10} \frac{170}{P}$$

Zハ高度 m

Pハ重力ノ加速度カ九、八  $\frac{m}{s^2}$ ニ於ケル溫度攝氏零度ノトキノ水銀柱ノ高 mm

第二十二條 耐振試験ハ振動數毎分千二百回、振幅約二ミリメートルヲ以テ高度計ノ三方向ヲ同時ニ振

動セシメ其ノ影響ヲ試験ス

第二十三條 高度計ノ壓力試験及耐振試験ニ於テハ前二條ノ規定ニ依ルノ外特ニ左ノ各號ノ事項ニ付試

驗ス



- 一 還元發條ノ衰損等ニ因ル指針ノ動搖
- 二 龍頭上部ノ螺子ノ緩解等ニ因ル目盛盤ノ回轉
- 三 指針ノ離脱

第二百二十四條 高度計ノ公差ハ五千メートル未満ノ高度ニ於テハ正負五十メートル、五千メートル以上ノ高度ニ於テハ正負百メートルナルコトヲ要シ地上ニ復歸後ノ器差ハ正五十メートル以内ナルコトヲ要ス

第二款 速度計

第二百二十五條 速度計ノ検査ハ其ノ風受口及指示器ニ付之ヲ行フ

前項ノ風受口ノ検査ハ風洞試験ニ依リ、指示器ノ検査ハ壓力試験及耐振試験ニ依リ之ヲ行フ

第二百二十六條 風受口ノ風洞試験ハ左ノ各號ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

- 一 「ピトー」管式速度計ニ付テハ左式ニ依リ之ヲ檢定ス

$$V = \sqrt{\frac{2gP}{\rho}}$$

V ハ 風速  $m/s$   
 P ハ 壓力  $Kg/cm^2$   
 ρ ハ 空氣密度  $m^3$   
 g ハ 加速度  $9.8 \frac{m}{s^2}$

二 吸氣筒式速度計ニ付テハ正面ヨリ受クル風速ト壓力計ニ受クル負壓トノ關係ニ依リ之ヲ檢定ス

第二百二十七條 「ピトー」管式速度計ニ用フル指示器ノ壓力試験ハ之ニ空氣壓ヲ加ヘ其ノ示度ヲ水柱ノ高ト

比較シ之ヲ行フ

吸氣筒式速度計ニ用フル指示器ノ壓力試験ハ第二百二十一條ニ規定スル高度計ノ壓力試験ニ準シ之ヲ行フ

第二百二十八條 速度計ノ耐振試験ハ第二百二十二條ニ規定スル高度計ノ耐振試験ニ準シ之ヲ行フ

第二百二十九條 速度計ノ目盛ノ公差ハ指示器ノ壓力試験ニ於テハ正負二  $k/m$ 、航空試験ニ於テハ正負十  $k/m$

ナルコトヲ要ス

第三款 羅針盤

第二百三十條 羅針盤ノ検査ハ方位盤ニ依ル偏差ノ試験及羅牌ノ振動試験ニ依リ之ヲ行フ

第二百三十一條 羅針盤ノ偏差ノ試験ハ回轉盤上ニ標準羅針盤ヲ載置シ南北線及東西線ヲ定メ試験品ヲ置換

ヘ標準器ト比較シ之ヲ行フ

第二百三十二條 羅針盤ノ羅牌ノ振動試験ハ磁石棒ニ依リ試験品ニ四十五度又ハ九十度ノ偏倚ヲ生セシメ羅

牌ニ振動ヲ與ヘタル上其ノ振幅、週期、振動回數及靜止ノ位置ヲ測定シ之ヲ行フ

第二百三十三條 羅針盤ノ偏差ノ公差ハ正負一度、羅牌ノ自然傾斜ハ二度以内、羅牌ノ可能傾斜度ハ三十度

以上ナルコトヲ要ス



第四款 壓力計

第三百三十四條 壓力計ノ検査ハ其ノ壓力五  $\frac{\text{Kg}}{\text{cm}^2}$  未滿ノモノニ付テハ水銀柱ト比較シ、五  $\frac{\text{Kg}}{\text{cm}^2}$  以上ノモノニ付テハ壓力計試験器ニ依リ重錘ト比較シ之ヲ行フ

第三百三十五條 壓力計ノ公差ハ一刻度ノ二分ノ一ナルコトヲ要ス

第五款 水溫計

第三百三十六條 水溫計ノ検査ハ水溫計ヲ恒溫水槽中ニ置キ標準水銀寒暖計ト比較シ之ヲ行フ  
検査官吏必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外毎分千二百回ノ割合ヲ以テ二時間水溫計ヲ上下前後左右ニ振動セシメ其ノ影響ヲ検査スルコトヲ得

第三百三十七條 水溫計ノ公差ハ攝氏四十度乃至五十度ニ於テハ正負五度、攝氏五十度乃至百度ニ於テハ正負二度、攝氏百度乃至百十度ニ於テハ正負五度ナルコトヲ要ス

第六款 時計

第三百二十八條 時計ノ検査ハ常溫ニ於テ二十四時間、攝氏五十度ニ於テ一時間及攝氏零度以下二十度ニ於テ一時間時計ヲ恒溫房中ニ置キ標準時計ト比較シ之ヲ行フ

第三百二十九條 時計ノ公差ハ常溫ニ於テハ二十四時間ニ正負五十秒以内、攝氏五十度及攝氏零度以下二十度ニ於テハ毎時正負四秒以内ナルコトヲ要ス

第七款 回轉計

第三百四十條 回轉計ノ検査ハ回轉計試験裝置ニ依リ其ノ回轉數ヲ毎分二百回轉ノ回轉倍數ニ規正シ標準回轉計ト比較シ之ヲ行フ

検査官吏必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外振動機ニ依リ毎分千二百回ノ割合ヲ以テ四時間回轉計ヲ振動セシメ其ノ影響ヲ検査スルコトヲ得

第三百四十一條 回轉計ノ公差ハ毎二百回轉毎ニ正負十ナルコトヲ要ス

第八款 傾斜計

第三百四十二條 對比傾斜計ノ検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 曲管ノ曲率
- 二 感度及敏度
- 三 振動ニ因ル氣泡ノ動搖及分離ノ状態
- 四 膨脹及收縮ニ因ル氣泡ノ大小及變化並液體ノ變色

第九款 燃料裝置

第三百四十三條 燃料裝置ノ検査ハ燃料油槽、發動機ニ附屬セサル燃料油管及其ノ附屬品並「ポンプ」ニ付之ヲ行フ



第四百十四條 燃料装置ハ各種ノ飛行状態ニ於テ燃料槽カ空虚トナル迄給油ヲ繼續シ得ル様装置セラルルコトヲ要ス

第四百十五條 燃料油槽ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 油槽ハ每平方センチメートルニ付〇、三キログラムノ壓力ニ堪ヘ得ルコト
- 二 重力ニ依リ給油スル油槽ハ飛行機カ如何ナル飛行状態ニ在ル場合ニ於テモ氣化器ニ對シ三〇〇ミリメートル以上ノ高差ヲ有スルコト
- 三 燃料油槽ノ出口ニハ二十「メツシユ」以上ノ濾過器ヲ装置スルコト

第四百十六條 發動機ニ附屬セサル燃料油管及其ノ附屬品ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 管類ハ特別ノ場合ヲ除クノ外銅管ヲ用フルコト
  - 二 管ノ接續ハ成ルヘク金屬接手ヲ用フルコト
  - 三 燃料油槽及氣化器ニ近接セル部分ニ一〇〇「メツシユ」以上ノ濾過器及沈澱受ヲ装置スルコト
  - 四 前號ノ濾過器及沈澱受ハ點檢ノ爲容易ニ取外シ得ル様之ヲ裝備スルコト
  - 五 「コック」類ハ操作圓滑ニシテ每平方センチメートルニ付一、五キログラムノ壓力ニ堪ヘ得ルコト
- 第四百十七條 「ポンプ」ニ依リ燃料ヲ供給スル燃料装置ニシテ主「ポンプ」カ機械的ニ操作スルモノニ在リテハ主「ポンプ」ノ外飛行中容易且確實ニ操作シ得ル手働「ポンプ」ヲ裝備スヘシ

第四百十八條 壓力ニ依リ燃料ヲ直接氣化器ニ供給スル爲使用セラルル「ポンプ」ニ付テハ其ノ構造及機能ヲ検査スルノ外之ヲ發動機ニ裝備シ送油量ノ適否、調節ノ良否等ヲ検査ス

第四百十九條 燃料ヲ主油槽其ノ他ヨリ重力槽ニ送り更ニ重力ニ依リ之ヲ氣化器ニ給油スル爲使用セラルル「ポンプ」ニ付テハ其ノ構造及機能ヲ検査スルノ外之ヲ發動機ニ裝備シ送油量ノ適否、調節ノ良否竝「オートパイプ」及「フロイゲージ」ノ機能ヲ検査ス

第十款 氣化器

第四百五十條 氣化器ノ検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 浮罐ノ重量及機能
  - 二 浮罐室ノ針辨ノ機能
  - 三 浮罐室ノ針辨ト浮罐トノ調節部ノ構造及其ノ機能
  - 四 油面ノ調節作用部ノ構造及機能浮罐ヲ有セサルモノニ限ル
  - 五 噴口ノ寸度及三百ミリメートル以上ノ水頭ニ於ケル燃料ノ流出量
  - 六 高度調節機能
- 前項第六號ノ高度調節機能ハ氣化器ヲ適當ナル發動機ニ裝備シ地上ニ於テ高度調節ヲ行ヒ其ノ回轉數ノ減少ノ程度ヲ測定シ之ヲ検査ス



第十一款 潤滑油装置

第一百五十一條 潤滑油装置ノ検査ハ油槽、油冷却器並發動機ニ附属セサル油管及其ノ附属品ニ付之ヲ行フ  
第一百五十二條 潤滑油ノ装置ハ各種飛行状態ニ於テ油槽カ空虚トナル迄給油ヲ繼續シ得ル様装置セラルル  
コトヲ要ス

第一百五十三條 油槽ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 油槽ハ每平方センチメートルニ付〇、五五キログラムノ壓力ニ堪ヘ得ルコト
- 二 油槽ハ「オイルポンプ」ニ對シ成ルヘク十ミリメートル以上ノ油壓差ヲ有スルコト
- 三 油槽ヲ發動機ト同室内ニ裝備スル場合ニハ其ノ位置ヲ發動機ヨリ下方ナラシムルコト
- 四 油槽ノ出口ニハ二十「メッシュ」以上ノ濾過器ヲ装置スルコト
- 五 前號ノ濾過器ハ點檢ノ爲容易ニ取外シ得ル様之ヲ裝備スルコト

第一百五十四條 油冷却器ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 油冷却器ハ每平方センチメートルニ付〇、五五キログラムノ壓力ニ堪ヘ得ルコト
- 二 油冷却器ハ飛行機カ全備重量ヲ搭載シ最大速度ニ依リ低空飛行ヲ行フ場合ニ於テ發動機ノ潤滑油出口ニ於ケル潤滑油ノ温度カ大氣ノ温度攝氏三十度ノ時攝氏八十度ヲ超過セサルコト

第一百五十五條 發動機ニ附属セサル潤滑油管及其ノ附属品ノ標準規格概ネ左ノ如シ

第十二款 冷却水装置

第一百五十六條 冷却水装置ノ検査ハ冷却器、冷却器補助水槽、温度調節装置及發動機ニ附属セサル水管ニ付之ヲ行フ

第一百五十七條 冷却器ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 冷却器ノ各部ハ每平方センチメートルニ付〇、四キログラムノ壓力ニ堪ヘ得ルコト
- 二 冷却器ハ飛行機カ全備重量ヲ搭載シ最大速度ニ依リ低空飛行ヲ行フ場合ニ於テ冷却器ノ排水口ニ於ケル冷却水ノ温度カ大氣ノ温度攝氏三十度ノトキ攝氏九十度以下、大氣ノ温度攝氏零度以下二十度ノトキ攝氏四十度以上ナルコト
- 三 冷却器ハ修理及點檢容易ニシテ且冷却器中ノ冷却水ヲ完全ニ排出シ得ルコト

第一百五十八條 冷却器補助水槽ハ其ノ各部カ每平方センチメートルニ付〇、四キログラムノ壓力ニ堪ヘ得ルモノナルコトヲ要ス

第一百五十九條 温度調節装置ハ飛行中容易且確實ニ使用シ得ルモノナルコトヲ要ス



第一百六十條 發動機ニ附屬セサル水管ハ每平方センチメートルニ付一キログラムノ壓力ニ堪ヘ得ルモノナルコトヲ要ス

第十三款 着火装置

第一百六十一條 着火装置ノ検査ハ高壓磁石發電機又ハ高電壓ヲ發生スヘキ其ノ他ノ装置及「プラグ」ニ付之ヲ行フ

第一百六十二條 高壓磁石發電機又ハ高電壓ヲ發生スヘキ其ノ他ノ装置ハ之ヲ裝置セムトスル發動機ノ回轉數カ毎分二千百回轉ノ場合ト同一狀況ニ在ル様之ヲ臺上ニ裝置シ且三點放電ニテ其ノ火花間隙ヲ六ミリメートルニ調整シ繼續一時間運轉シタル後異狀ナキモノナルコトヲ要ス

第一百六十三條 「プラグ」ノ検査ハ每平方センチメートルニ付八キログラムノ壓力ヲ有スル空氣房内ニ之ヲ置キ検査官吏ノ指示スル回轉數ニ依リ回轉スル高壓磁石發電機ニ接續シタル場合ニ於テ完全ニ點火シ得ルモノナルコトヲ要ス

第十四款 始動装置

第一百六十四條 飛行機ニ裝備スヘキ始動装置ハ乗員ノミニ依リ安全且容易ニ連續六回以上始動シ得ルモノナルコトヲ要ス

第一百六十五條 始動装置ハ前條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

- 一 手働始動装置ハ操作圓滑ニシテ取扱容易ナルコト
- 二 空氣又ハ壓縮瓦斯ニ依ル始動装置ハ氣密完全ニシテ振動等ニ因リ空氣又ハ瓦斯ヲ漏洩セサルコト
- 三 電氣ニ依ル始動装置ハ接續配線等安全ニシテ短絡又ハ地絡ノ虞ナキコト

第十五款 燈火装置

第一百六十六條 燈火装置ノ検査ハ其ノ構造、光種、射光角度及光達距離ニ付之ヲ行フ

第一百六十七條 燈火装置ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 構造簡單ニシテ輕量ナルコト
- 二 振動ニ因リ電球ノ離脱セサルコト
- 三 振動ニ因リ短絡又ハ斷線ヲ生セサルコト

第一百六十八條 各燈火ノ光種及射光角度ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

- 一 前燈ハ白色光ニシテ射光角度ハ軸線ヲ中央トシテ二二〇度ナルコト
- 二 尾燈ハ白色光ニシテ射光角度ハ軸線ヲ中央トシテ一四〇度ナルコト
- 三 右舷燈ハ綠色光ニシテ射光角度ハ軸線ノ右一一〇度ナルコト
- 四 左舷燈ハ赤色光ニシテ射光角度ハ軸線ノ左一一〇度ナルコト

第一百六十九條 各燈火ノ光達距離ハ大氣清澄ナル暗夜ニ於テ前燈八キログラム以上、尾燈及左右舷燈五



キロメートル以上ナルコトヲ要ス

第十六款 落下傘

第七十條 落下傘ハ成ルヘク輕量且小容積ニシテ自働的ニ展開シ各部ノ作用確實ナルモノナルコトヲ要ス

第七十一條 落下傘ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 落下距離四十メートル以内ニ於テ展開スルコト
- 二 糸目ニ搦ミ又ハ縲レヲ生セサルコト
- 三 落下速力均齊ニシテ且每秒五メートル以内ナルコト
- 四 傘、糸目、中間索、金具及緩衝索ハ輕量且強靱ニシテ充分ナル安全係數ヲ有スルコト
- 五 落下傘ヲ身體ニ結著スル帶ノ構造ハ傘ノ開キタルトキ成ルヘク身體ニ衝動ヲ感セシメス且迅速ニ離脱シ得ルモノナルコト

第十七款 救命胴衣

第七十二條 救命胴衣ノ標準規格概ネ左ノ如シ

- 一 材料ハ「コルク」、「カボック」又ハ検査官吏ニ於テ之ト同等以上ノ效力ヲ有スト認ムルモノナルコト
- 二 大人及小兒ニ兼用シ得ヘク且著用法簡易ニシテ前後表裏轉用シ得ルコト

- 三 救命胴衣ヲ著用シタルトキ水中ニ於テ身體ヲ略直立セシメ且頭部ヲ水面ニ露出セシメ得ルコト
- 四 六、五キログラムノ重量ヲ附シ淡水中ニ四十八時間放置シタル後十五キログラムノ重量ヲ附シ浮ヒ得ルコト

第三編 飛行機ノ特別検査、定期検査及臨時検査

第一章 飛行機ノ特別検査

第七十三條 飛行機ノ機體ノ特別検査ハ翼類、胴體、降著装置、操縦装置及艇體ニ付製造後ノ經過年月、保存ノ状態等ヲ考慮シ製造検査ニ準シ之ヲ行フ

第七十四條 翼類ノ特別検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 主翼ノ迎角、翼取付角及翼間隔ノ現狀
- 二 布其ノ他ノ被覆ノ現狀
- 三 塗施ノ現狀
- 四 張線、張索、編線線帶、管帶、「タインバックル」等ノ現狀
- 五 支柱及支柱取付金具ノ現狀
- 六 發動機ヲ主翼ニ裝備シタルモノニ在リテハ其ノ取付装置ノ構造及現狀
- 七 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項



第七十五條 胴體ノ特別検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 發動機架ノ構造及現狀
- 二 乗員室、旅客室及貨物室ノ構造及現狀
- 三 框、縦通材、横骨及其ノ取付金具ノ現狀
- 四 張線、張索、編線線帶、管帶、「ターインバックル」等ノ現狀
- 五 布其ノ他ノ被覆ノ現狀
- 六 尾部架構ノ構造及現狀
- 七 「ボンネット」ノ現狀
- 八 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第七十六條 降著装置ノ特別検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 脚部ノ構造及現狀
- 二 車輪又ハ之ニ代ルヘキ装置ノ構造及現狀
- 三 尾橈ノ構造及現狀
- 四 緩衝装置ノ構造、機能及現狀
- 五 「フロート」ノ構造及現狀

第六 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第七十七條 操縦装置ノ特別検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付製造検査ニ準シ之ヲ行フ

- 一 操縦索ノ現狀
- 二 操縦傳導装置ノ構造、機能及現狀
- 三 補助翼、昇降舵並方向舵ノ取付及取付金具ノ現狀
- 四 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第七十八條 艇體ノ特別検査ニ付テハ第七十五條及第七十六條ノ規定ヲ準用ス

第七十九條 日本又ハ外國ニ於テ未タ航空ノ用ニ供セラレサル新形式ノ飛行機ノ機體ノ特別検査ニ於テハ第七十三條乃至前條ノ規定ニ依ルノ外第二編第一章第五節ノ規定ニ準シ彈性試験ヲ行ヒ其ノ強度ヲ

檢定ス

検査官吏ハ前項ノ規定ニ依リ難キ事由アリト認ムルトキハ計算ノミニ依リ機體ノ強度ヲ檢定スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該計算ハ使用材料ノ彈性界又ハ破斷界ヲ基礎トシ之ヲ行フヘク且該計算ノ結果ハ如何ナル場合ニ於テモ彈性試験ニ依リ得ラルヘキ安全度ト同等以上ノ安全度ヲ得ルコトヲ要ス

第八十條 機體ノ特別検査ヲ行フ場合ニ於テ検査官吏必要アリト認ムルトキハ其ノ被覆ヲ剝脱セシム

ルコトヲ得



第八十一條 發動機ノ特別検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付製造後ノ經過年月、保存ノ状態等ヲ考慮シ製造検査ニ準シ之ヲ行フ

- 一 氣筒、「ピストン」、連接桿、曲軸、曲軸室、「ヴァルブギア」等ノ構造、機能及現状
- 二 摺動部ノ機能及現状
- 三 嵌合部ノ現状
- 四 軸承類ノ機能及現状
- 五 各結合部ノ取付ノ現状
- 六 各部遊隙ノ現状
- 七 運轉状態

第八十二條 「プロペラ」及附屬品ノ特別検査ハ製造後ノ經過年月、保存ノ状態等ヲ考慮シ製造検査ニ準シ之ヲ行フ

### 第二章 飛行機ノ定期検査及臨時検査

第八十三條 飛行機ノ機體ノ定期検査ハ翼類、胴體、降著装置、操縱装置及艇體ニ付前回検査後ノ使用时间、經歷、保存ノ状態等ヲ考慮シ特別検査ニ準シ之ヲ行フ

第八十四條 發動機、「プロペラ」及附屬品ノ定期検査ハ前回検査後ノ使用时间、經歷、保存ノ状態等ヲ

考慮シ特別検査ニ準シ之ヲ行フ

第八十五條 飛行機ノ臨時検査ハ製造検査及特別検査ニ準シ之ヲ行フ

第八十六條 第八十條ノ規定ハ飛行機ノ機體ノ定期検査及臨時検査ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

### 第四編 飛行機ノ堪航検査

#### 第一章 通 則

第八十七條 飛行機ノ製造検査、特別検査、定期検査及臨時検査ニ於ケル堪航性ノ検査ハ本編ノ規定ニ依リ之ヲ行フ

第八十八條 堪航検査ハ左ノ二種トス

一 地上検査 水上検査ヲ含ム以下同シ

二 航空検査

地上検査ハ地上ニ於テ飛行機ノ整備状態ヲ、航空検査ハ飛行機ヲ飛行セシメ其ノ堪航性ヲ検査ス

第八十九條 堪航検査ハ地上検査、航空検査ノ順序ニ依リ之ヲ行フ地上検査ニ合格セザリシ飛行機ニ付テハ航空検査ヲ行ハス

第九十條 堪航検査ヲ行フ場合ニ於テハ堪航證明書ニ掲ケラルヘキ座席數ニ應スル人員、貨物、油類及冷却水竝一切ノ装備品ヲ飛行機ニ搭載シ其ノ重量ヲ全備重量ニ等シカラシムルコトヲ要ス



前項ノ場合ニ於テ止ムコトヲ得サル事由アルトキハ人員、貨物及裝備品ニ代ヘ之ト同一ノ重量ヲ有スル砂囊其ノ他適當ナル物件ヲ搭載スルコトヲ得此ノ場合ニ於ケル各重量ノ配置ハ成ルヘク實際ノ場合ト同様ナラシムルコトヲ要ス

第九十一條 堪航検査ヲ行フ場合ニ於テハ常備スヘキ計器ノ外自記高度計、自記速度計、自記回轉計及自記溫度計ヲ裝備スルコトヲ要ス

第九十二條 堪航検査ニ於テ検査官吏必要アリト認ムルトキハ溫度及氣壓ヲ標準溫度及標準氣壓ニ換算シ検査成績ヲ算定スルコトヲ得

第二章 地上検査

第九十三條 地上検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 發動機ノ裝著ノ良否
- 二 冷却装置及冷却器補助水槽ノ裝著ノ良否
- 三 油槽及油管ノ裝著ノ良否
- 四 電機系統ノ裝著ノ良否
- 五 計器類ノ裝著ノ良否
- 六 燈火装置ノ裝著ノ良否

七 「プロペラ」ノ裝著ノ良否

八 操縦装置ノ裝著ノ良否

九 各種裝備品ノ裝著ノ良否

十 發動機ノ運轉狀態

十一 重量ノ配置狀態

十二 各運動部相互ノ關係

十三 其ノ他検査官吏ニ於テ必要アリト認ムル事項

第九十四條 地上検査ニ於テハ陸上飛行機ハ前條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

一 飛行機ヲ支持スルコトナク地上ニ靜置シ其ノ全部ノ發動機ヲ始動シタル場合ニ於テモ地上ニ靜止スルコト

二 飛行機ハ滑走中其ノ全部ノ發動機ノ運轉ヲ低速狀態ト爲シタル場合ニ於テ地上ニ靜止スルコト

三 飛行機ニ裝備シタル發動機ノ動力ノミニ依リ靜止狀態ヨリ滑走ヲ開始シ得ルコト

第九十五條 地上検査ニ於テハ水上飛行機ハ第九十三條ノ規定ニ依ルノ外左ノ各號ノ規定ニ適合スルコトヲ要ス

コトヲ要ス



- 一 耐波性良好ナルコト
- 二 風力毎秒十メートル、波高〇、五メートルノ程度ノ水面ニ於ケル離著水、旋回又ハ滑走ヲ容易且確實ニ爲シ得ルコト
- 三 發動機ノ運轉ヲ停止シタル場合ニ於テ風力毎秒十メートル、波高〇、五メートルノ程度ノ水面ニ於テ波浪ノ爲尾部其ノ他ノ部分ヲ毀損セラルルコトナク安全ニ浮泛シ得ルコト

第三章 航空検査

第九十六條 航空検査ハ左ノ各號ノ事項ニ付之ヲ行フ

- 一 離著陸ノ良否
- 二 飛行中ノ安定性及平衡性ノ良否
- 三 操縦性ノ良否
- 四 飛行速力及上昇状態

第九十七條 航空検査ニ於テ飛行場ノ設備、飛行機ノ構造其ノ他ノ事由ニ因リ危険アリト認ムルトキハ検査官吏ハ第九十條ノ規定ニ拘ラス全備重量以下ノ重量ヲ搭載セシメ検査ヲ行フコトヲ得

第九十八條 航空検査ハ検査ヲ行フヘキ飛行場ノ地面上又ハ水面上五メートル乃至十メートルノ高度ニ於ケル風速毎秒二、五メートル未滿ノ場合ニ於テ之ヲ行フ

第九十九條 航空検査ニ於テハ發動機ノ出馬力及回轉數ハ標準馬力及標準回轉數ヲ超過セサルコトヲ要ス

第一百條 第一種陸上飛行機ハ離陸ノ爲滑走ヲ開始セル地點ヨリ六百メートル以内ノ距離ニ於テ高二十メートルノ障碍物ヲ飛越エ且離陸後三分間以内ニ三百六十メートル以上ノ高度ニ達シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二種陸上飛行機ハ離陸ノ爲滑走ヲ開始セル地點ヨリ七百五十メートル以内ノ距離ニ於テ高二十メートルノ障碍物ヲ飛越エ且離陸後三分間以内ニ三百六十メートル以上ノ高度ニ達シ得ルモノナルコトヲ要ス

第一種水上飛行機ハ離水ノ爲滑走ヲ開始セル時刻ヨリ四十五秒間以内ニ高二十メートルノ障碍物ヲ飛越エ且離水後四分間以内ニ三百六十メートル以上ノ高度ニ達シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二種水上飛行機ハ離水ノ爲滑走ヲ開始セル時刻ヨリ一分間以内ニ高二十メートルノ障碍物ヲ飛越エ且離水後四分間以内ニ三百六十メートル以上ノ高度ニ達シ得ルモノナルコトヲ要ス

第一種陸上飛行機ハ著陸ノ際滑走距離四百メートル以内ニ於テ停止シ得ルモノナルコトヲ要ス



第二種水上飛行機ハ著水ノ際滑走距離五百三十メートル以内ニ於テ停止シ得ルモノナルコトヲ要ス  
前各項ノ規定ニ於テ滑走距離トハ飛行機ノ降著装置カ地面又ハ水面ト最初ニ接觸シタル點ヨリ飛行機ノ全ク停止スルニ至リタル迄ノ距離ヲ謂フ

第二百二條 飛行機ハ適宜ノ高度ニ於テ發動機ノ運轉ヲ停止シ約四十メートルノ高度ヨリ滑空飛行ニ依リ著陸又ハ著水シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二百三條 飛行機ノ飛行中ノ縦方向ノ安定性ハ飛行機カ失速状態ニ在ル場合又ハ最大水平速度ニ其ノ百分ノ二十五ヲ加ヘタル速度ヲ以テ下向状態ニ在ル場合ニ於テモ容易ニ通常ノ飛行状態ニ復シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二百四條 飛行機ノ水平飛行中ノ縦方向ノ平衡性ハ左ノ各號ノ規定ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 全馬力ヲ以テ發動機ヲ運轉スル場合ニ於テ飛行機ハ上昇ノ姿勢ヲ採ルコト

二 經濟速度ニ應スル出馬力ヲ以テ發動機ヲ運轉スル場合ニ於テ飛行機ハ水平飛行ヲ繼續スルコト

三 發動機ノ出馬力ヲ逐次遞減スルニ從ヒ下向ノ姿勢ヲ採ルコト

四 發動機ノ運轉ヲ停止セル場合ニ於テ自然ニ滑空飛行ニ移リ且滑空飛行中平衡状態良好ナルコト  
前各號ノ場合ニ於テハ昇降舵ハ之ヲ放置スルモノトス

第二百五條 飛行機ハ飛行中特別ノ注意ヲ要スルコトナク容易ニ直線飛行ヲ繼續シ且滑空飛行中方向舵ヲ

放置スルモ直線飛行ヲ爲シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二百六條 補助翼、昇降舵及方向舵ノ作用ハ經濟速度ニ依リ飛行スル場合ニ於テ中庸ニシテ操作ニ過度ノ力ヲ要スルコトナク輕ク風壓ヲ感スル程度ナルコトヲ要シ且上昇飛行、水平飛行、滑空飛行等各種ノ飛行状態ニ於ケル操作及壓力ノ差異過大ナラサルコトヲ要ス

補助翼、昇降舵及方向舵ハ最低速度ニ依リ飛行スル場合ニ於テモ確實ナル操縦性ヲ有スルコトヲ要ス

第二百七條 飛行機ハ容易ニ且大差ナク左右旋回ヲ行ヒ得ヘク旋回ニ際シ自然ニ旋回方向ニ傾斜シ且横ニヲ生セサルモノナルコトヲ要ス

第二百八條 第三種飛行機ハ垂直旋回、宙返、横轉、錐揉、失速反轉、急反轉等ノ各種ノ飛行ノ全部又ハ一部ヲ容易且確實ニ爲シ得ルモノナルコトヲ要ス

第二百九條 飛行速度ノ検査ハ左ノ二種トス

一 高速力試験

二 經濟速度力試験

高速力試験ハ飛行機ニ裝備セル發動機ノ標準馬力ノ十分ノ九及標準回轉數ニ依リ之ヲ行フ  
經濟速度力試験ハ飛行機ニ裝備セル發動機ノ出馬力ヲ飛行機ノ經濟速度ニ應スル様制限シテ之ヲ行フ

第二百十條 飛行速度力試験ニ於テハ五百メートル以下ノ適宜ノ高度ニ於ケル飛行機ノ低空飛行速度ヲ測定



ス

前項の場合ニ於テ検査官吏必要アリト認ムルトキハ特ニ高度ヲ指定シ飛行速度ヲ測定スルコトヲ得

第二百十一條 飛行速度ノ測定法ハ第四號表三基線速ニ依ル

飛行速度ノ測定法ニ付前項ノ規定ニ依リ難キトキハ第五號表力測定法ニ依ルコトヲ得

飛行速度ノ測定法ニ付前二項ノ規定ニ依リ難キトキハ「ピット」式速度計ニ依ル測定法ニ依ルコトヲ得

第二百十二條 上昇状態ノ検査ニ於テハ高度三千メートル、上昇時間十分間ヲ限度トシ高度千メートル毎

ニ其ノ所要上昇時間ヲ測定ス

第二百十三條 尾翼攻撃角變更装置、「フラップ」、「スロットル」、冷却水、燃料、滑油、冷却水循環装置等

ハ作用完全ニシテ其ノ操作容易且確實ナルモノナルコトヲ要ス

附 則

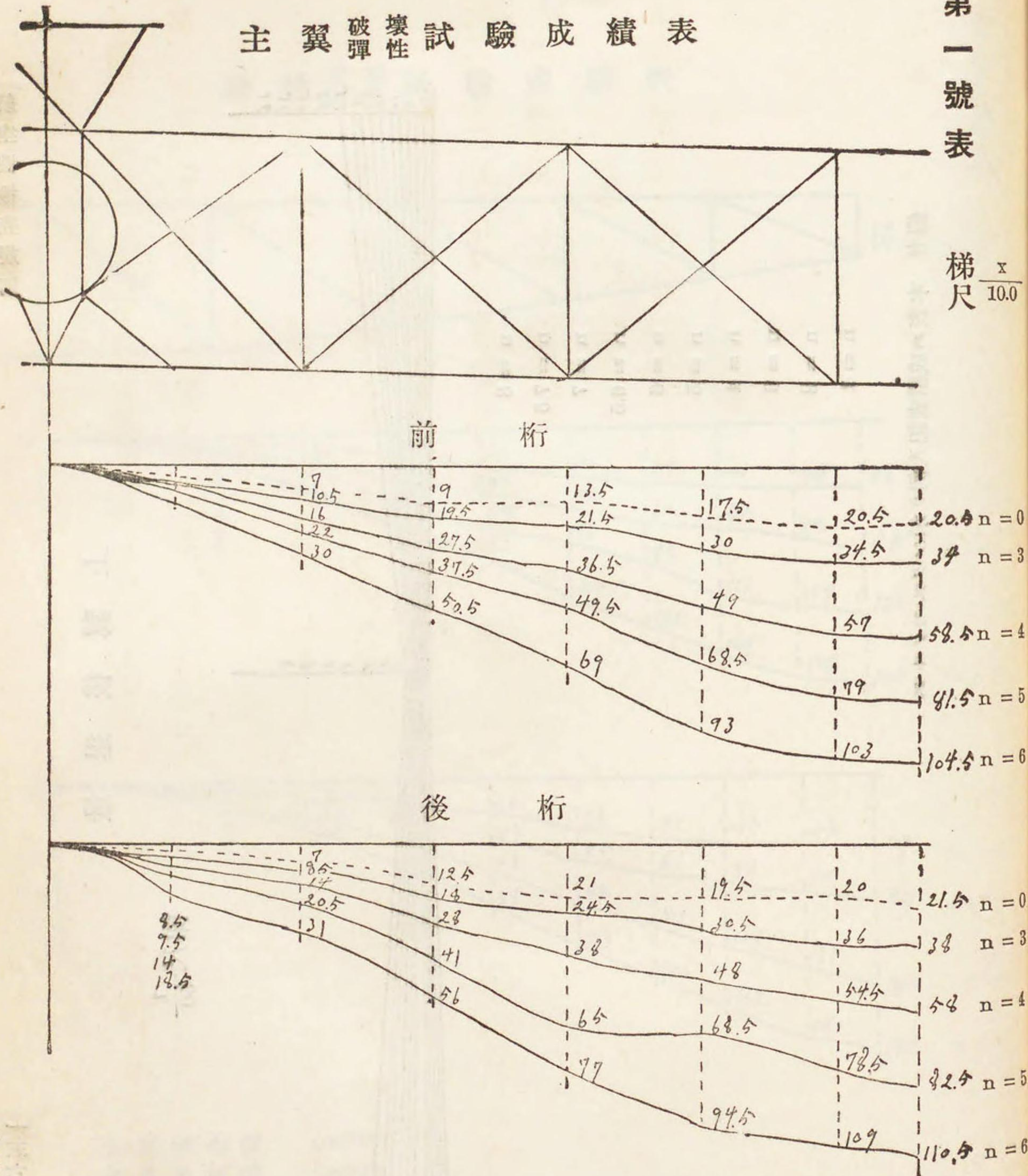
本令ハ航空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號表

梯尺  $\frac{x}{10.0}$

主翼破壊性試験成績表

航空機検査規則

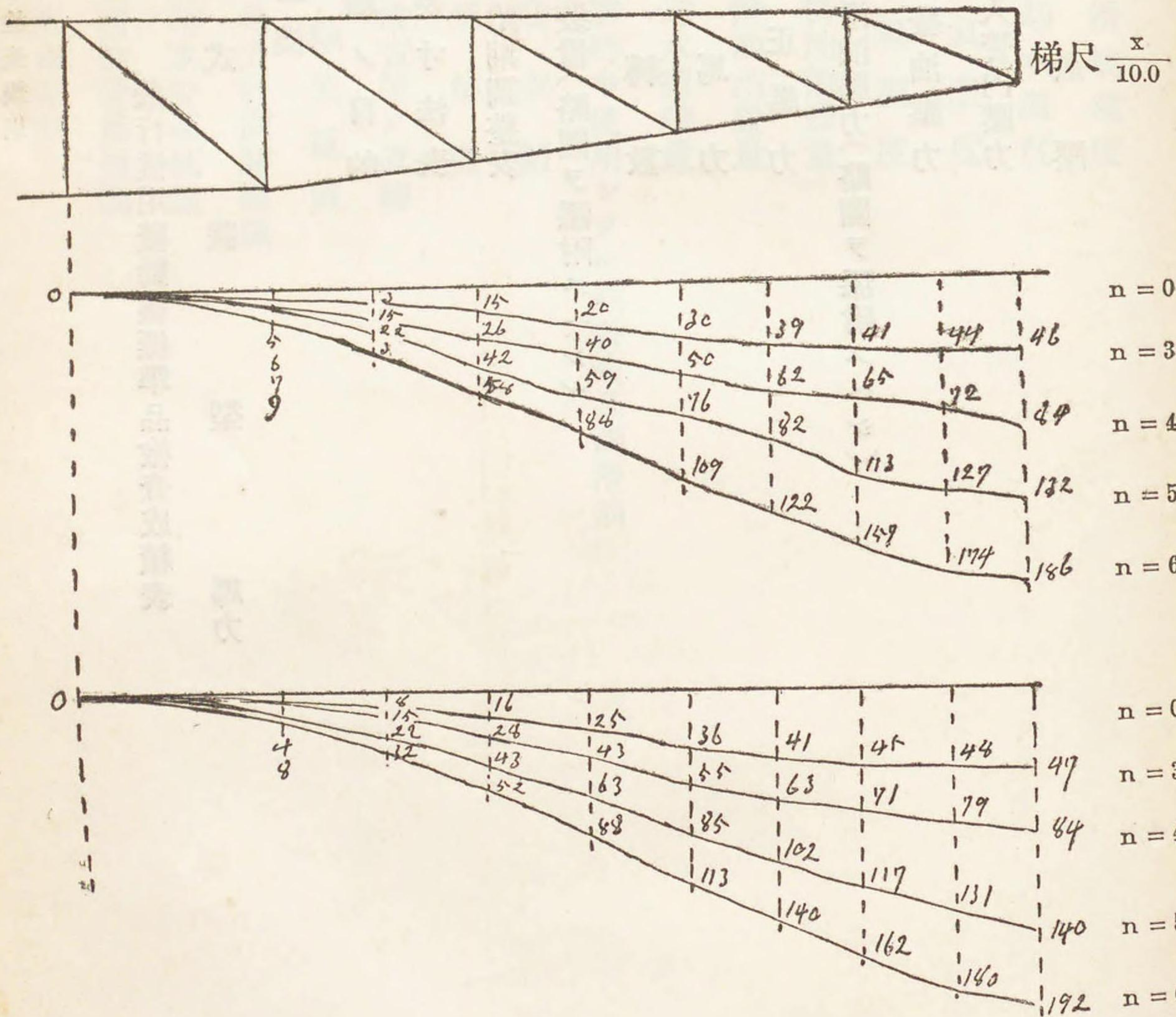


全搭載翼	重量	: 1471Kg
備載重量	: 540Kg	
自重	: 348Kg	
荷重係數	荷重	
n 3	$3 \times (1471 + 540 - 348) - 348 = 4641\text{Kg}$	
n 4	$4 \times (1471 + 540 - 348) - 348 = 6304\text{Kg}$	
n 5	$5 \times (1471 + 540 - 348) - 348 = 7167\text{Kg}$	
n 6	$6 \times (1471 + 540 - 348) - 348 = 9630\text{Kg}$	
戻り量ノ單位ハ耗トス 後退ハ主翼ノ前縁ニ於ケル外端末支柱ノ節點力後退セル耗數トス		



胴體破壞試驗成績表

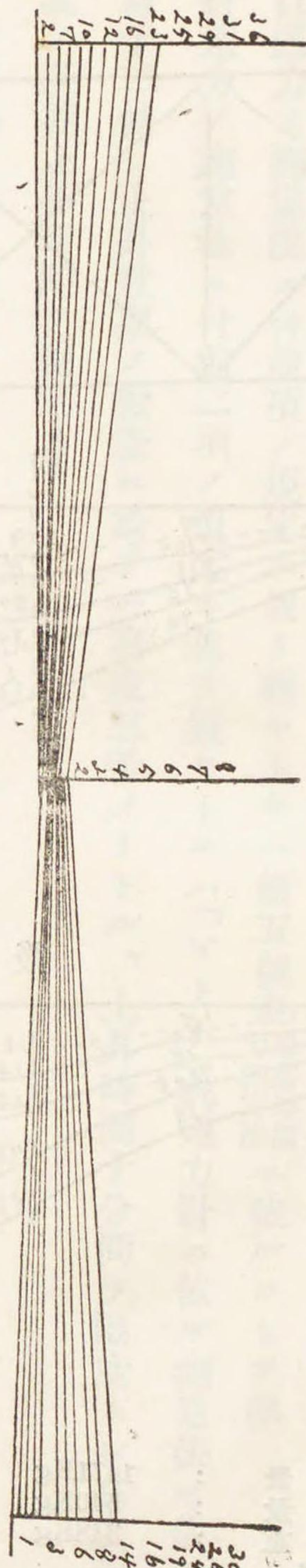
第二號表



安定機面積 1.m<sup>2</sup>52  
 昇降舵面積 1.m<sup>2</sup>45  
 主翼ノ面積荷重  $\frac{P}{S} = 41.Kg6$   
 n=3 124.8 × (1.52 + 1.45) = 370.Kg6  
 n=4 166.4 × (1.52 + 1.45) = 494.Kg2  
 n=5 208.0 × (1.52 + 1.45) = 617.Kg7  
 n=6 249.6 × (1.52 + 1.45) = 741.Kg3  
 屈撓量ノ單位ハ耗トス  
 備考 本表ハ成績表記入例ヲ示シタルモノトス

備考 本表ハ成績表記入例ヲ示シタルモノトス

- n = 8
- n = 7.5
- n = 7
- n = 6.5
- n = 6
- n = 5
- n = 4
- n = 3
- n = 2
- n = 1



上翼後退量

梯尺 1/50



第三號表

飛行機用發動機標準品検査成績表

號發動機	式	號	型	馬力
------	---	---	---	----

- 一 試驗ノ目的
- 二 重要寸法表
- 三 弁開閉期調整表
- 四 試驗裝置(略圖ヲ添附スヘシ)
- (1) 回轉數
- (2) 軸馬力
- (3) 修正馬力
- (4) 潤滑油壓力(略圖ヲ添附スヘシ)
- (5) 揮發油壓力
- (6) 吸入管内壓力
- (7) 大氣壓

軸馬力計測裝置圖  
 冷却水管系統圖  
 潤滑油管系統圖

- 五 試驗成績
- 六 分解検査
- 七 分解検査後ノ運轉

- (8) 潤滑油溫度
- (9) 冷却水溫度
- (10) 大氣溫度
- (11) 大氣濕度
- (12) 燃料油消費量
- (13) 潤滑油消費量
- (14) 冷却水循環量
- (15) 試驗時中使用シタル燃料油及潤滑油



第四號表

三 基線速度測定法

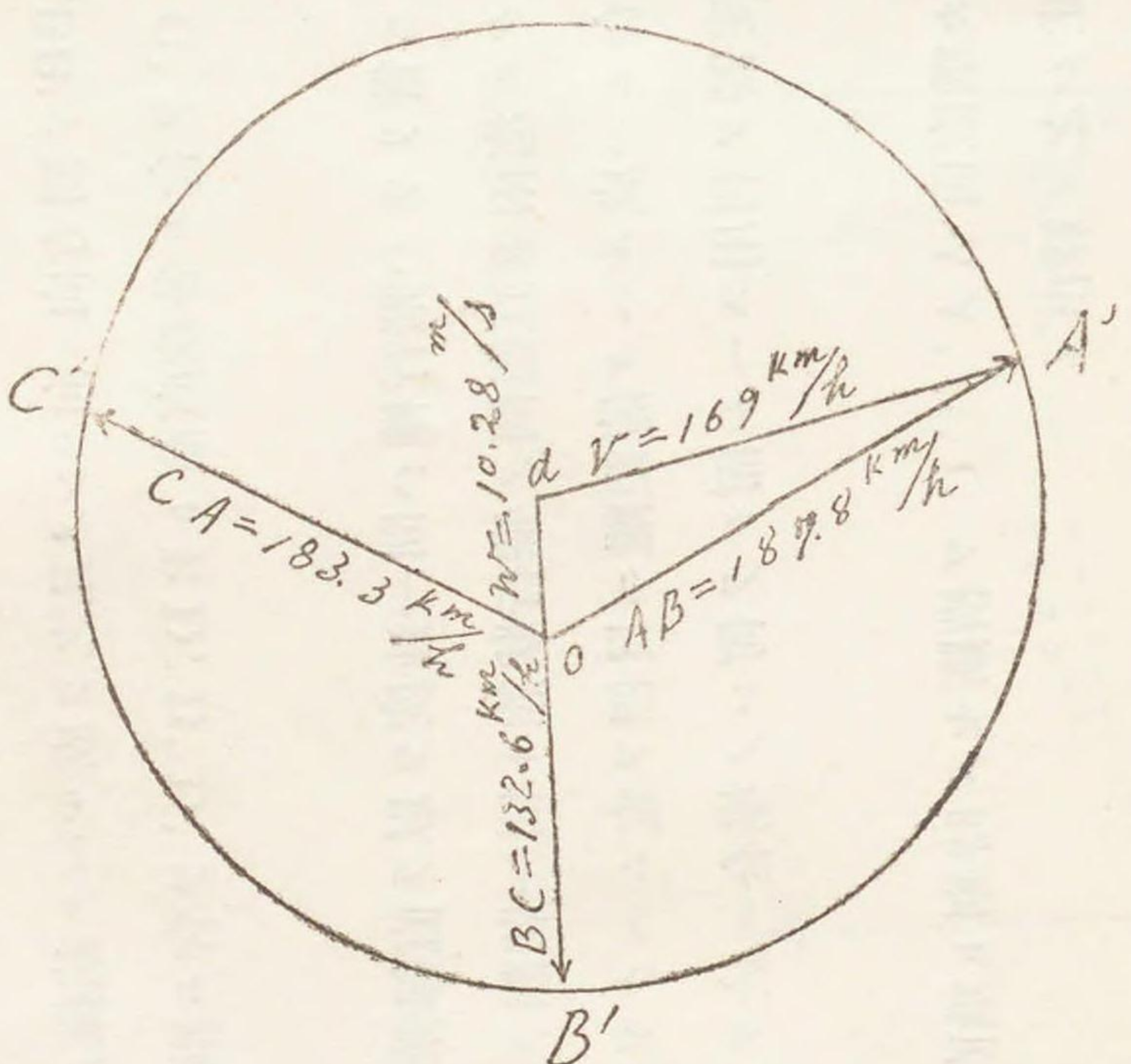
飛行機カA點ヨリB點、B點ヨリC點、C點ヨリA點ニ三角形飛行ヲ行ヒAB、BC、CAノ各區間ノ距離、飛行所要時間及飛行速カラ次ノ通ト假定ス

區間	距離 (km)	飛行時間 (s)	飛行速度 km/h
A B	18.6	366.5	187.8
B C	17.45	474.0	132.6
C A	15.86	311.5	183.3

作圖ニ依リ飛行機ノ真速カラ得ルカ爲ニハ

- (一) 圖上任意ノ點Oヲ選定シ
- (二) OAヲABノ方向ニ且ABト平行ニ飛行速力  $187.8 \frac{\text{km}}{\text{h}}$ ニ等シクトリ
- (三) OBヲBCノ方向ニ且BCト平行ニ飛行速力  $132.6 \frac{\text{km}}{\text{h}}$ ニ等シクトリ
- (四) OCヲCAノ方向ニ且CAト平行ニ飛行速力  $183.3 \frac{\text{km}}{\text{h}}$ ニ等シクトリ

A'B'C'ノ三點ヲ過ル圓ヲ描キ其ノ中心dヲ求ム、然ルトキハ半徑dA'ハ風ノ影響ヲ除去シタル飛行機ノ真速カニシテOdハ飛行中ノ風向及風力ナリ

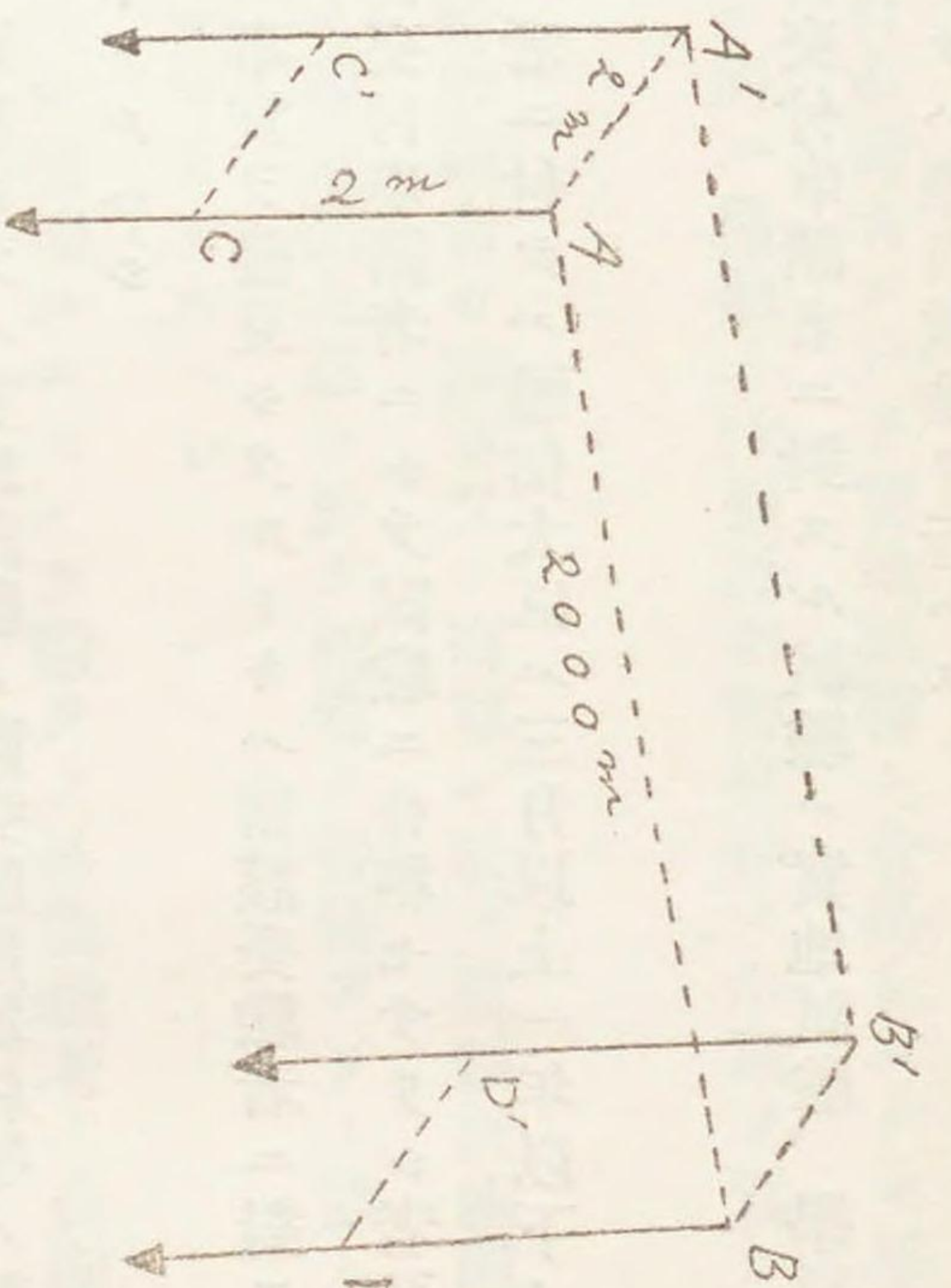


第五號表

單基線速度測定法



- (一) 地上ヨリ約二メートルノ高ニ於テ基點A及Bヲ選ニAB間ノ距離ハ二千メートル以上(成ルヘク三千メートル前後ヲ可トス)ナラシムヘシ
- (二) 糸ヲテAA'C', BB'D'Dナル約二メートル平方ノ相等シキ矩形ヲ作りC, C', D, D'ニ各垂量ヲ垂下シAA', BB'ヲ同方向ニ向ハシメ且之ヲ成ルヘク基線ABニ直角ナラシムル如ク固定スヘシ
- (三) 飛行機ハAC, A'C'ヲ含ム各垂直面トBD, B'D'ヲ含ム垂直面トノ間ヲ基線ABニ平行ニ二往復ノ飛行ヲ爲スヘシ
- (四) 前號ノ飛行ヲ行フニ當リテハ飛行機ハ同一速度ヲ以テ直線飛行ヲ爲シ且各垂直面ヲ横斷シテ五百メートル以上ヲ行過クル迄兩垂直面間ノ飛行状態ト同一状態ヲ以テ飛行ヲ繼續スヘシ
- (五) 直線飛行ヲ行フ場合ニハ成ルヘク遠距離ニ目標ヲ定ムヘク又座席數二以上ヲ有スル飛行機ニ在リテハ成ルヘク偏流測定器ヲ利用スヘシ而シテ何レノ場合ニ於テモ其ノ實航路ヲ基線ABト平行ナラシムル如クスヘシ
- (六) 飛行速力ハ飛行機カ垂直面AA'C'ヲ横斷セル時刻ト垂直面BB'D'Dヲ横斷セル時刻及右兩基點間ノ距離ヲ測定シテ算出ス
- (七) 飛行速力ヲ計算スルニ當リテハ二往復ノ毎回ノ飛行速力ノ平均ヲ算出シ飛行時間ノ平均ヲ以テ算出スヘカラス且風力ノ影響ヲ消滅シ得ル様特ニ顧慮シ計算スヘシ





●航空機乗員試験規則

(昭和二年五月五日  
逓信省令第十號)

第一章 總 則

第一條 逓信大臣航空機乗員技倆證明書交付申請書、航空免狀交付申請書若ハ航空免狀效力擴張申請書ヲ受理シタル場合又ハ航空機乗員ニ對スル臨時検査ニ於テ實地試験若ハ學科試験ヲ行ハムトスルトキハ其ノ日時、場所其ノ他受験ニ必要ナル事項ヲ受験者ニ通知ス

第二條 受験者試験ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ者ニ對スル試験ハ之ヲ停止ス

受験者故ナク試験ニ遅刻シ、缺席シ又ハ實地試験ノ際受験用器材等ノ整備ヲ怠リタルトキハ其ノ者ニ對スル試験ハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

試験終了後第一項ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受験者ニ對スル試験ハ之ヲ無効トス

第三條 航空機乗員技倆證明書交付申請者ニシテ試験ニ合格セサリシ者又ハ前條ノ規定ニ依リ試験ヲ停止セラレ若ハ無効トセラレタル者ニ付テハ逓信大臣ハ三月以上一年以下ノ期間ヲ定メ受験ヲ禁止スルコトアルヘシ

第四條 航空機乗員技倆證明書交付申請者ニ對スル試験ハ實地試験、學科試験ノ順序ニ依リ之ヲ行フ實地試験ニ合格セサリシ者ニ對シテハ學科試験ヲ行ハス

第五條 航空機乗員技倆證明書交付申請者ニシテ實地試験ニ合格シタルモ學科試験ニ合格セサリシ者其ノ實地試験終了ノ日ヨリ一年以内ニ同一種類ノ技倆證明書交付ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テハ實地試験ヲ免除スルコトアルヘシ

第六條 航空機乗員技倆證明書交付申請者カ陸軍又ハ海軍ニ於テ當該技倆證明書ノ交付ヲ受クルニ必要ナル學科及技術ヲ修得シタル者其ノ他逓信大臣ニ於テ相當ノ資格アリト認ムル者ナルトキハ實地試験及學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第七條 試験ニ要スル費用ハ官ニ於テ支出スルモノヲ除クノ外受験者ノ負擔トス

第二章 受験資格

第八條 一等飛行機操縦士、航空船操縦士、航空士又ハ機關士ノ技倆證明書交付申請者ハ年齢滿十九歲以上ノ男子、其ノ他ノ乗員技倆證明書交付申請者ハ年齢滿十七歲以上ノ者ナルコトヲ要ス

第九條 航空機乗員技倆證明書交付申請者ハ別表受験履歴表ニ掲クル履歴ヲ有スル者ナルコトヲ要ス但シ陸軍又ハ海軍ニ於テ當該技倆證明書ノ交付ヲ受クルニ必要ナル學科及技術ヲ修得シタル者其ノ他逓信大臣ニ於テ相當ノ資格アリト認ムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ航空機乗員技倆證明書交付ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス  
一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者



- 二 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者
- 三 其ノ他遞信大臣ニ於テ不適當ト認ムル者

第三章 實地試験

第十一條 二等飛行機操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル實地試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 二千メートル以上ノ高度ニ上昇シタル後約千五百メートルノ高度ニ下降シ發動機ノ運轉ヲ停止シ之ヲ再動スルコトナク著陸又ハ著水シ試験官ノ指定スル地點ヨリ百五十メートル以内ノ距離ニ於テ飛行機ヲ停止スルコト
- 二 二百メートル以下ノ高度ニ於テ陸上又ハ水上ニ接觸スルコトナク五百メートルノ距離ヲ隔ツル二箇ノ柱又ハ浮標ヲ廻リテ各旋回毎ニ二箇ノ柱又ハ浮標ノ一箇ニ到著スル8字形飛行連續五回ノ後左ノ方法ニ依リ著陸又ハ著水スルコト
  - (イ) 遅クモ飛行機ノ陸上又ハ水上ニ接觸スルトキ發動機ノ運轉ヲ停止スルコト
  - (ロ) 出發前受験者ノ定ムル地點ヨリ五十メートル以内ノ距離ニ於テ飛行機ヲ停止スルコト
- 三 出發ノ場所ヨリ約五十キロメートル以上ヲ隔ツル試験官ノ指定スル場所ニ著陸又ハ著水シ更ニ出發ノ場所ニ復歸スル飛行

第十二條 一等飛行機操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル實地試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 二千メートル以上ノ高度ニ於テ連續一時間以上ノ飛行ヲ行ヒ約千五百メートルノ高度ニ下降シ發動機ノ運轉ヲ停止シ之ヲ再動スルコトナク著陸又ハ著水シ試験官ノ指定スル地點ヨリ百五十メートル以内ノ距離ニ於テ飛行機ヲ停止スルコト
- 二 前條第二號ノ科目
- 三 試験官ノ指定スル場所ヲ出發シ同一ノ場所ニ復歸スル三百キロメートル以上ノ距離ノ飛行ヲ同一ノ飛行機ニ依リ八時間以内ニ完了スルコト此ノ場合ニ於テハ途中試験官ノ指定スル場所ニ二回著陸又ハ著水シ且其ノ際飛行機ヲ停止スルコト

四 飛行機機體ノ調整

五 航空機用發動機ノ應急修理

第十三條 曲技飛行實地試験ハ試験官ノ指定スル高度ニ飛行機ヲ上昇セシメタル後錐揉及急反轉竝横轉又ハ宙返等ノ科目ニ付之ヲ行フ

第十四條 航空機機關士技倆證明書交付申請者ニ對スル實地試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 簡單ナル工作法
- 二 航空機用發動機竝其ノ附屬機器ノ分解、手入、組立、取扱及調整
- 三 航空機用發動機ノ應急修理



- 四 航空機機體ノ分解、組立及調整
- 五 航空機機體ノ應急修理

第十五條 航空船操縦士、自由氣球操縦士又ハ航空士ノ技倆證明書若ハ航空免狀ノ交付申請者及航空船操縦士免狀效力擴張申請者ニ對シテハ當分ノ内實地試験ヲ行ハス航空船操縦士、自由氣球操縦士又ハ航空士ニ對スル臨時検査ニ付亦同シ

第十六條 飛行機操縦士免狀效力擴張申請者ニ對シ行フヘキ實地試験、航空免狀交付申請者ニ對シ行フトアルヘキ實地試験及航空機乗員臨時検査ニ於テ行フトアルヘキ實地試験ニ付テハ第十一條乃至第十四條ノ規定ヲ準用ス

#### 第四章 學科試験

- 第十七條 二等飛行機操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ
- 一 飛行機機體ニ關スル一般智識
  - 二 航空機用發動機ニ關スル一般智識
  - 三 航空及氣象ニ關スル初等智識
  - 四 國內航空法規ノ概要
  - 五 國際航空法規ノ概要

第十八條 一等飛行機操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 飛行機ニ對スル空氣抵抗ニ關スル一般智識
- 二 飛行機各部ノ構造及機能、操縦裝置ノ機能並機體ノ組立及調整
- 三 内燃機關ニ關スル一般智識
- 四 航空機用發動機ノ構造、機能、組立、調整及特性ニ關スル一般智識
- 五 航空及氣象ニ關スル一般智識
- 六 國內航空法規
- 七 國際航空法規

第十九條 自由氣球操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 氣體靜力學及氣象ニ關スル初等智識
- 二 氣球及其ノ屬具ニ關スル一般智識
- 三 氣球ノ膨脹、整備及操縦
- 四 國內航空法規ノ概要

第二十條 三等航空船操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 氣體靜力學及氣象ニ關スル初等智識



- 二 航空船ニ使用スル瓦斯竝材料ノ物理的及化學的性質
- 三 航空船ニ關スル一般智識
- 四 空氣中ニ於テ運動スル物體ノ力學的性質
- 五 氣囊ノ膨脹及瓦斯ノ填充
- 六 航空船ノ整備、取扱、管理及操縦
- 七 内燃機關ニ關スル初等智識
- 八 國內航空法規ノ概要
- 九 國際航空法規ノ概要

第二十一條 二等航空船操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ前條ノ科目ニ付三等航空船操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ニ比シ高キ程度ニ於テ之ヲ行フ

第二十二條 一等航空船操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ第二十條ノ科目ニ付二等航空船操縦士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ニ比シ高キ程度ニ於テ之ヲ行フ

第二十三條 二等航空士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 地球ノ形狀 其ノ區劃及區劃ノ記號
- 二 地圖及海圖 見方、使用法及航空ニ使用セラルル諸投影法ノ實際的特質

- 三 地球磁氣 羅針盤ノ構造、用途及調整
- 四 速度ノ三角形ノ要素ヲ測定シ及算定スル機器ノ使用ニ依ル推測航法
- 五 方位測定用無線機ノ指示スル方位ニ依ル航空及必要ナル修正法ノ適用ニ依ル航空機ノ位置決定法
- 六 氣象學 各種氣象觀測ノ原理、航空用氣象報告發表方法、豫報ノ原理竝天氣圖ノ構造及解釋
- 七 國內航空法規ノ概要
- 八 國際航空法規ノ概要

第二十四條 一等航空士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 地球ノ形狀 針路及距離ヲ算出スヘキ各種要素即チ航法ノ數學的算法
- 二 地圖及海圖 航空ニ使用セラルル投影法ノ普通形式ノ構造ノ原理
- 三 潮汐 初等理論及表ノ使用ニ依ル豫測
- 四 天測航法 航空機ノ位置ヲ決定スル各種ノ方法竝其ノ決定用ニ供セラルル表、「ダイアグラム」及機器ノ使用及保存

五 氣象學 前條第六號ノ科目ニ付二等航空士技倆證明書交付申請者ニ對スル學科試験ニ比シ高キ程度ノ智識

六 無線電信及航空機用發動機ノ取扱ニ關スル一般智識



- 七 國內航空法規
- 八 國際航空法規

第二十五條 航空機機關士技術證明書交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 內燃機關ニ關スル一般智識
- 二 航空機用發動機ノ構造、機能、組立、調整及特性ニ關スル一般智識
- 三 航空機用發動機ノ故障ノ原因探究及修正
- 四 航空機ニ對スル空氣抵抗ニ關スル一般智識
- 五 航空機ノ構造、機能、調整及取扱法
- 六 「プロペラ」ノ構造及機能
- 七 航空機用計器ノ構造、機能、調整及取扱法
- 八 航空機用材料及工作法ニ關スル一般智識
- 九 航空機用燃料ニ關スル一般智識
- 十 機燈及信號裝置ノ取扱法
- 十一 國內航空法規ノ概要
- 十二 國際航空法規ノ概要

第二十六條 航空免狀交付申請者ニ對シ行フコトアルヘキ學科試験及航空機乗員臨時検査ニ於テ行フコトアルヘキ學科試験ニ付テハ第十七條乃至前條ノ規定ヲ準用ス

附 則

受 驗 履 歷 表

本令ハ航空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

試 驗 種 類	受 驗 履 歷
二等飛行機操縦士技術證明書交付申請者ニ對スル實地試験	五十時間以上自ラ飛行機ヲ操縦シタルコト但シ内十時間ハ二等飛行機操縦士技術證明書交付申請ノ日ヨリ遡リ一年以内ニ於テ行ヒタルモノナルコト
一等飛行機操縦士技術證明書交付申請者ニ對スル實地試験	二等飛行機操縦士免狀受有後百時間以上自ラ飛行機ヲ操縦シタルコト
自由氣球操縦士技術證明書交付申請者ニ對スル學科試験	自由氣球ニ依リ晝間ニ於テ指導者ノ同乗指導ノ下ニ爲ス航空三回、指導者ノ同乗監督ノ下ニ自ラ操縦スル航空一回及單獨航空一回並晝間ニ於テ單獨航空一回ヲ完了シタルコト尙各回ノ航空ハ二時間以上繼續セルモノナルコト
三等航空船操縦士技術證明書交付申請者ニ對スル學科試験	航空船ニ依リ一時間以上繼續スル航空二十回ヲ完了シタルコト但シ内三回ハ夜間航空、四回ハ航空時間四時間以下ナルトキハ終始、航空時間四時間ヲ超ユルトキハ少クとも四時間指導者ノ同乗監督ノ下ニ自ラ航空船ヲ操縦著陸及ムシタルコト
二等航空船操縦士技術證明書交付申請者ニ對スル學科試験	指導者ノ同乗監督ノ下ニ夜間著陸ヲ以テ終ル百キロメートル以上ノ豫定針路ニ於ケル航空一回ヲ完了シタルコト
一等航空船操縦士技術證明書交付申請者ニ對スル學科試験	三等航空船操縦士免狀受有後四月以上三等航空船操縦士ノ職ヲ執リタルコト及容積六千立方メートル以上ノ航空船ニ搭乗シ指導者ノ同乗監督ノ下ニ航空時間四時間以下ナルトキハ終始、航空時間四時間ヲ超ユルトキハ少クとも四時間自ラ航空船ヲ操縦著陸及ムシタルコト
航空機乗員試験規則	二等航空船操縦士免狀受有後二月以上二等航空船操縦士ノ職ヲ執リタルコト及容積二萬立方メートル以上ノ航空船ニ搭乗シ指導者ノ同乗監督ノ下ニ航空時間四時間以下ナルトキハ終始、航空時間四時間ヲ超ユルトキハ少クとも四時間自ラ航空船ヲ操縦著陸及ムシタルコト



航空機乗員試験規則

科試験	
二等航空士技術證明書交付申請者ニ對スル學科試験	時間自ラ航空船ヲ操縦離陸及著陸ヲ含ムシ五回以上ノ航空ヲ完了シタルコト尙各回ノ航空ハ少クとも一時間繼續シ五回ノ航空ヲ合シ十五時間ニ達スルコト
一等航空士技術證明書交付申請者ニ對スル學科試験	航空機乗員トシテ五十時間以上ノ航空ヲ完了シタルコト
航空機機關士技術證明書交付申請者ニ對スル實地試験	航空機乗員トシテ二百時間以上ノ航空ヲ完了シタルコト但シ内少クとも百時間ハ二等航空士トシテ、十五時間ハ夜間ニ於テ航空ヲ完了シタルコト
備考	二年以上航空機用發動機ノ運轉ニ從事シタルコト

當該技術證明書交付申請ノ日ヨリ遡リ五年ヲ超ユル以前ノ履歴ハ之ヲ本表ニ掲クル履歴トシテ認ムルコトヲ得ス

●航空機乗員體格検査規則

(昭和二年五月五日  
遞信省令第十一號)

- 第一條 遞信大臣航空免狀交付申請書ヲ受理シタル場合又ハ航空機乗員ニ對スル定期検査若ハ臨時検査ニ於テ體格検査ヲ行ハムトスルトキハ其ノ日時、場所其ノ他受檢ニ必要ナル事項ヲ受檢者ニ通知ス
- 第二條 航空免狀交付申請者ハ第一號書式ニ依リ醫師ノ作成シタル體格検査證ヲ申請書ニ添附シ遞信大臣ニ提出スヘシ
- 第三條 遞信大臣航空機乗員ニ對スル定期検査又ハ臨時検査ニ於テ體格検査ヲ行ハムトスル場合ニ於テハ當該受檢者ヲシテ第一號書式ニ依リ醫師ノ作成シタル體格検査證ヲ提出セシムルコトアルヘシ
- 第四條 遞信大臣ハ體格検査證ヲ調査シタル上特ニ體格検査ヲ行フノ必要ナシト認ムルトキハ體格検査證ニ依リ合格又ハ不合格ヲ決定スルコトアルヘシ
- 第五條 航空免狀交付申請者體格検査ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ者ニ對スル體格検査ハ之ヲ停止ス
- 航空免狀交付申請者故ナク體格検査ニ遅刻シ又ハ缺席シタルトキハ其ノ者ニ對スル體格検査ハ之ヲ停止スルコトアルヘシ
- 體格検査終了後第一項ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受檢者ニ對スル體格検査ハ之ヲ無効トス
- 第六條 航空免狀交付申請者ニシテ體格検査ニ合格セザリシ者又ハ前條ノ規定ニ依リ體格検査ヲ停止セラ



レ若ハ無效トセラレタル者ニ付テハ遞信大臣ハ一年以下ノ期間ヲ定メ受檢ヲ禁止スルコトアルヘシ

第七條 體格檢査ニ要スル費用ハ官ニ於テ支出スルモノヲ除クノ外受檢者ノ負擔トス

第八條 二等飛行機操縦士、自由氣球操縦士、二等航空士又ハ航空機機關士ノ免狀ノ交付申請者若ハ受有者體格檢査ノ結果左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルトキハ之ヲ不合格トス

- 一 身長五尺未滿ノ者
- 二 精神病ノ遺傳的素因ヲ有スル者
- 三 精神病、癲癇、「ヒステリー」又ハ閃輝暗點症ノ既往症ヲ有スル者
- 四 慢性酒精中毒者
- 五 器質的腦脊髓疾患又ハ官能性神經系疾患ヲ有スル者
- 六 航空機ノ取扱ニ支障ヲ及ホスコトアルヘキ創傷又ハ先天的若ハ後天的畸形ヲ有スル者
- 七 身體各部ノ發育及能率著シク不均等ナル者
- 八 循環器若ハ呼吸器ニ異常アル者、循環機能若ハ呼吸機能充分ナラサル者又ハ是等臟器ノ機能ニ障害ヲ及ホスヘキ他ノ臟器ノ疾患ヲ有スル者
- 九 各眼ノ矯正視力〇、六未滿ノ者
- 十 光神、色神、視野、調節機、兩眼視機、眼球運動及眼筋平衡ニ障害ヲ有スル者
- 十一 一メートルノ距離ニ於テ呬語ヲ聽取シ得サル者
- 十二 聽能ノ左右不均等ナル者又ハ均衡機能ニ障害ヲ有スル者

十三 鼓膜ニ病的變化ヲ呈シ又ハ歐氏管狹窄ヲ有スル者

十四 咽腔又ハ鼻腔ニ疾患ヲ有スル者

十五 容易ニ眩暈ヲ起スヘキ異常ノ素質ヲ有スル者

十六 感情動搖著シキ者

十七 筋神ノ著シク不敏ナル者

十八 反應時間及認識選擇時間著シク遲延スル者又ハ錯差過大ナル者

十九 心理學的檢査ニ於テ著シキ異常アル者

二十 其ノ他精神上又ハ身體上ノ疾病若ハ缺陷ヲ有シ航空機乗員タルニ適セサル者

第九條 一等飛行機操縦士、航空船操縦士又ハ一等航空士ノ免狀ノ交付申請者若ハ受有者身體檢査ノ結果前條第一號乃至第八號第十號第十二號乃至第二十號及左ノ各號ノ一ニ當該スル者ナルトキハ之ヲ不合格トス

一 各眼ノ裸眼視力一、〇未滿ノ者

二 耳翼面ヨリ一ミリメートルノ距離ニテ地面ニ對シ垂直ニ保持セラルル音又ノC<sup>1</sup>(每秒六十四振動)C<sup>3</sup>(每秒二百五十六振動)及C<sup>7</sup>(每秒四千九十六振動)ニ對シ正常ノ聽覺ヲ有セサル者

第十條 體格檢査執行中不合格ト爲ルヘキ事項ヲ發見シタルトキハ爾後ノ檢査ヲ中止シ不合格ノ決定ヲ爲スコトアルヘシ

附 則

本令ハ航空法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス



第一號書式

體格檢查證

被検査者氏名	遺傳的素因	後天的的畸ハ	身長	呼吸縮張差	循環器	視力	視折機	聽器	鼻	咽	喉	腔	副鼻腔	均衡機	参考事項	検査年月日	検査場所	検査醫師氏住所	印
																メートル	メートル	握力	呼吸器
住被検査者	既往症	手創傷又創ハ	キログラム	胸圍	關節運動	其ノ他ノ内臓	視野	眼筋平衡	氏管	歐氏管	直線運動的	又音	又音	又音	又音	又音	又音	又音	又音
生被年月日者																			

備考 受檢者左記各號ノ一ニ該當スル者ナルトキハ其ノ旨參考事項欄ニ記載スヘシ

- 一 慢性酒精中毒者
- 二 身體各部ノ發育及能率著シク不均等ナル者
- 三 容易ニ眩暈ヲ起スヘキ異常ノ素質ヲ有スル者
- 四 感情動搖著シキ者
- 五 筋神ノ著シク不敏ナル者
- 六 反應時間及認識選擇時間著シク遅延スル者又ハ錯差過大ナル者
- 七 心理學的検査ニ於テ著シキ異常アル者
- 八 其ノ他參考ト爲ルヘキ事項



●三等飛行機操縦士免許規則

(昭和二年五月五日) (逓信省令第十二號)

第一條

三等飛行機操縦士免狀ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ第一號書式ニ依ル申請書ニ戶籍抄本出願當時市町村長又ハ其ノ職務ヲ行フ者ヨリ交付最近撮影シタル寫真半身脱帽二葉、第二號書式ニ依ル履歷書及第三號書式ニ依リ醫師ノ作成シタル體格検査證ヲ添附シ逓信大臣ニ之ヲ提出スヘシ

第二條 逓信大臣前條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ試験ヲ行ヒ之ニ合格シタル者ニ三等飛行機操縦士免狀ヲ交付ス

前項ノ試験ハ之ヲ分チテ體格検査、實地試験及學科試験トス

三等飛行機操縦士免狀ハ第四號書式ニ依ル

第三條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者ハ申請ノ日ヨリ遡リ一年以内ニ十時間以上單獨ニテ飛行機ノ操縦ヲ爲シタル者ナルコトヲ要ス但シ陸軍又ハ海軍ニ於テ三等飛行機操縦士免狀ノ交付ヲ受クルニ必要ナル學科及技術ヲ修得シタル者其ノ他逓信大臣ニ於テ相當ノ資格アリト認ムル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三等飛行機操縦士免狀交付ノ申請ヲ爲スコトヲ得ス  
一 年齡滿十七歲ニ達セサル者  
二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

三 精神病者、聾者、啞者又ハ盲者

四 其ノ他逓信大臣ニ於テ不適當ト認ムル者

第五條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者ニ對スル試験ハ體格検査、實地試験、學科試験ノ順序ニ依リ之ヲ行フ體格検査ニ合格セサリシ者ニ對シテハ實地試験ヲ、實地試験ニ合格セサリシ者ニ對シテハ學科試験ヲ行ハス

第六條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者カ陸軍又ハ海軍ニ於テ三等飛行機操縦士免狀ノ交付ヲ受クルニ必要ナル學科及技術ヲ修得シタル者其ノ他逓信大臣ニ於テ相當ノ資格アリト認ムル者ナルトキハ實地試験及學科試験ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ

第七條 逓信大臣三等飛行機操縦士免狀交付申請者ニ對スル試験ヲ行ハムトスルトキハ其ノ日時、場所其ノ他受験ニ必要ナル事項ヲ受験者ニ通知ス

第八條 受験者試験ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ者ニ對スル試験ハ之ヲ停止ス  
受験者故ナク試験ニ遅刻シ、缺席シ又ハ實地試験ノ際受験用器材等ノ整備ヲ怠リタルトキハ其ノ者ニ對スル試験ハ之ヲ停止スルコトアルヘシ

試験終了後第一項ニ該當スル事實ヲ發見シタルトキハ當該受験者ニ對スル試験ハ之ヲ無効トス

第九條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者ニシテ試験ニ合格セサリシ者又ハ前條ノ規定ニ依リ試験ヲ停止



セラレ若ハ無効トセラレタル者ニ付テハ遞信大臣ハ一年以下ノ期間ヲ定メ受験ヲ禁止スルコトアルヘシ  
第十條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者ニシテ實地試験ニ合格シタルモ學科試験ニ合格セザリシ者其ノ  
實地試験終了ノ日ヨリ一年以内ニ同一ノ申請ヲ爲シタル場合ニ於テハ實地試験ヲ免除スルコトアルヘシ  
第十一條 試験ニ要スル費用ハ官ニ於テ支出スルモノヲ除クノ外受験者ノ負擔トス  
第十二條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者ニ對スル體格検査ハ航空機乘員體格検査規則ニ依ル二等飛行  
機操縦士免狀交付申請者ニ對スル體格検査ニ準シ之ヲ行フ  
遞信大臣體格検査證ヲ調査シタル上必要ナシト認ムルトキハ特ニ體格検査ヲ行ハサルコトアルヘシ

第十三條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者ニ對スル實地試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 千メートルノ高度ニ上昇シタル後發動機ノ運轉ヲ停止スルコトナク著陸又ハ著水シ試験官ノ指定ス  
ル長百五十メートル幅百メートルノ圈内ニ飛行機ヲ停止スルコト
- 二 三百メートル以下ノ高度ニ於テ長徑約千メートルノ8字形旋回飛行連續二回ノ後著陸又ハ著水スルコト
- 三 五百メートルノ高度ニ上昇シタル後發動機ノ運轉ヲ停止シ之ヲ再動スルコトナク旋回下降シ著陸又  
ハ著水スルコト

第十四條 三等飛行機操縦士免狀交付申請者ニ對スル學科試験ハ左ノ科目ニ付之ヲ行フ

- 一 飛行機機體ニ關スル初等智識

二 航空機用發動機ニ關スル初等智識

三 航空及氣象ニ關スル初等智識

四 國內航空法規ノ概要

第十五條 三等飛行機操縦士免狀受有者ハ左ノ各號ノ場所ノ上空ニ限り運送營業ノ爲ニスル場合ヲ除クノ  
外免狀ニ掲クル飛行機ノ操縦ニ從事スルコトヲ得但シ運航ノ爲飛行機操縦士又ハ航空機機關士ノ免狀受  
有者ヲ搭乘セシムル場合ヲ除クノ外他人ヲ同乗セシムルコトヲ得ス

一 飛行場及其ノ周圍五十キロメートル以内ノ場所

二 航空法第二十九條但書及航空法施行規則第百二條ノ規定ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケタル場所及其  
ノ周圍五十キロメートル以内ノ場所

前項第一號ノ飛行場カ公共ノ用ニ供スルモノナルトキハ其ノ上空ニ於ケル飛行ニ付テハ遞信大臣ノ許可  
ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條 三等飛行機操縦士免狀受有者其ノ免狀ニ掲ケサル飛行機ノ操縦ニ從事セムトスルトキハ第五號  
書式ニ依ル三等飛行機操縦士免狀效力擴張申請書ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ  
遞信大臣前項ノ申請書ヲ受理シタルトキハ實地試験ヲ行ヒ申請者之ニ合格シタルトキハ其ノ受有スル免  
狀ニ當該飛行機ノ名稱及免許年月日ヲ記入ス